豊川市

地域福祉に関する市民アンケート
調査結果報告書

令和４年２月

豊川市

目 次

第１章　調査実施の概要

1　調査の目的 1
2　調査について 1
3　回収状況 1
4　報告書の見方について 1
5　回答者の属性 2

第２章　調査実施の概要

1　あなたご自身のことについておたずねします 5
2　地域との関わりや地域に対する意識についておたずねします 16
3　地域での支え合いや福祉への関心についておたずねします 26
4　ボランティア・地域活動についておたずねします 43
5　成年後見制度についておたずねします 51
6　暮らしの中での不安やその相談相手などについておたずねします 59
7　災害時における助け合いについて 67
8　新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化についておたずねします 78
9　これからの地域福祉についておたずねします 83

第３章　自由意見

1　福祉観 97
2　近所付き合い 99
3　町内会 101
4　地域交流・地域活動 103
5　ボランティア 105
6　民生委員 106
7　相談 106

８　高齢者ニーズ..... 108
９　子育てニーズ..... 112
10　障害者サービス..... 115
11　交通・交通マナー..... 116
12　情報提供..... 117
13　生活安全(防犯・防災)..... 118
14　公共施設..... 120
15　行政ニーズ..... 120
16　その他..... 121

資料編　アンケート調査票..... 122

第１章　調査実施の概要

１　調査の目的

市民の皆様に日ごろの生活で感じていることや市政についてのご意見などをお尋ねし、これからの市政のあり方を考えていくにあたっての基礎資料とするため、豊川市民意識調査を実施しました。

２　調査について

（１）調査地域	豊川市全域
（２）調査対象	豊川市内在住の 18 歳以上の 2,000 人
（３）標本数	2,000 人
（４）抽出方法	住民基本台帳から層化無作為抽出
（５）調査方法	配布：郵送、回収：郵送
（６）調査期間	令和３年 11 月１日（月）～12 月 15 日（水）

３　回収状況

	有効回答数（人）	有効回収率（%）
返信数	809	40.5

４　報告書の見方について

調査結果の数値については小数点第２位を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%にならない場合があります。

アンケート項目の性別につきまして、今回の調査では「その他」が０件だったため、省略させていただいています。

帯グラフにおいて、各項目の凡例が複数行にわたって記載されている場合は、次のとおりグラフの左から順番に構成比を割り振っています。

■・・・・①　■・・・・②　■・・・・③　■・・・・④　■・・・・⑤
■・・・・⑥　■・・・・⑦　■・・・・⑧　■・・・・⑨　■・・・・⑩

表において、回答の割合が最も高い項目については濃い網掛け（例：40.0）、次いで２番目に高い項目については薄い網掛け（例：30.0）で表示しています。

5　回答者の属性

（１）性別・年齢別

		回答数(人)	割合（%）
全体		809	100.0
	20代以下	86	10.6
	30代	82	10.1
	40代	119	14.7
	50代	115	14.2
	60代	154	19.0
	70代以上	245	30.3
	無回答	8	1.0
男性合計		355	100.0
	20代以下	38	10.7
	30代	38	10.7
	40代	49	13.8
	50代	52	14.6
	60代	67	18.9
	70代以上	109	30.7
	無回答	2	0.6
女性合計		447	100.0
	20代以下	48	10.7
	30代	44	9.8
	40代	70	15.7
	50代	61	13.6
	60代	87	19.5
	70代以上	136	30.4
	無回答	1	0.2
性別無回答		7	100.0
	20代以下	－	－
	30代	－	－
	40代	－	－
	50代	2	28.6
	60代	－	－
	70代以上	－	－
	無回答	5	71.4

（２）性別・中学校区別

上段:人数 下段:%	合計	東部	南部	中部	西部	代田	金屋
全体	809	117	70	68	77	67	57
	100.0	14.5	8.7	8.4	9.5	8.3	7.0
男性	355	50	27	29	35	29	26
	100.0	14.1	7.6	8.2	9.9	8.2	7.3
女性	447	67	43	39	42	38	31
	100.0	15.0	9.6	8.7	9.4	8.5	6.9
性別無回答	7	－	－	－	－	－	－
	100.0	－	－	－	－	－	－

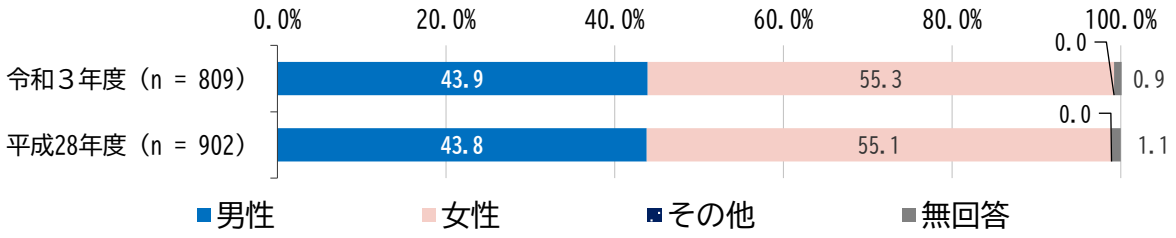
上段:人数 下段:%	一宮	音羽	御津	小坂井	わからない	無回答
全体	72	76	88	76	34	7
	8.9	9.4	10.9	9.4	4.2	0.9
男性	30	35	44	38	12	－
	8.5	9.9	12.4	10.7	3.4	－
女性	41	40	44	38	22	2
	9.2	8.9	9.8	8.5	4.9	0.4
性別無回答	1	1	－	－	－	5
	14.3	14.3	－	－	－	71.4

第２章　調査実施の概要

１　あなたご自身のことについておたずねします

問１　性別を記入してください。（いずれかに○）

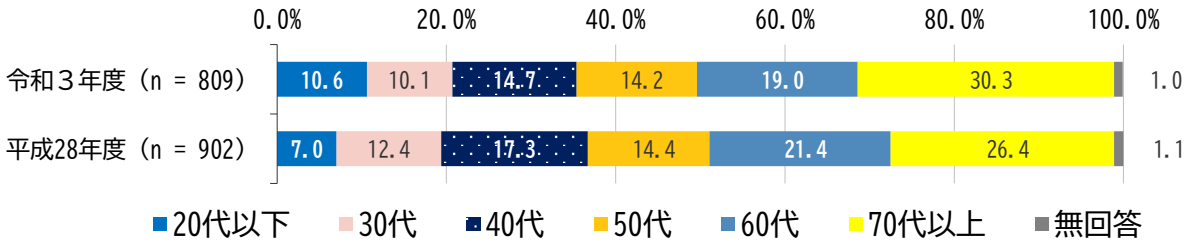
「男性」の割合が 43.9%、「女性」の割合が 55.3%となっています。



問２　年齢はおいくつですか。令和３年11月１日現在でお答えください

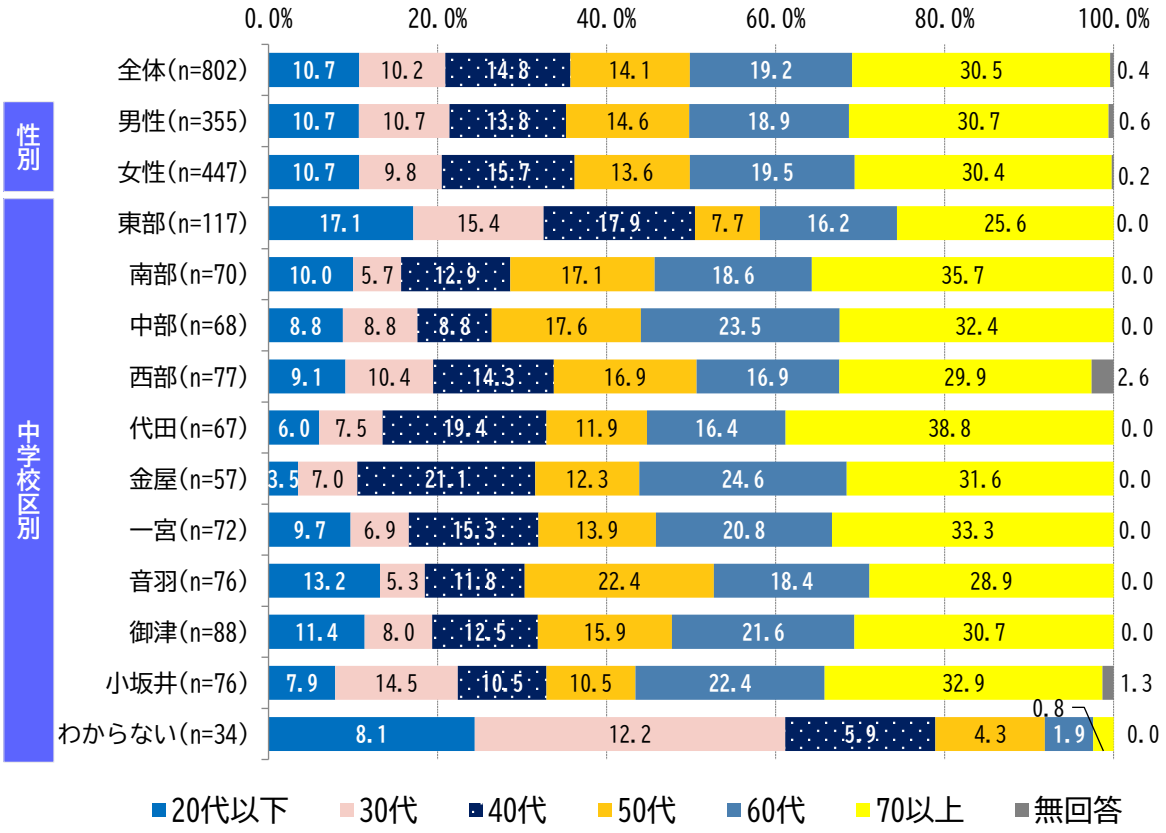
全体では、「70 代以上」の割合が 30.3%と最も高く、次いで「60 代」が 19.0%、「40 代」が 14.7%となっており、60 代以上の割合が５割弱となっています。

平成 28 年度調査との比較では、大きな差異はみられません。



性別では、大きな差異は見られません。

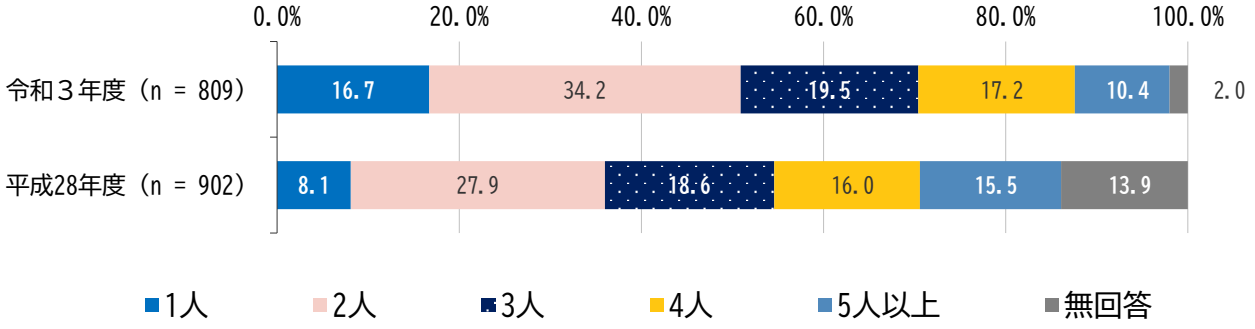
中学校区別では、東部中学校区、西部中学校区、音羽中学校区を除いた、すべての中学校区で 60 代以上の割合が 50%を超えています。



問３　世帯の人数を教えてください。

全体では、「２人」の割合が 34.2%と最も高く、次いで「３人」が 19.5%、「１人」が 17.7%となっています。

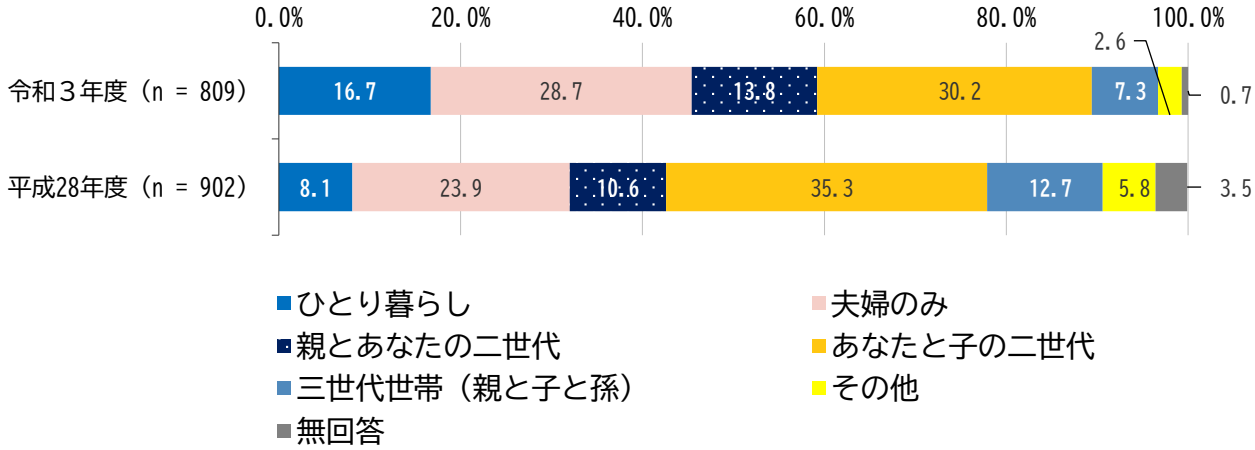
平成 28 年度調査との比較では、「１人」の世帯が二倍に増加しました。



問４　家族構成を教えてください。（○は１つ）

全体では、「あなたと子の二世代」の割合が 30.2%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が 28.7%、「ひとり暮らし」が 16.7%となっています。

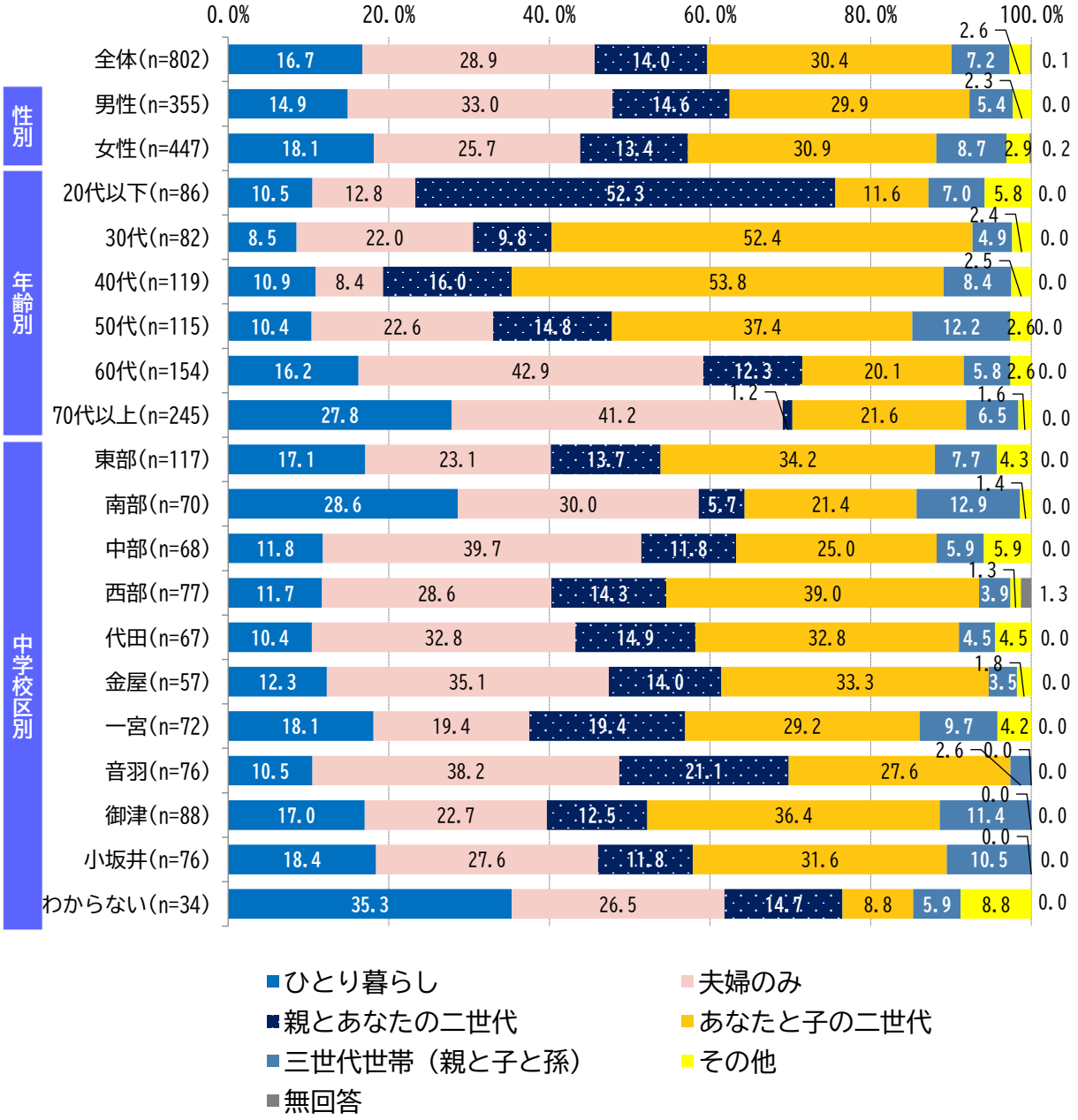
平成 28 年度調査との比較では、「ひとり暮らし」が増加しました。



性別では、女性に比べ、男性で「夫婦のみ」の割合が高くなっています。

年齢別では、70 代以上で「ひとり暮らし」の割合が高くなっています。また、30 代、40 代で「あなたと子の二世代」、60 代、70 代以上で「夫婦のみ」の割合が高くなっています。

中学校区別では、中部中学校区で「夫婦のみ」の割合が特に高くなっています。



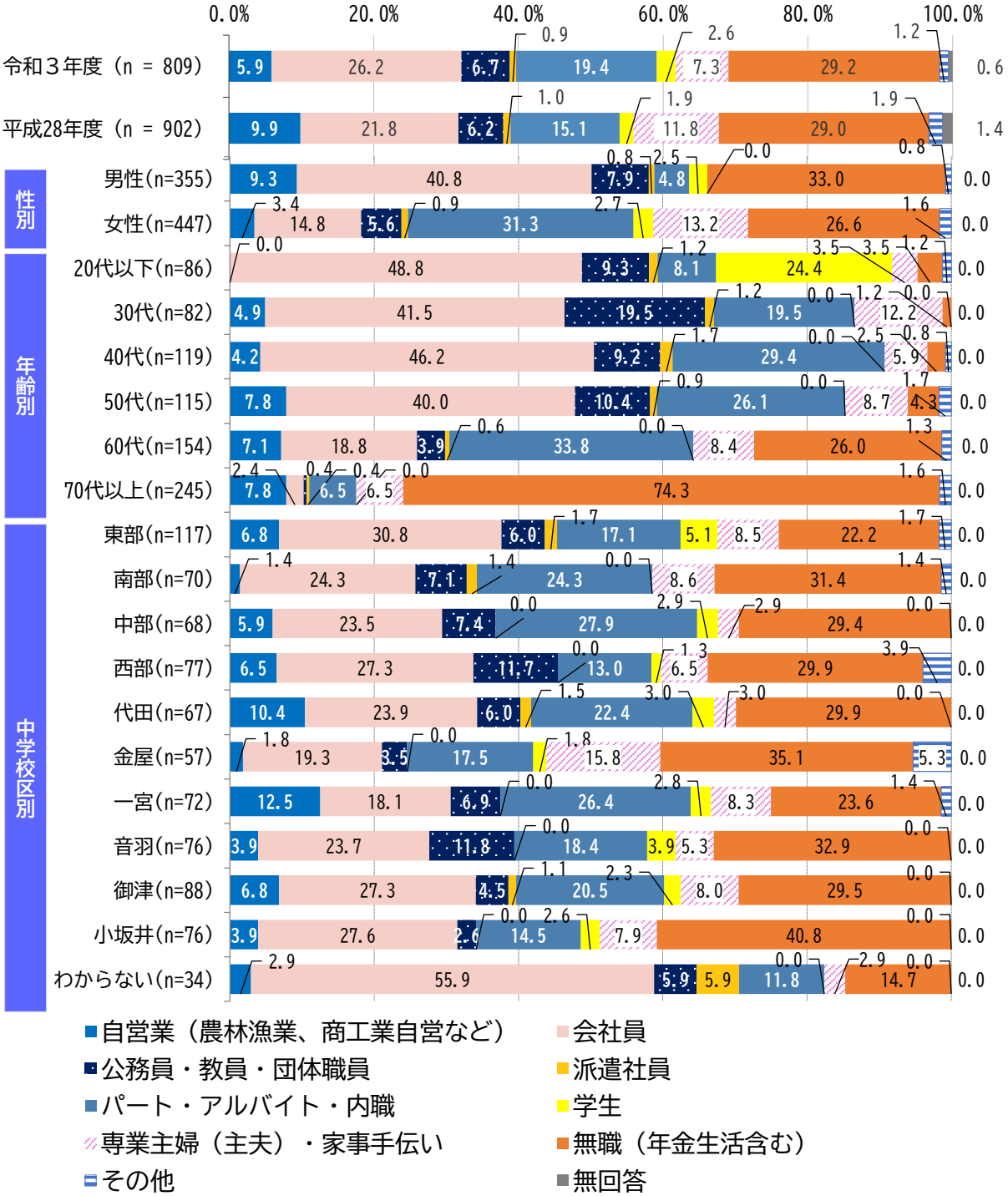
問５　ご職業を教えてください。（○は１つ）

全体では、「無職（年金生活含む）」の割合が 29.2%と最も高く、次いで「会社員」が 26.2%、「パート・アルバイト・内職」が 19.4%となっています。

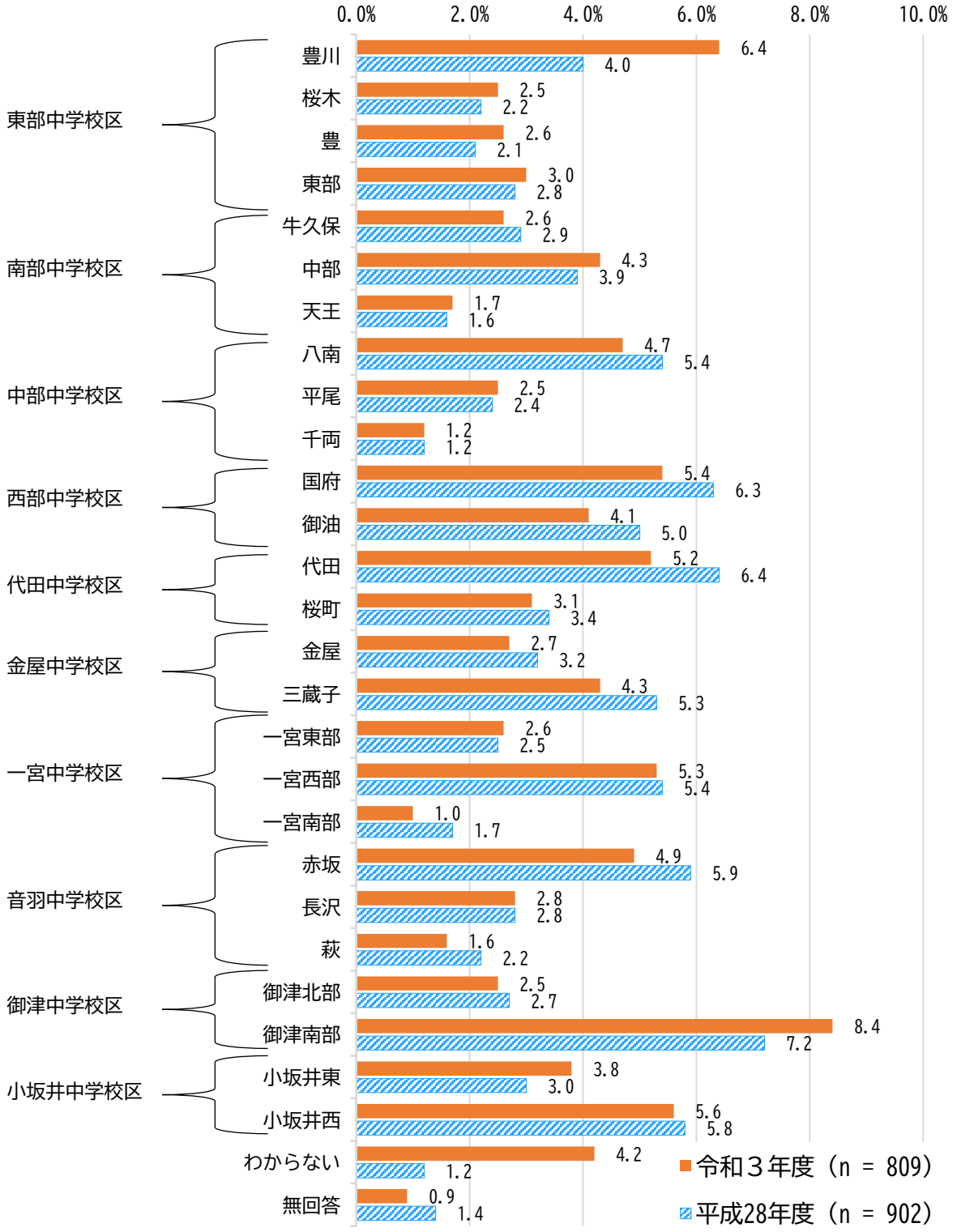
平成 28 年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

性別では、男性で「会社員」の割合が最も高く、女性は「パート・アルバイト・内職」の割合が最も高く、次いで「無職（年金生活含む）」が高くなっています。

中学校区別では、小坂井中学校区、金屋中学校区で「無職（年金生活含む）」の割合が高くなっています。



問６　住んでいる地域（小学校区）はどちらですか。わからない場合は、町名をお書きください。（○は１つ）

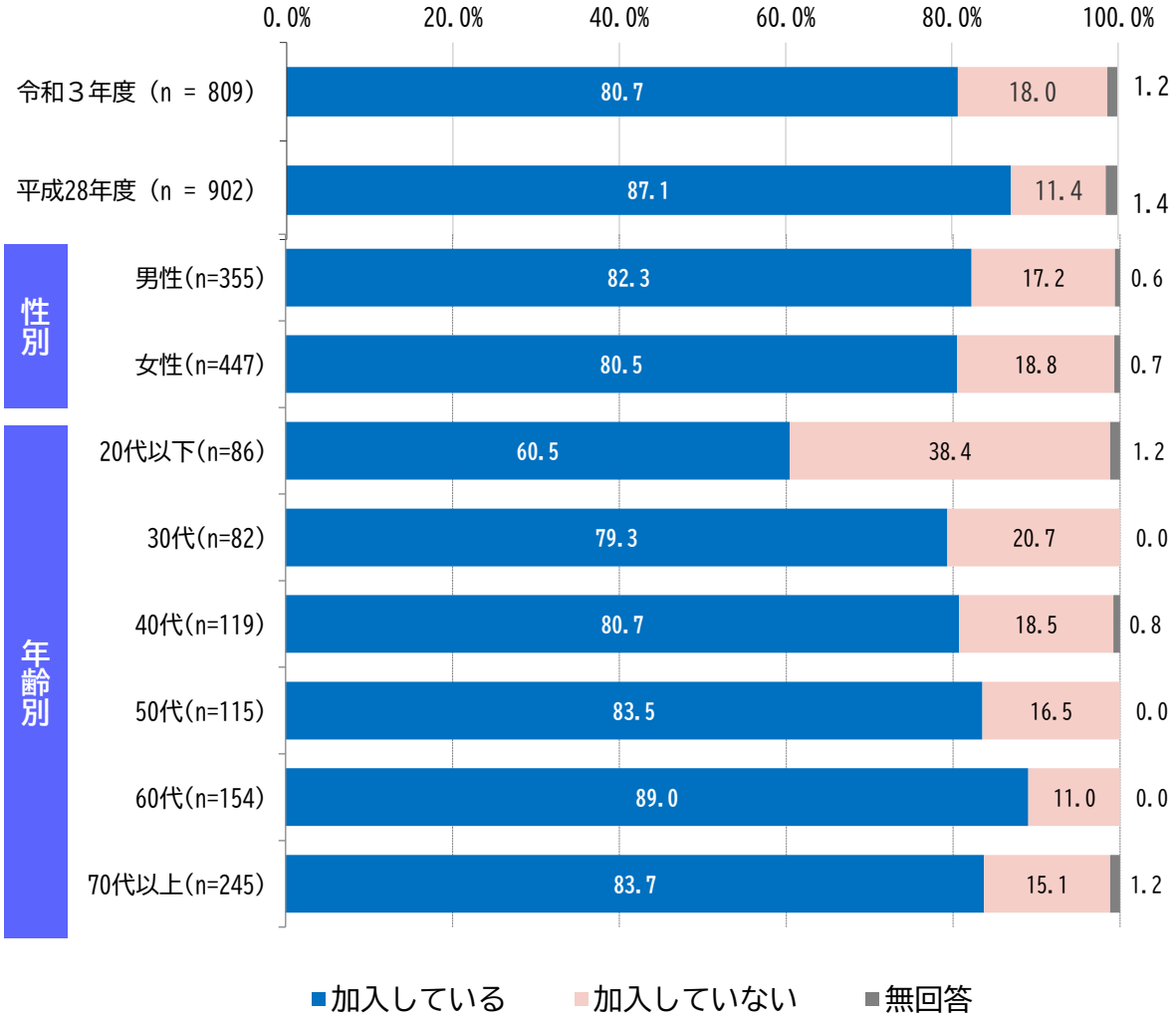


問７　町内会に加入していますか。（どちらかに○）

全体では、「加入している」の割合が 80.7%、「加入していない」の割合が 18.0%となっています。

平成 28 年度調査との比較では、「加入している」の割合が減少しました。

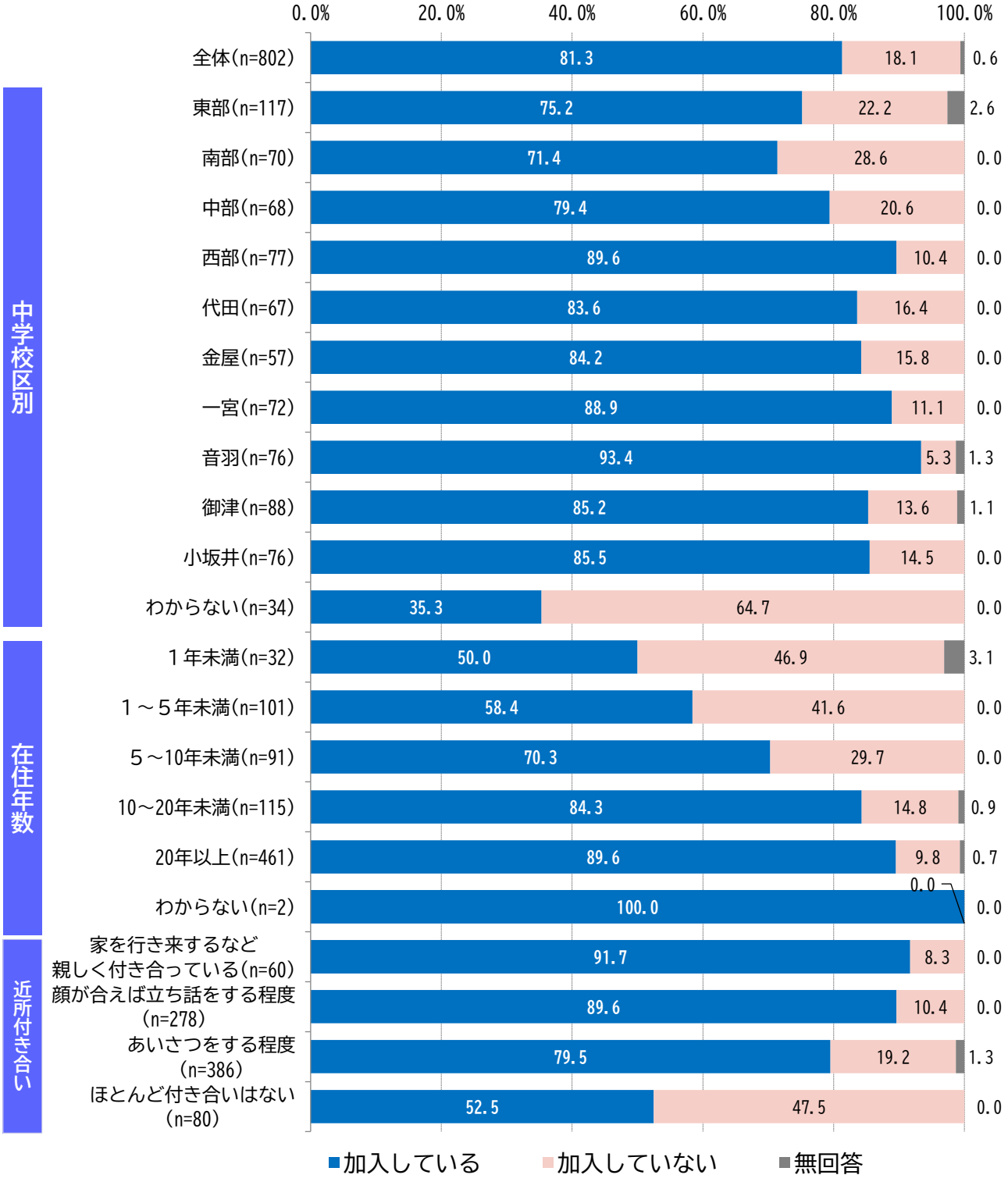
年齢別では、20 代で約４割が「加入していない」と回答しています。また、「加入している」の割合は 70 代以上を除いて、年代が上がるほど高くなり、60 代では 89.0%と最も高くなっています。



中学校区別では、音羽中学校区、西部中学校区、一宮中学校区で「加入している」の割合が高くなっています。

在住年数別では、在住年数が長いほど「加入している」の割合が高くなっています。

近所付き合い別では、「家を行き来するなど親しく付き合っている」で「加入している」の割合が９割を超えていて、近所で親密な付き合いをしているほど町内会の加入率が高くなっていることがうかがえます。



問８　現在の場所に何年ぐらいお住まいですか。（○は１つ）

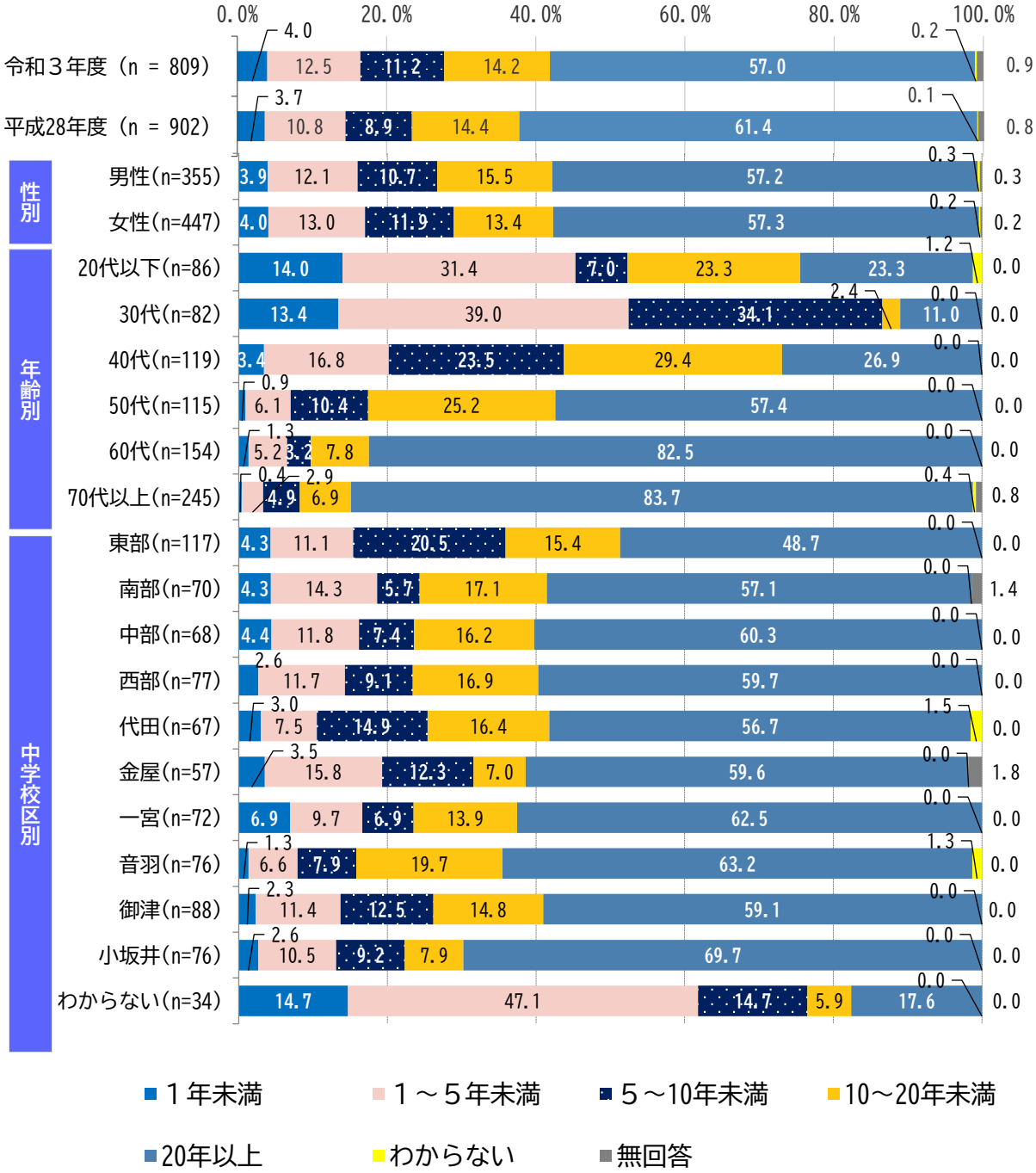
全体では、「20 年以上」の割合が 57.0%と最も高く、次いで「10～20 年未満」が 14.2%、「１～５年未満」が 12.5%となっています。

平成 28 年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、「30 代」の８割の方が居住年数 10 年未満と回答しており、30 代までに、新しい居住地での生活が始まっていることがうかがえます。

中学校区別では、小坂井中学校区、で「20 年以上」の割合が高くなっています。一方、東部中学校区で「20 年以上」の割合が低くなっています。



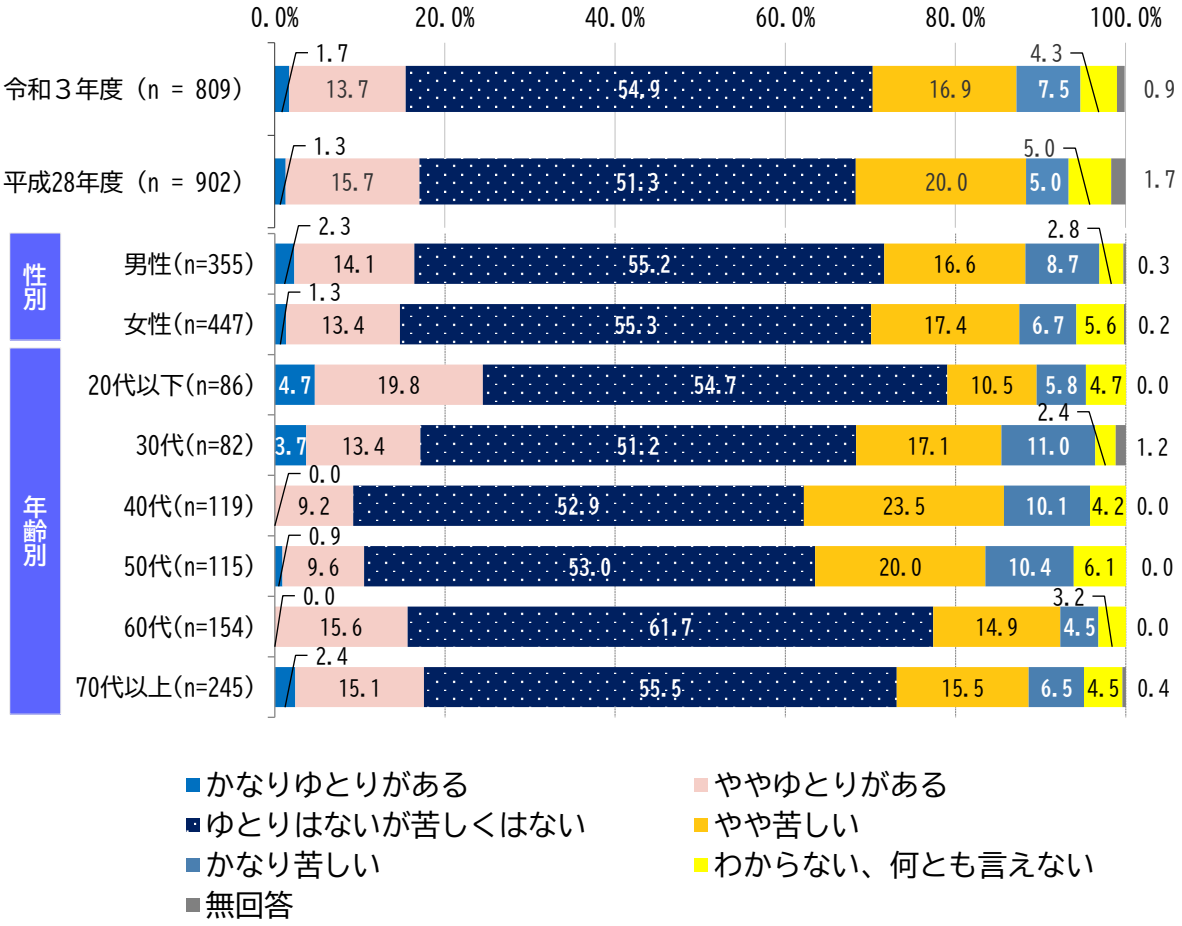
問９　お宅の（経済的な）暮らし向きをどう感じていますか。
（○は１つ）

全体では、「ゆとりはないが苦しくはない」の割合が 54.9%と最も高く、「かなりゆとりがある」と「ややゆとりがある」をあわせた“ゆとりがある”が 15.4%、「やや苦しい」と「かなり苦しい」をあわせた“苦しい”が 24.4%となっています。

平成 28 年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

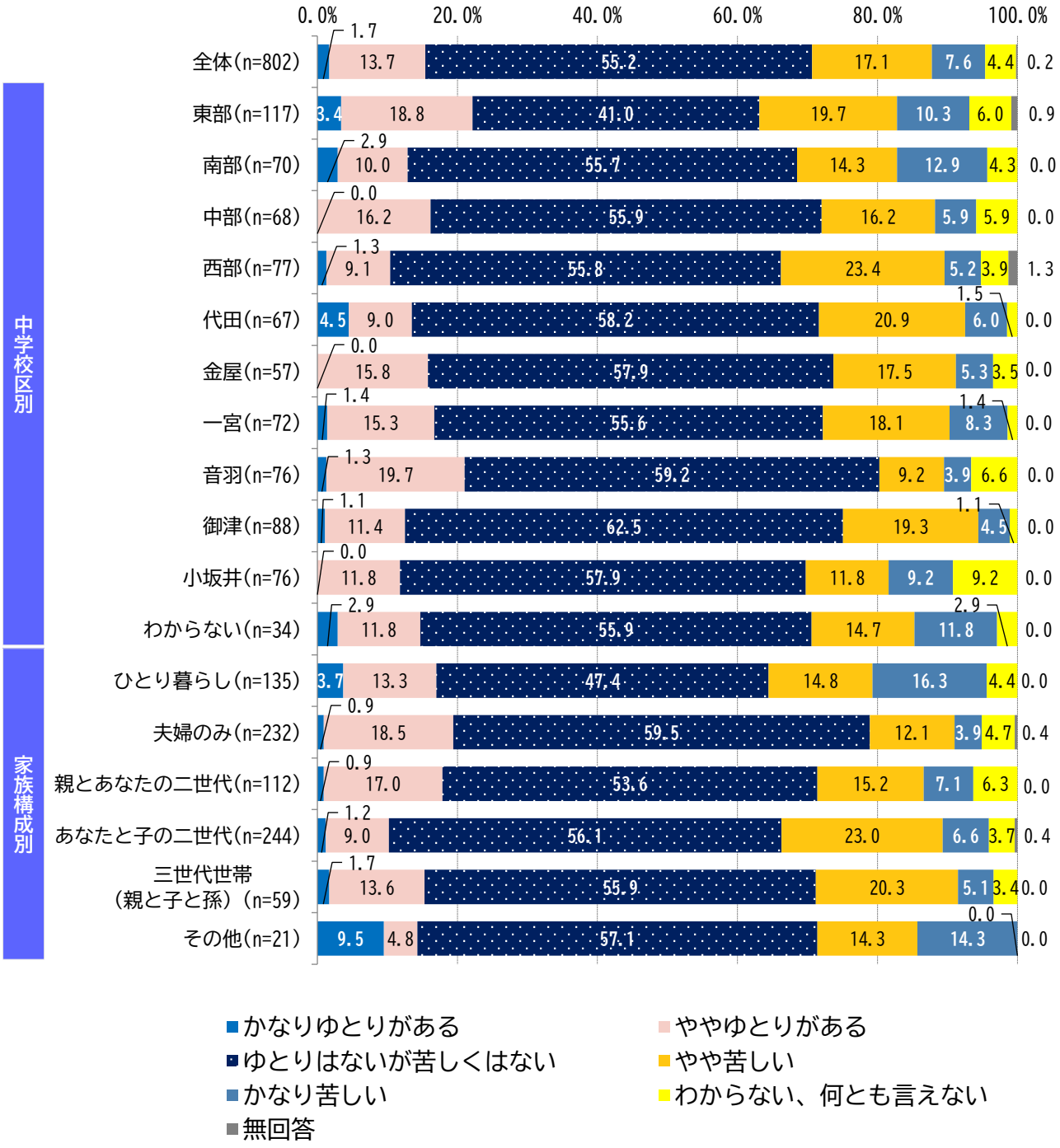
性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、40 代と 50 代で“苦しい”の割合が高くなっています。



中学校区別では、東部中学校区、音羽中学校区で“ゆとりがある”の割合が高くなっています。また、東部中学校区では“苦しい”の割合も高くなっています。

家族構成別では、「あなたと子の二世代」で“ゆとりがある”の割合が低くなっています。また、「ひとり暮らし」、「あなたと子の二世代」で“苦しい”の割合が高くなっています。



2　地域との関わりや地域に対する意識についておたずねします

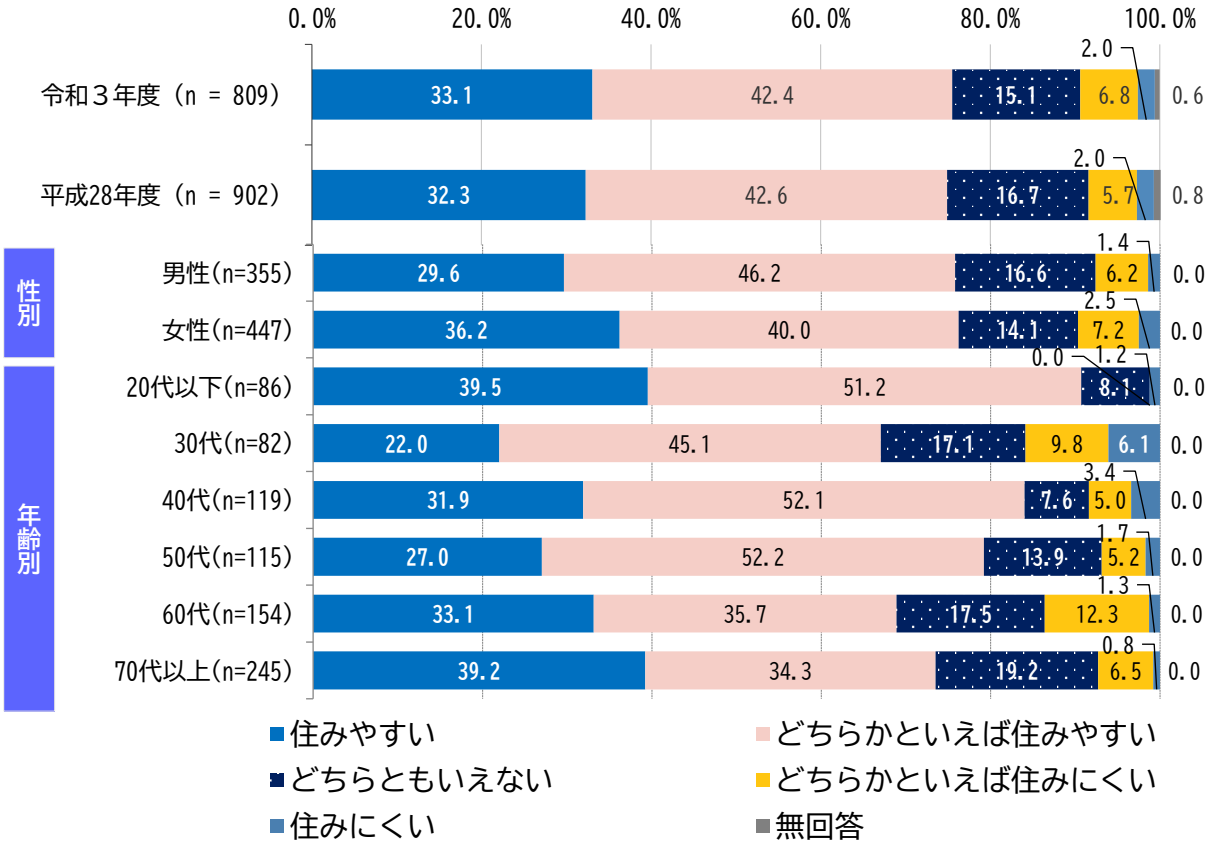
問10　お住まいの地域は、あなたにとって住みやすいと思いますか。
（○は１つ）

全体では、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」をあわせた“住みやすい”の割合が 75.5%、「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」をあわせた“住みにくい”の割合が 8.8%となっています。

平成 28 年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

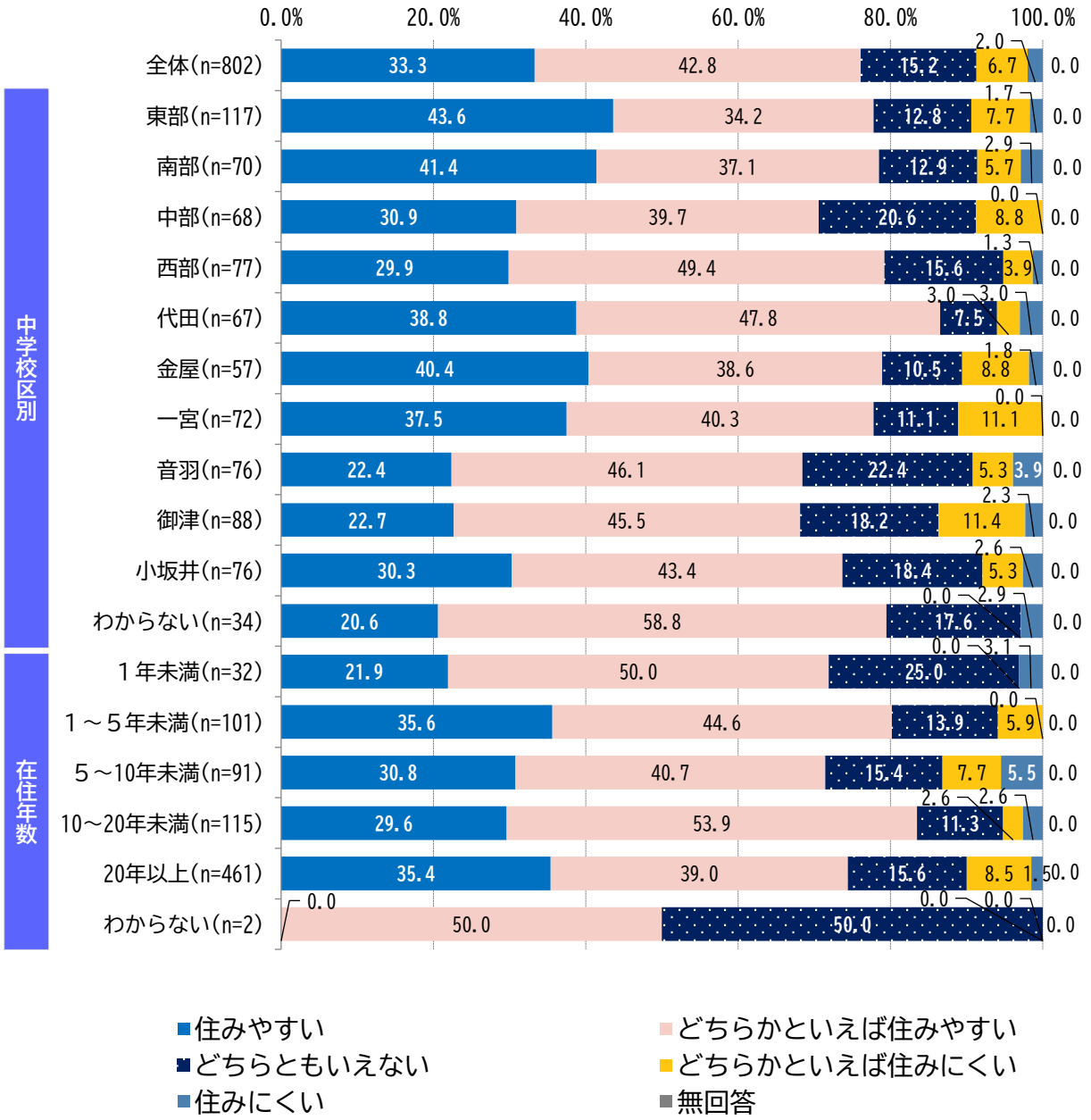
性別では、男性に比べ、女性の方が「住みやすい」の割合が高くなっています。

年齢別では、20 代以下と 70 代以上で「住みやすい」の割合が高くなっています。



中学校区別では、代田中学校区で「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」をあわせた“住みやすい”の割合が高くなっています。また、御津中学校区、一宮中学校区で「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」をあわせた“住みにくい”の割合が高くなっています。

在住年数別では、すべての層で「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」をあわせた“住みやすい”が７割を超えているものの、１年未満の方で「住みやすい」の割合が低くなっています。



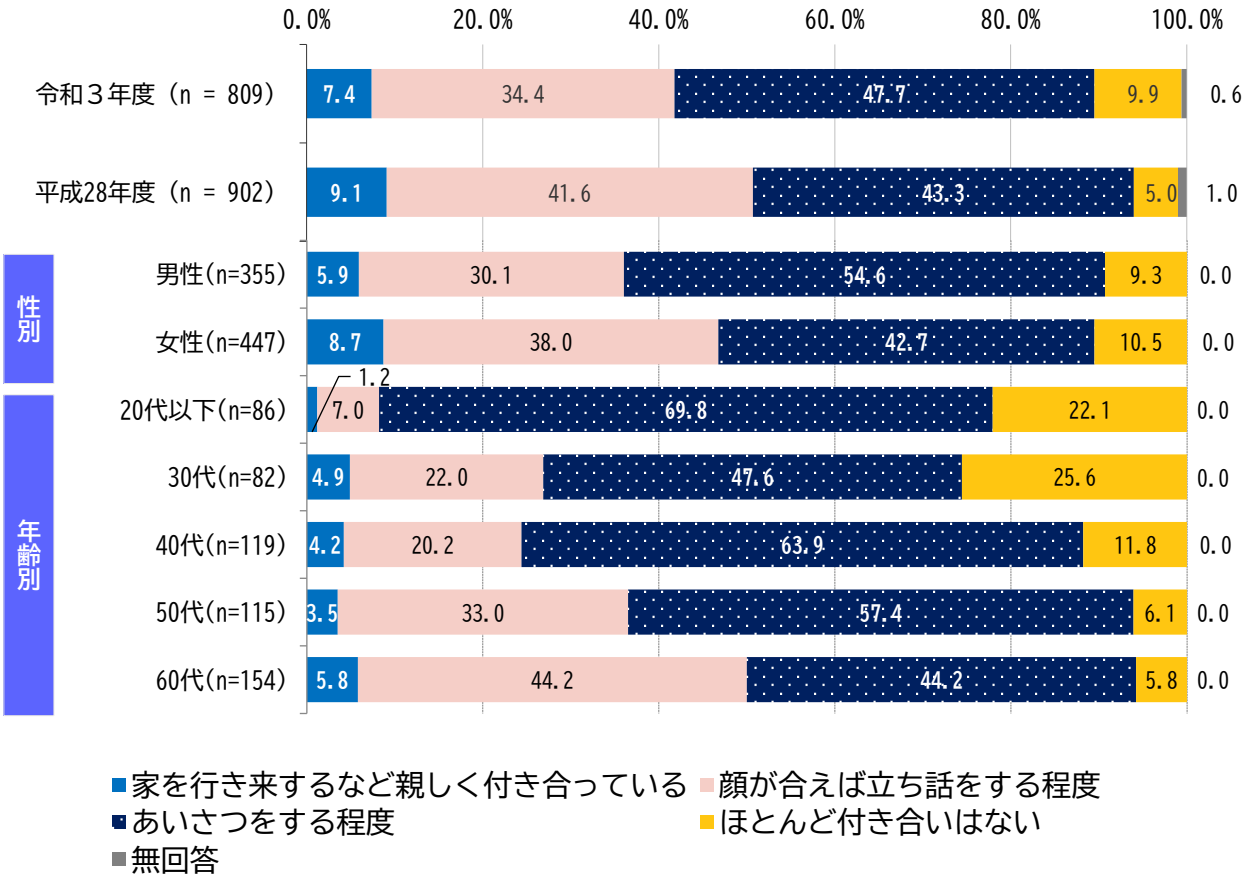
問11　近所の方と、どの程度のお付き合いをしていますか。（○は１つ）

全体では、「あいさつをする程度」の割合が 47.7%と最も高く、次いで「顔が合えば立ち話をする程度」の割合が 34.4%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「顔が合えば立ち話をする程度」の割合が減少しており、近所付き合いが後退していることがうかがえます。

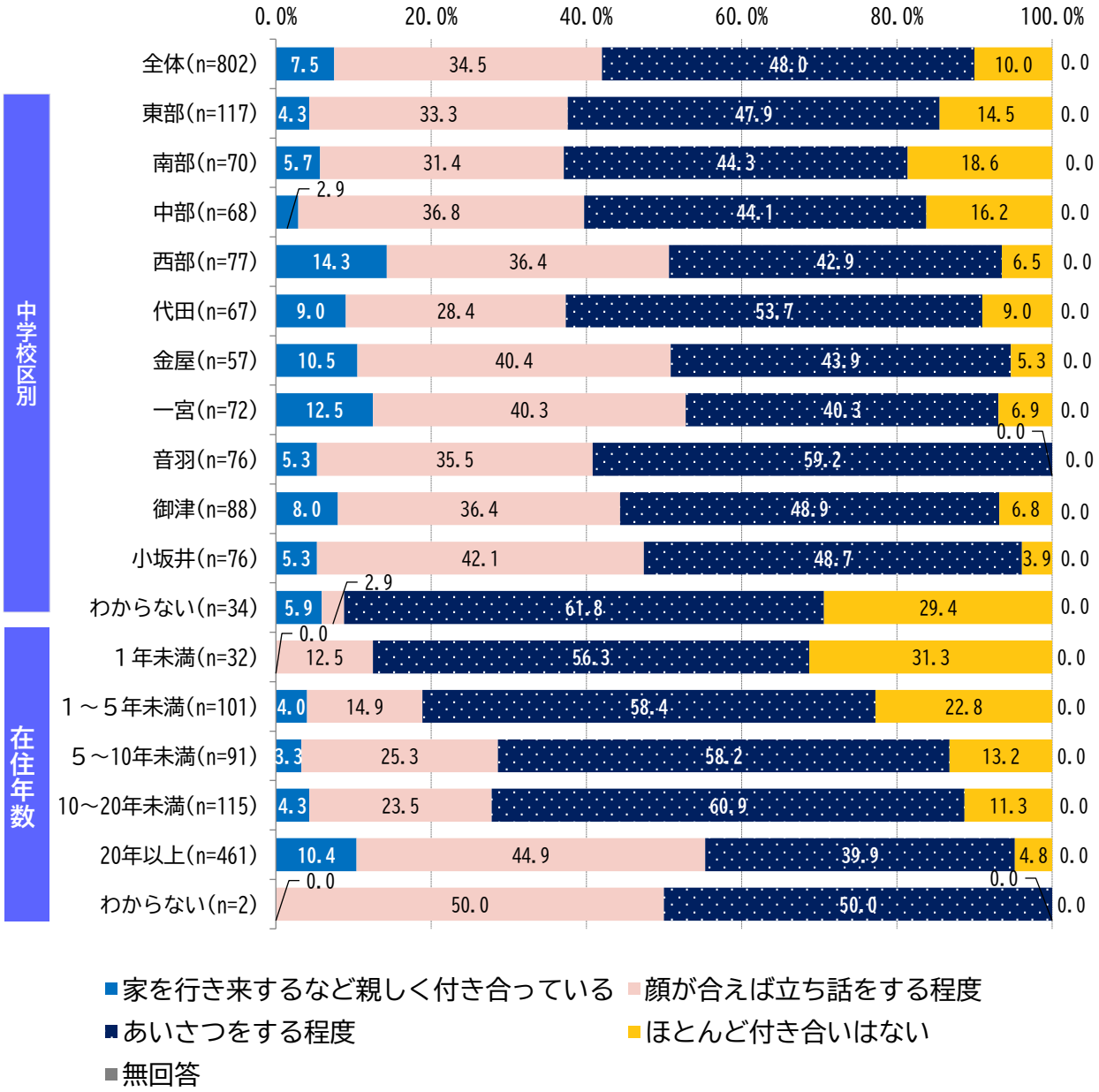
性別では、男性で「あいさつをする程度」の割合が 54.6%と最も高く、女性も「あいさつをする程度」の割合が 42.7%と最も高くなっています。

年齢別では、年齢が高くなるにつれて「家を行き来するなど親しく付き合っている」「顔が合えば立ち話をする程度」の割合が高くなる傾向があります。また、30 代、20 代の順に「ほとんど付き合いはない」の割合が高くなっています。



中学校区別では、西部中学校区、一宮中学校区で「家を行き来するなど親しく付き合っている」の割合が高くなっています。

在住年数別では、居住 20 年以上の５割の方が立ち話をする付き合いをしていますが、居住 20 年未満では、それが３割に満たない状態です。



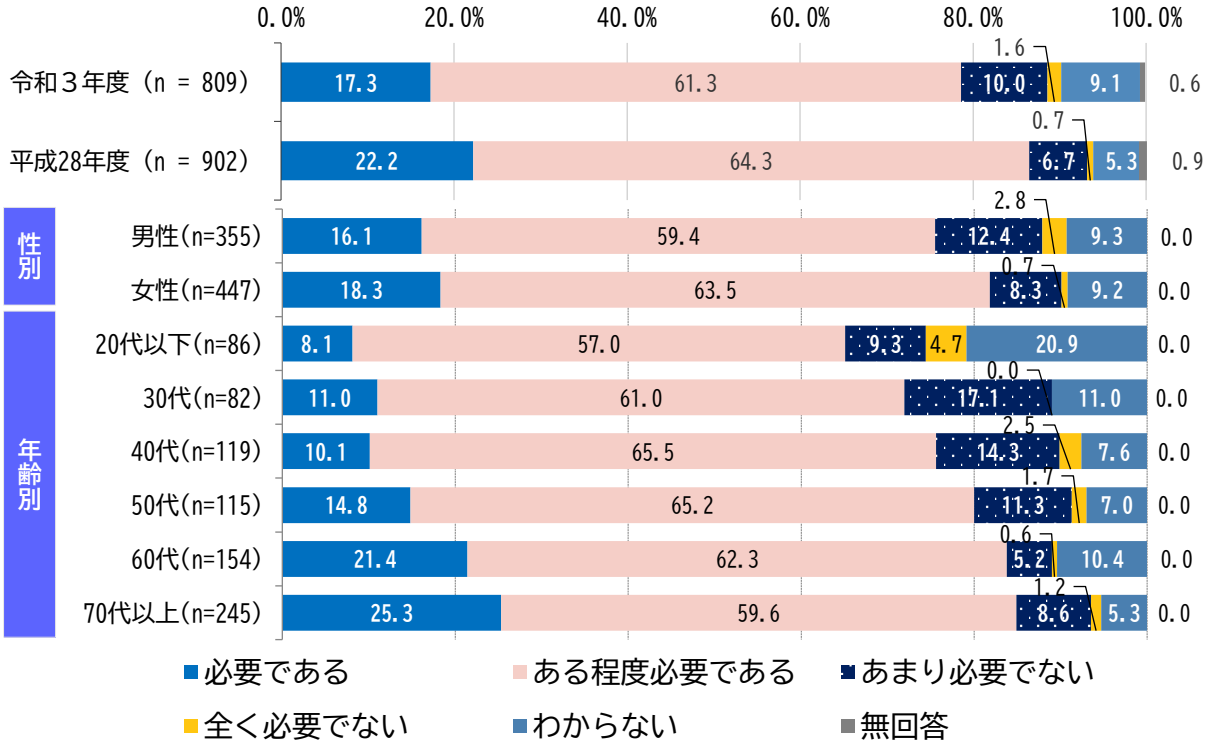
問12　近所の人と相談し合う、助け合うことについて、どのように思いますか。（○は１つ）

全体では、「必要である」と「ある程度必要である」をあわせた“必要である”の割合が 78.6%、「あまり必要でない」と「全く必要でない」をあわせた“必要でない”の割合が 11.6%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、“必要である”の割合が減少していることから、近所の人との関係の希薄化が進んでいることがみられます。

性別では、女性が男性より“必要である”の割合が高くなっています。

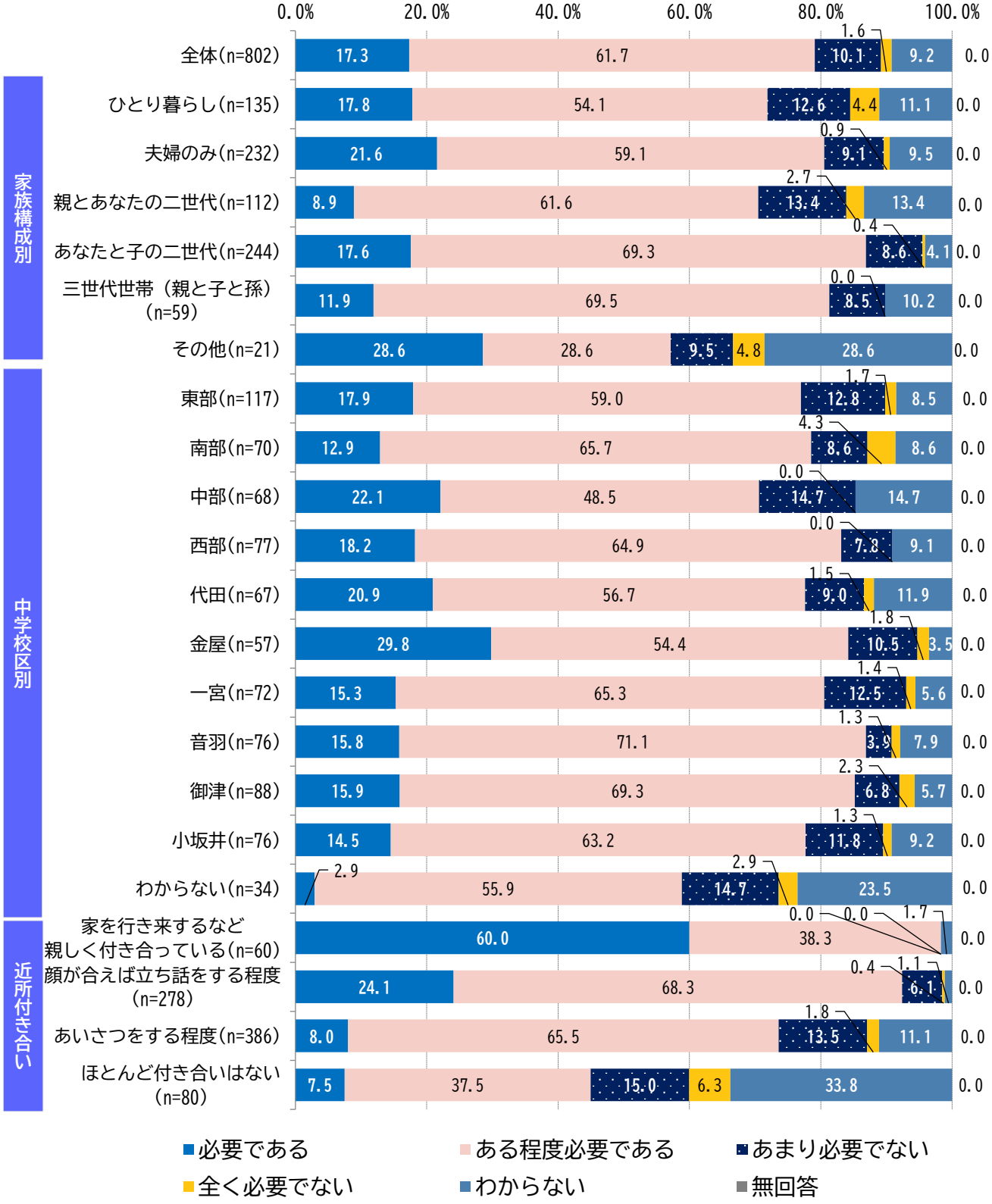
年齢別では、60 代以上で「必要である」の割合が特に高くなっています。



中学校区別では、金屋中学校区で「必要である」の割合が特に高くなっています。

家族構成別では、「あなたと子の二世代」で“必要である”の割合が高くなっています。

近所付き合い別では、「家を行き来するなど親しく付き合っている」で“必要である”の割合が特に高くなっています。また、親しく付き合っているほど“必要である”の割合が高くなる傾向にあります。



問13　ここ５年間に地域の行事（祭や盆踊り等）や活動（清掃等）にどの程度参加しましたか。（○は１つ）

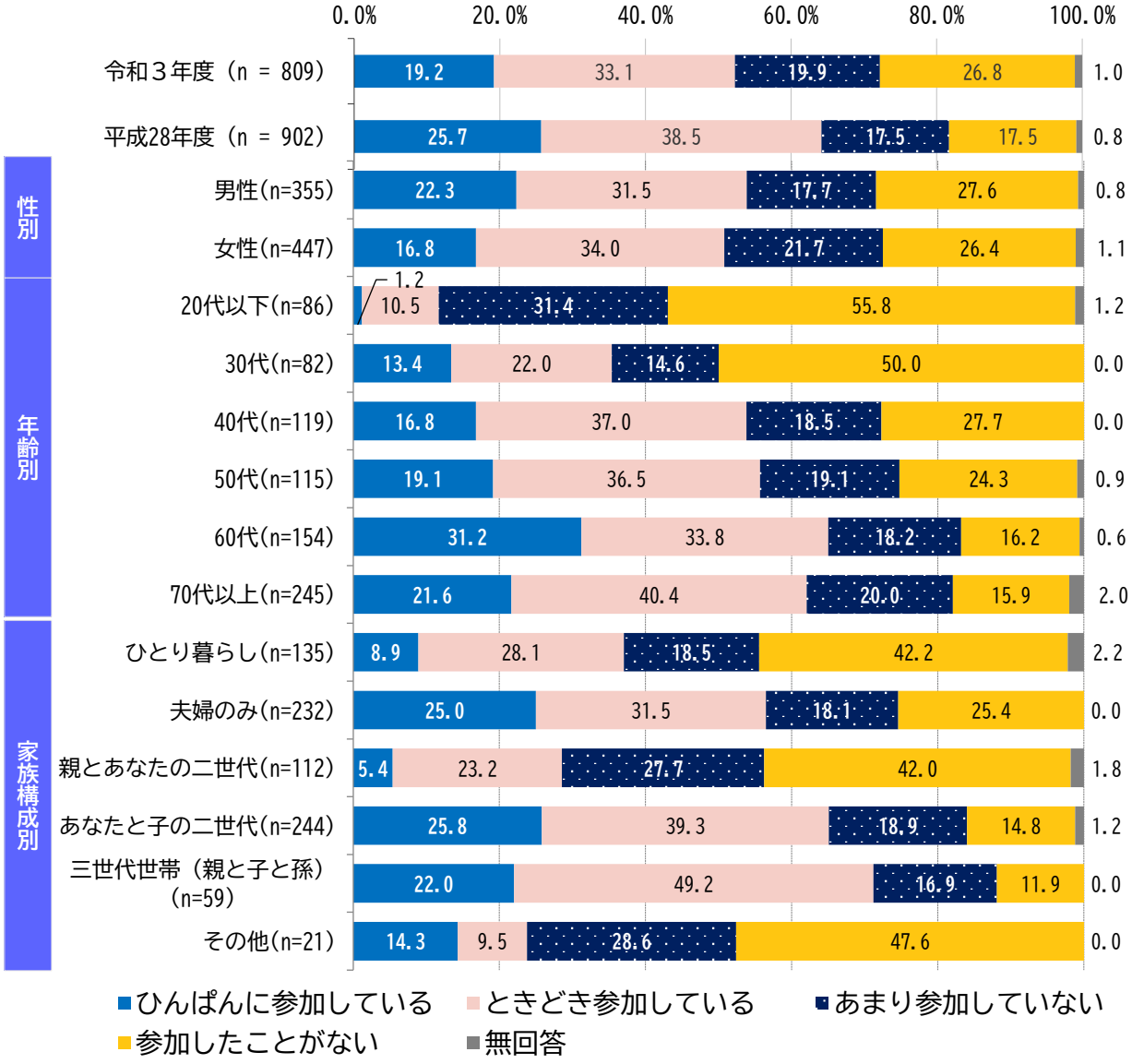
全体では、「ひんぱんに参加している」と「ときどき参加している」をあわせた“参加している”の割合が 52.3%、「あまり参加していない」と「参加したことがない」をあわせた“参加していない”の割合が 46.7%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「ひんぱんに参加している」の割合が減少しており、地域の行事や活動への参加者が減少していることがうかがえます。

性別では、女性と比べ、男性は“参加している”の割合が高くなっています。

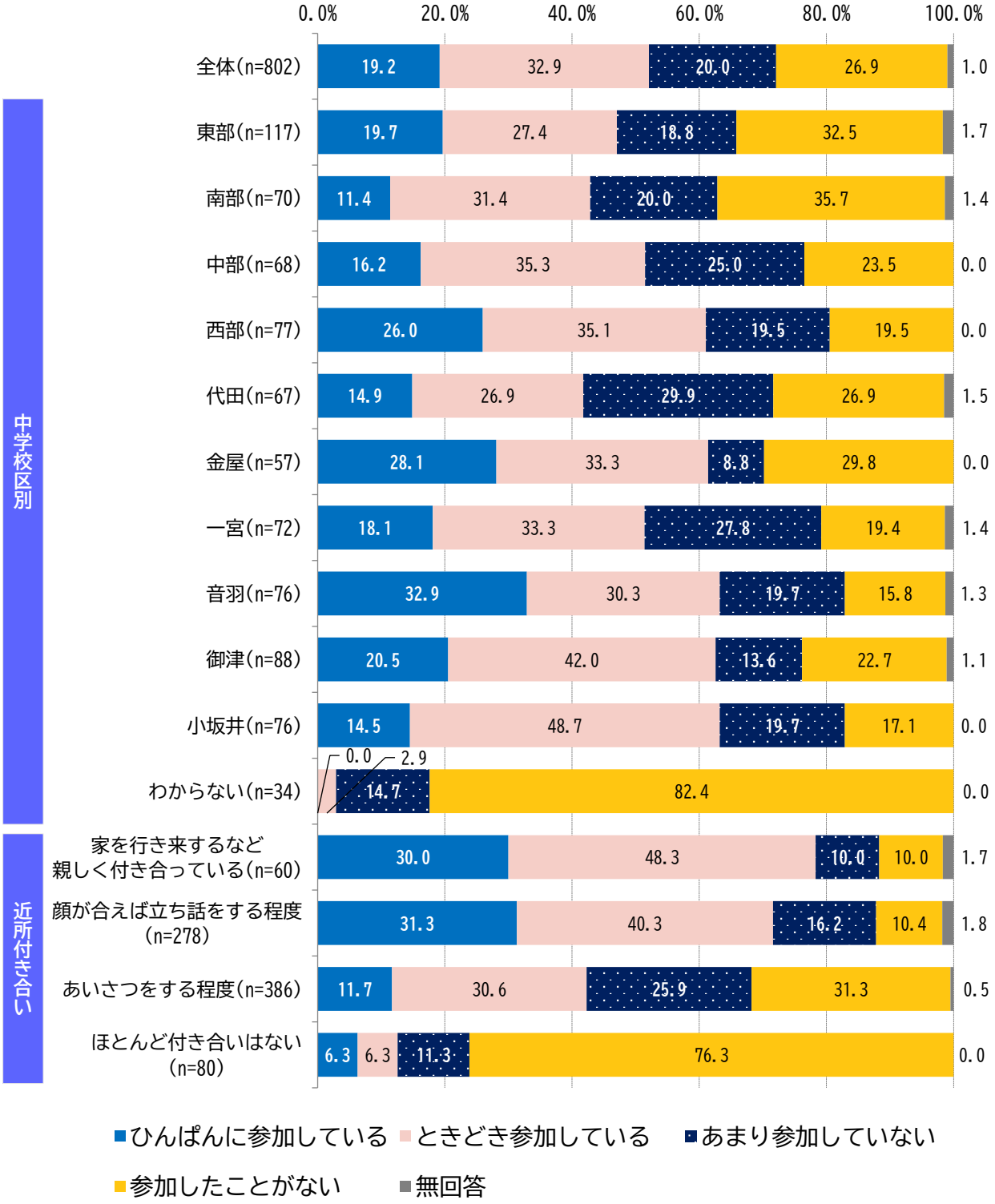
年齢別では、20 代から 60 代にかけて、年齢が高くなるにつれて“参加している”の割合が高くなっています。

家族構成別では、「三世代世帯」、「あなたと子の二世代」で“参加している”の割合が高くなっています。また、「親とあなたの二世代」で“参加していない”の割合が高くなっています。



中学校区別では、音羽中学校区、金屋中学校区、西部中学校区で「ひんぱんに参加している」の割合が高くなっています。また、南部中学校区、東部中学校区で「参加したことがない」の割合が高くなっています。

近所付き合い別では、「家を行き来するなど親しく付き合っている」で“参加している”の割合が特に高くなっています。また、親しく付き合っているほど“参加している”の割合が高くなる傾向にあります。

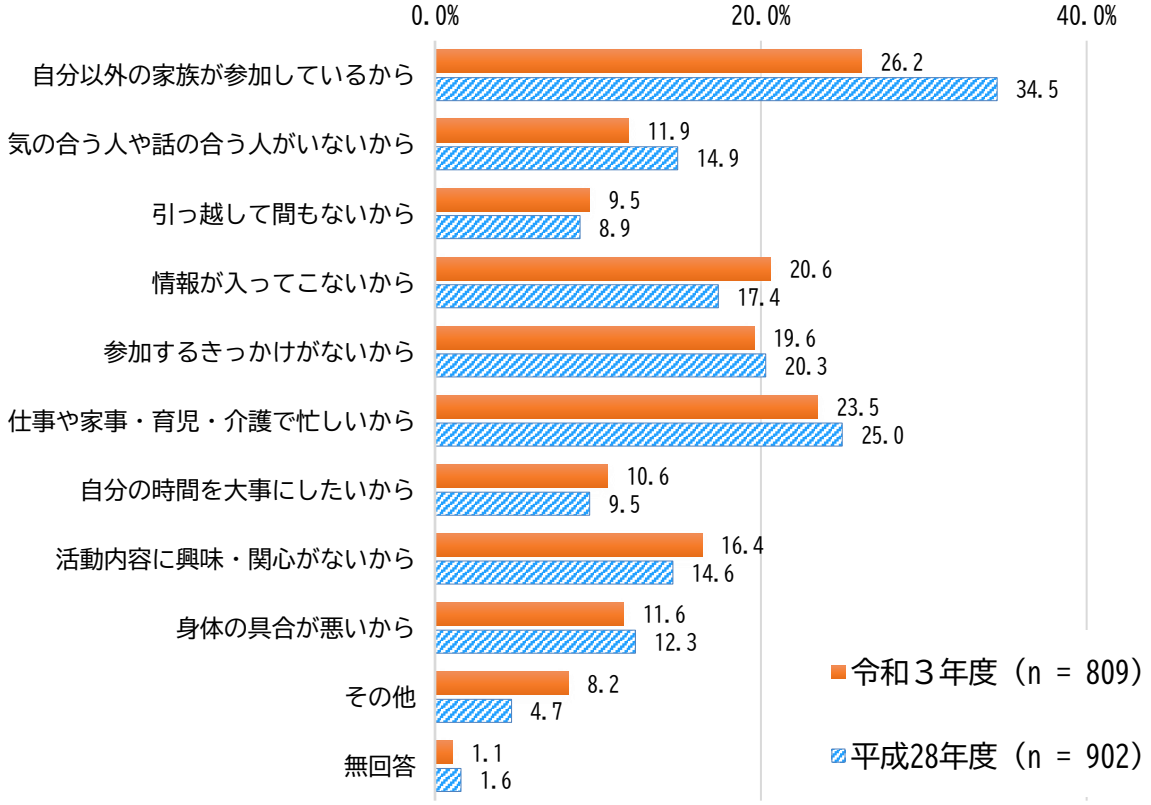


問13で「３．あまり参加していない」「４．参加したことがない」と答えた方にお聞きします

問13-1　地域の行事や活動に（あまり）参加したことがない理由を教えてください。（○はいくつでも）

全体では、「自分以外の家族が参加しているから」の割合が 26.2%と最も高く、次いで「仕事や家事・育児・介護で忙しいから」が 23.5%、「情報が入ってこないから」が 20.6%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「情報が入ってこないから」の割合が増加しています。また、「自分以外の家族が参加しているから」の割合が減少しています。



性別では、女性に比べ、男性で「自分の時間を大事にしたいから」の割合が高くなっています。

年齢別では、30 代で「情報が入ってこないから」「参加するきっかけがないから」の割合が高くなっています。また、70 代以上で「身体の具合が悪いから」の割合が高くなっています。

中学校区別では、金屋中学校区、南部中学校区で「情報が入ってこないから」の割合が高くなっています。また、西部中学校区、代田中学校区で「仕事や家事・育児・介護で忙しいから」の割合が高くなっています。

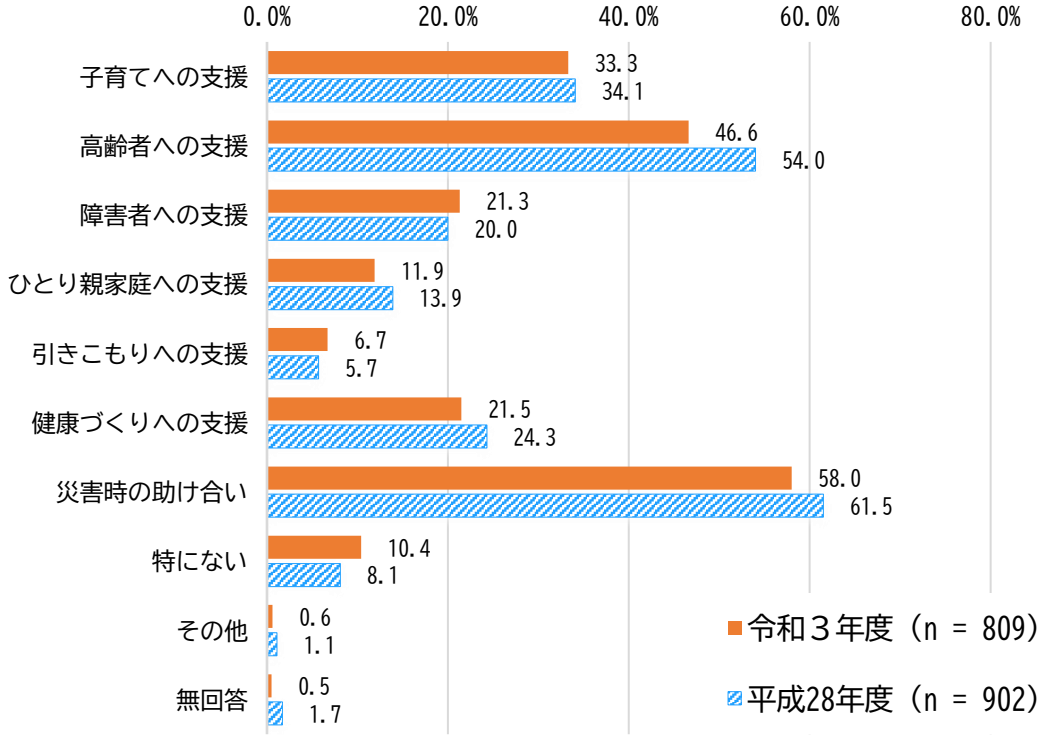
区分		自分以外の家族が参加しているから	気の合う人や話の合う人がいないから	引っ越して間もないから	情報が入ってこないから	参加するきっかけがないから	仕事や家事・育児・介護で忙しいから	自分の時間を大事にしたいから	活動内容に興味・関心がないから	身体の具合が悪いから	その他	無回答
全体(n=376)		26.1	12.0	9.6	20.5	19.4	23.7	10.6	16.5	11.7	8.2	1.1
性別	男性(n=161)	24.8	11.2	9.3	20.5	19.9	23.0	15.5	14.9	9.3	10.6	2.5
	女性(n=215)	27.0	12.6	9.8	20.5	19.1	24.2	7.0	17.7	13.5	6.5	-
年齢別	20代以下(n=75)	30.7	4.0	12.0	24.0	24.0	18.7	12.0	9.3	-	9.3	-
	30代(n=53)	15.1	13.2	24.5	35.8	34.0	32.1	17.0	18.9	3.8	7.5	1.9
	40代(n=55)	21.8	10.9	9.1	23.6	20.0	36.4	9.1	18.2	3.6	10.9	-
	50代(n=50)	36.0	10.0	6.0	14.0	16.0	28.0	12.0	16.0	12.0	4.0	-
	60代(n=53)	24.5	28.3	7.5	20.8	18.9	26.4	5.7	26.4	7.5	5.7	1.9
	70代以上(n=88)	26.1	10.2	2.3	10.2	10.2	11.4	8.0	14.8	31.8	10.2	2.3
中学校区別	東部(n=60)	25.0	11.7	5.0	13.3	18.3	18.3	5.0	16.7	8.3	5.0	1.7
	南部(n=39)	17.9	25.6	7.7	33.3	28.2	23.1	15.4	25.6	15.4	10.3	-
	中部(n=33)	39.4	12.1	12.1	12.1	24.2	12.1	12.1	12.1	6.1	15.2	-
	西部(n=30)	20.0	20.0	10.0	10.0	13.3	36.7	16.7	26.7	23.3	3.3	-
	代田(n=38)	23.7	13.2	7.9	13.2	10.5	28.9	2.6	21.1	10.5	10.5	5.3
	金屋(n=22)	18.2	4.5	4.5	40.9	22.7	18.2	22.7	4.5	13.6	13.6	-
	一宮(n=34)	32.4	5.9	14.7	14.7	23.5	17.6	5.9	14.7	14.7	11.8	-
	音羽(n=27)	51.9	3.7	3.7	3.7	11.1	25.9	7.4	14.8	11.1	7.4	-
	御津(n=32)	31.3	18.8	9.4	25.0	21.9	21.9	9.4	9.4	12.5	-	-
	小坂井(n=28)	25.0	7.1	14.3	14.3	7.1	25.0	7.1	21.4	10.7	10.7	-
	わからない(n=33)	6.1	3.0	18.2	48.5	33.3	36.4	21.2	9.1	6.1	6.1	3.0

3　地域での支え合いや福祉への関心についておたずねします

問14　地域での支え合い活動のうち、どれに関心がありますか。
（○はいくつでも）

全体では、「災害時の助け合い」の割合が 58.0%と最も高く、次いで「高齢者への支援」が 46.6%、「子育てへの支援」が 33.3%となっています。

平成 28 年度調査との比較では、上位の「災害時の助け合い」については変わらずに５割以上の高い関心を示していることから、地域での支え合い活動として重要なテーマであることが読み取れます。



性別では、男性に比べ、女性で「高齢者への支援」の割合が高くなっています。

年齢別では、30 代で「子育てへの支援」、40 代、50 代、60 代で「災害時の助け合い」が高くなっています。また、年齢が高くなるにつれて「高齢者への支援」の割合が高くなっています。

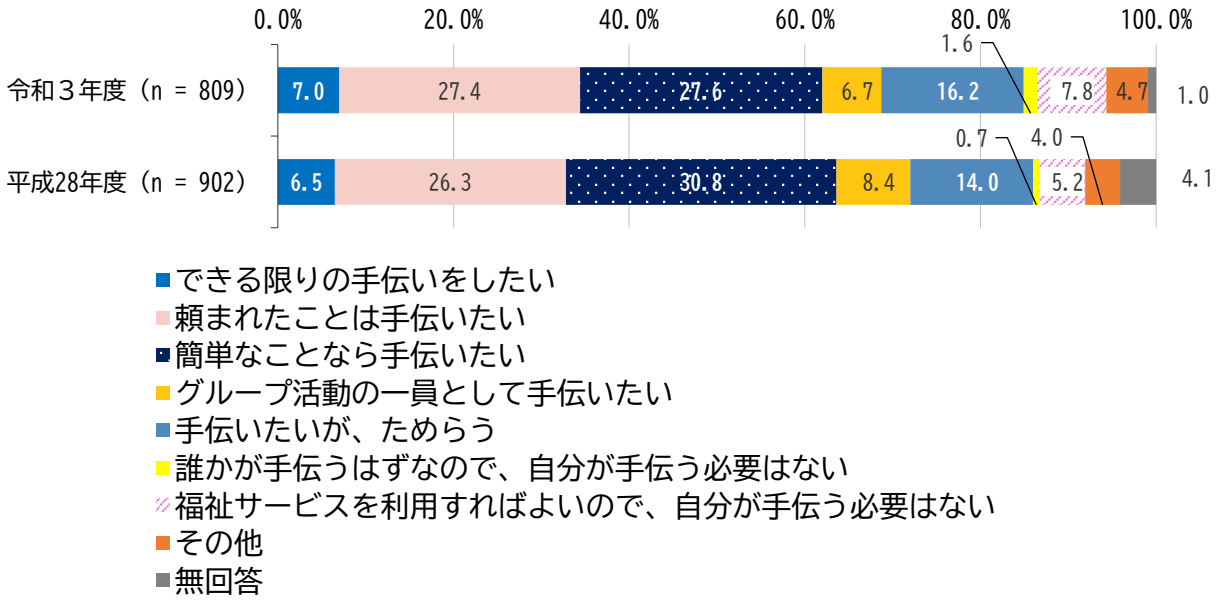
中学校区別では、ほぼ全ての中学校区で「災害時の助け合い」の割合が最も高くなっています。

区分		子育てへの支援	高齢者への支援	障害者への支援	ひとり親家庭への支援	引きこもりへの支援	健康づくりへの支援	災害時の助け合い	特にない	その他	無回答
全体(n=802)		33.0	46.3	20.9	11.7	6.5	21.1	57.9	10.5	0.6	0.5
性別	男性(n=355)	33.8	43.9	20.6	12.4	6.2	20.0	59.2	11.3	-	0.3
	女性(n=447)	32.4	48.1	21.3	11.2	6.7	21.9	56.8	9.8	1.1	0.7
年齢別	20代以下(n=86)	51.2	18.6	8.1	9.3	3.5	10.5	50.0	20.9	-	-
	30代(n=82)	65.9	29.3	18.3	6.1	8.5	25.6	56.1	6.1	-	-
	40代(n=119)	47.9	39.5	18.5	18.5	9.2	16.0	58.8	10.9	1.7	-
	50代(n=115)	30.4	46.1	27.8	13.0	7.8	17.4	64.3	8.7	0.9	0.9
	60代(n=154)	26.6	60.4	27.9	14.9	8.4	20.1	72.7	5.2	-	0.6
	70代以上(n=245)	14.3	56.7	20.0	9.0	4.1	28.6	48.6	11.8	0.8	0.8
中学校区別	東部(n=60)	39.3	43.6	23.1	8.5	5.1	22.2	48.7	12.0	-	0.9
	南部(n=39)	25.7	51.4	24.3	14.3	4.3	21.4	58.6	11.4	1.4	-
	中部(n=33)	42.6	45.6	20.6	10.3	7.4	16.2	63.2	8.8	2.9	-
	西部(n=30)	31.2	36.4	14.3	14.3	7.8	16.9	61.0	13.0	2.6	-
	代田(n=38)	29.9	47.8	16.4	4.5	9.0	22.4	55.2	11.9	-	-
	金屋(n=22)	29.8	52.6	31.6	17.5	10.5	19.3	61.4	10.5	-	1.8
	一宮(n=34)	29.2	50.0	23.6	19.4	6.9	19.4	59.7	6.9	-	1.4
	音羽(n=27)	27.6	48.7	18.4	11.8	7.9	19.7	64.5	9.2	-	-
	御津(n=32)	35.2	48.9	13.6	10.2	2.3	20.5	55.7	8.0	-	-
	小坂井(n=28)	36.8	51.3	28.9	14.5	10.5	31.6	56.6	10.5	-	-
	わからない(n=33)	32.4	29.4	17.6	2.9	-	23.5	61.8	11.8	-	-

問15　近所にひとり暮らしの高齢者や障害者、ひとり親家庭など、何らかの支援を必要としている人がいた場合、どのように手伝いたいと思いますか。（○は１つ）

全体では、「簡単なことなら手伝いたい」の割合が 27.6%と最も高く、次いで「頼まれたことは手伝いたい」が 27.4%、「手伝いたいが、ためらう」が 16.2%となっています。

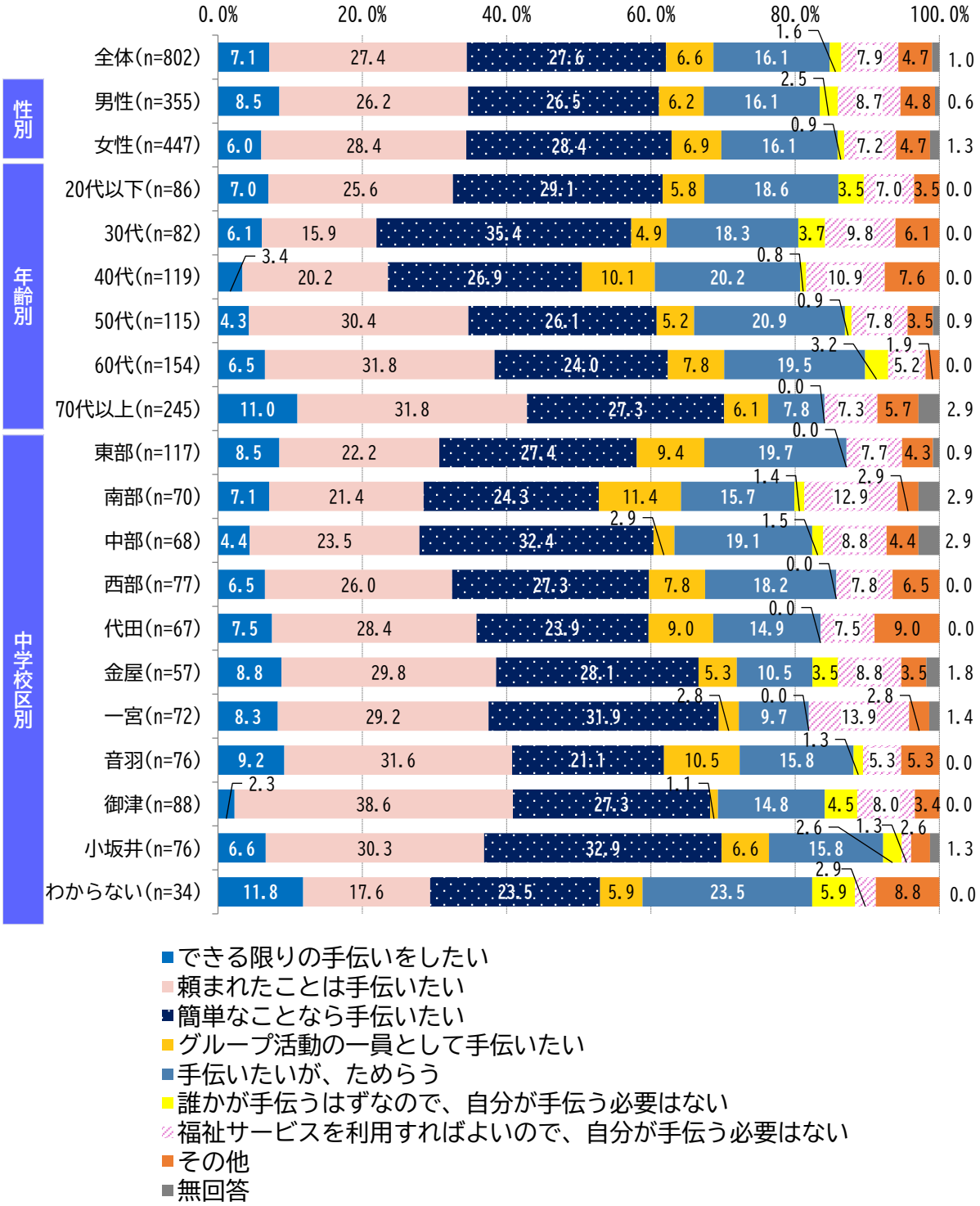
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられないものの、「頼まれたことは手伝いたい」「手伝いたいが、ためらう」の回答結果から、何かきっかけがあれば、手伝いたいという意識がうかがえます。



性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、30 代で「簡単なことなら手伝いたい」、70 代以上で「できる限りの手伝いをしたい」の割合が高くなっています。

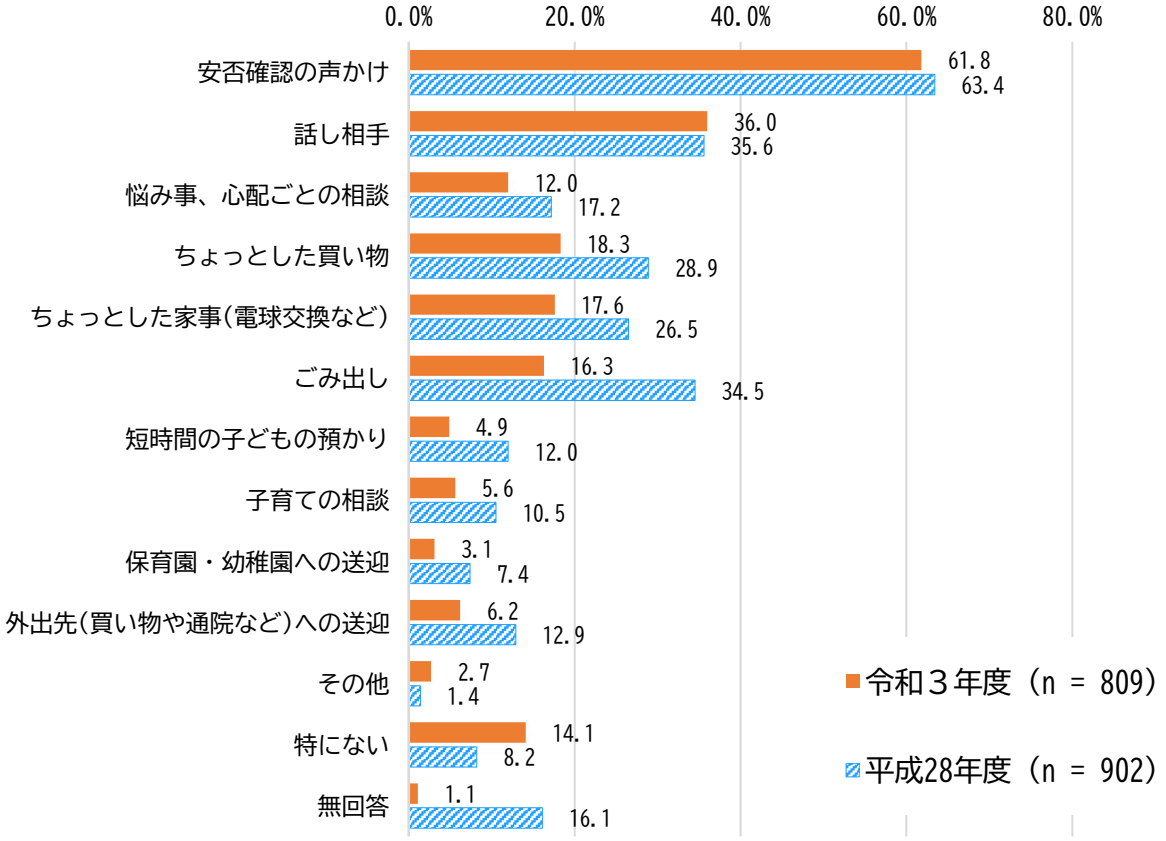
中学校区別では、小坂井中学校区、中部中学校区、一宮中学校区で「簡単なことなら手伝いたい」の割合が高くなっています。また、御津中学校区で「頼まれたことは手伝いたい」の割合が高くなっています。



問16　近所で困っている人がいた場合、「手助けできること」はどれですか。
（あてはまるものすべてに○）

全体では、「安否確認の声かけ」の割合が 61.8%と最も高く、次いで「話し相手」が 36.0%、「ちょっとした買い物」が 18.3%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、多くの項目で手助けできることの割合が減少しています。



性別では、女性に比べ、男性で「ちょっとした家事（電球交換など）」「外出先(買い物や通院など)への送迎」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「ちょっとした買い物」「安否確認の声かけ」「話し相手」の割合が高くなっています。

年齢別では、50 代で「ちょっとした家事（電球交換など）」、60 代で「ちょっとした買い物」の割合が高くなっています。

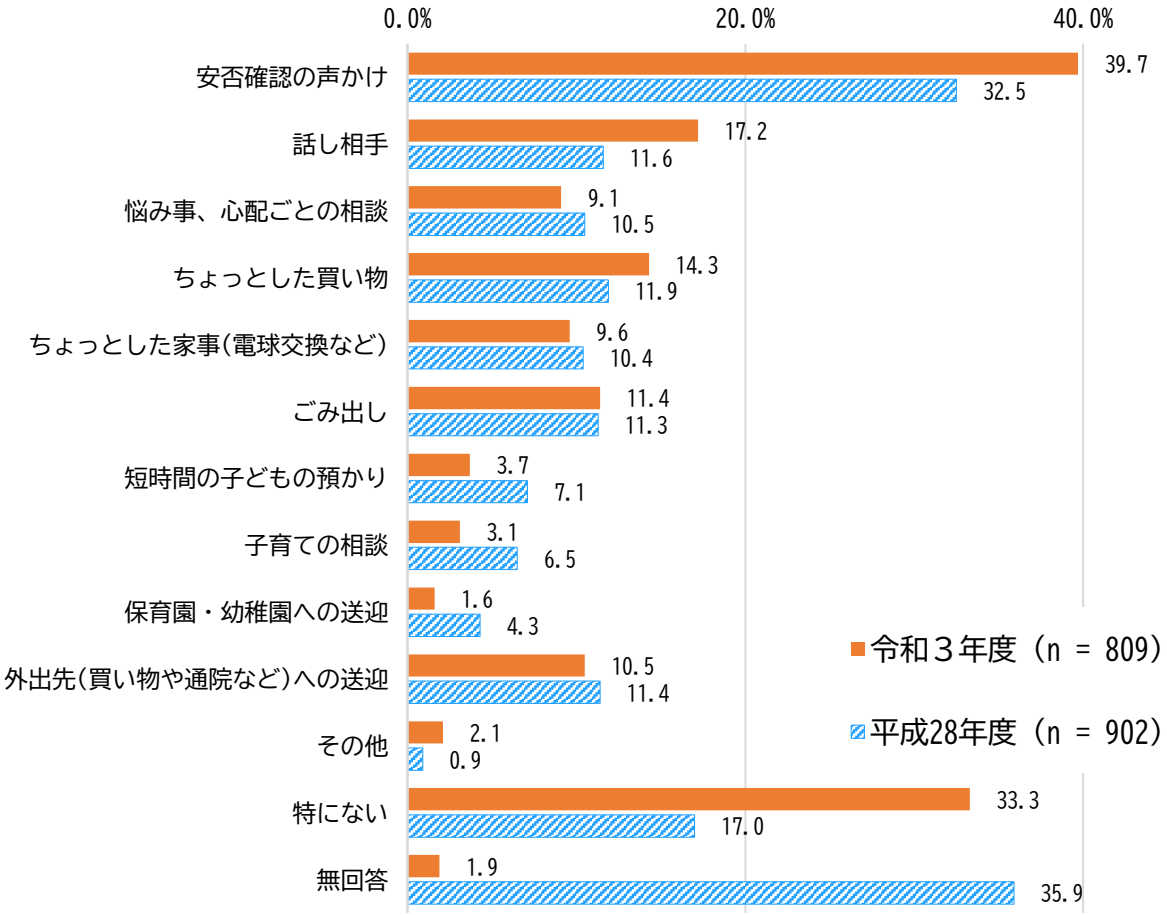
中学校区別では、全ての中学校区で「安否確認の声かけ」の割合が最も高くなっています。

区分		安否確認の声かけ	話し相手	悩み事、心配ごとの相談	ちょっとした買い物	ちょっとした家事（電球交換など）	ごみ出し	短時間の子どもの預かり	子育ての相談	保育園・幼稚園への送迎	外出先（買い物や通院など）への送迎	その他	特にない	無回答
全体(n=802)		61.6	36.0	12.0	18.2	17.5	16.2	4.9	5.5	3.0	6.1	2.7	14.1	1.1
性別	男性(n=355)	57.5	33.5	13.8	13.8	25.9	15.5	4.2	5.6	2.5	8.2	2.5	16.3	0.8
	女性(n=447)	64.9	38.0	10.5	21.7	10.7	16.8	5.4	5.4	3.4	4.5	2.9	12.3	1.3
年齢別	20代以下(n=86)	50.0	27.9	8.1	17.4	12.8	15.1	4.7	7.0	3.5	3.5	1.2	15.1	-
	30代(n=82)	53.7	42.7	15.9	11.0	17.1	8.5	4.9	7.3	2.4	2.4	-	20.7	1.2
	40代(n=119)	65.5	30.3	11.8	16.8	20.2	10.9	6.7	8.4	6.7	4.2	5.0	15.1	0.8
	50代(n=115)	67.0	31.3	12.2	20.9	29.6	16.5	6.1	5.2	3.5	7.8	1.7	12.2	0.9
	60代(n=154)	73.4	35.1	15.6	28.6	18.8	23.4	8.4	9.1	3.2	10.4	1.9	9.7	-
	70代以上(n=245)	57.1	42.9	10.2	14.3	11.8	17.6	1.6	1.2	1.2	6.1	4.1	13.9	2.4
中学校区別	東部(n=117)	57.3	36.8	16.2	12.0	16.2	9.4	1.7	7.7	1.7	4.3	1.7	16.2	0.9
	南部(n=70)	58.6	38.6	15.7	15.7	14.3	18.6	10.0	7.1	10.0	2.9	4.3	18.6	2.9
	中部(n=68)	63.2	38.2	11.8	19.1	13.2	19.1	4.4	8.8	4.4	11.8	5.9	8.8	1.5
	西部(n=77)	66.2	26.0	10.4	27.3	16.9	19.5	7.8	6.5	3.9	6.5	-	11.7	1.3
	代田(n=67)	53.7	38.8	1.5	10.4	11.9	14.9	9.0	3.0	3.0	4.5	7.5	14.9	-
	金屋(n=57)	63.2	33.3	17.5	24.6	21.1	15.8	3.5	7.0	1.8	7.0	1.8	17.5	3.5
	一宮(n=72)	70.8	40.3	8.3	20.8	23.6	15.3	5.6	2.8	4.2	8.3	1.4	11.1	2.8
	音羽(n=76)	69.7	40.8	10.5	21.1	22.4	18.4	3.9	2.6	-	10.5	1.3	7.9	-
	御津(n=88)	60.2	37.5	15.9	17.0	22.7	19.3	5.7	6.8	3.4	8.0	2.3	13.6	-
	小坂井(n=76)	57.9	30.3	10.5	25.0	18.4	19.7	2.6	3.9	1.3	2.6	2.6	15.8	-
	わからない(n=34)	58.8	35.3	8.8	5.9	5.9	8.8	-	2.9	-	-	-	23.5	-

問17　実際に自分が困った場合、近所の人に「手助けしてほしいこと」はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「安否確認の声かけ」の割合が 39.7%と最も高く、次いで「特にない」が 33.3%、「話し相手」が 17.2%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「安否確認の声かけ」「話し相手」の割合が特に増加しています。また、「特にない」の割合が高く出たことから、自分が困った場合、近所の人に「手助けしてほしいこと」としてのニーズが減少しており、地域に対する期待や必要性が減少していることがうかがえます。



性別では、男性に比べ、女性は「ちょっとした買い物」の割合が高くなっています。

年齢別では、30 代で「短時間の子供の預かり」「子育て相談」、70 代以上で「話し相手」の割合が高くなっています。

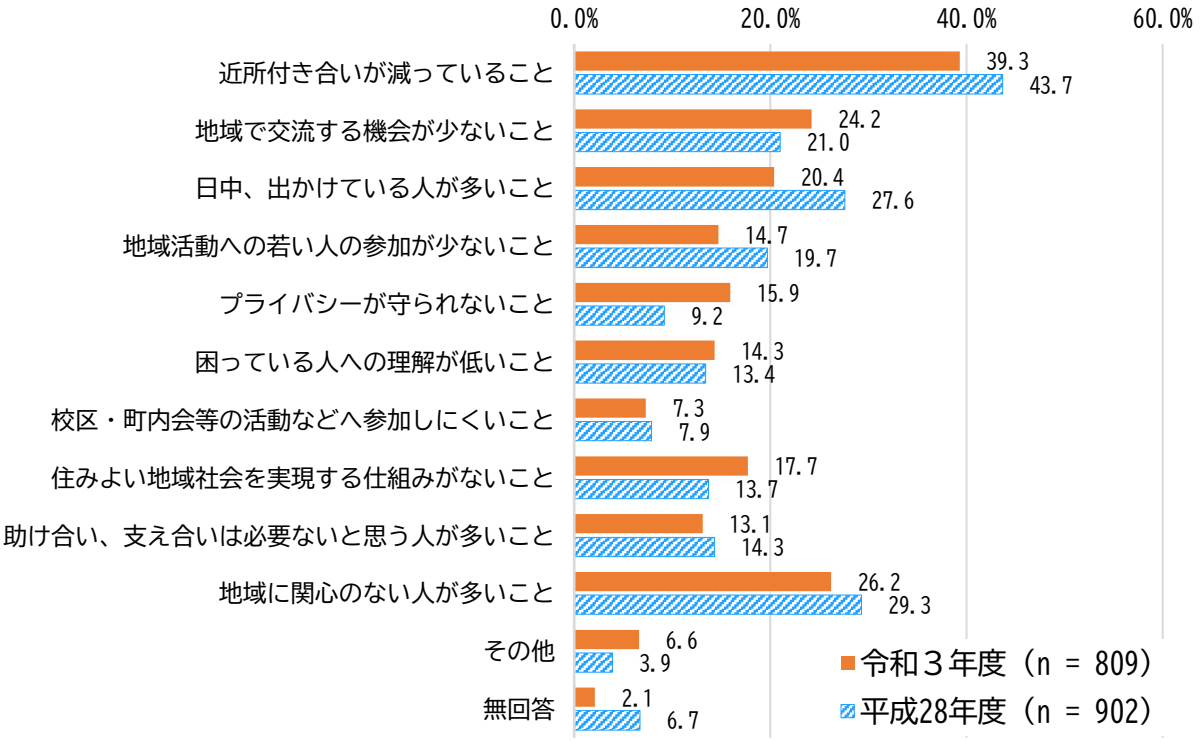
中学校区別では、南部中学校区、一宮中学校区で「話し相手」の割合が、他の中学校区と比べて特に高くなっています。

区分		安否確認の声かけ	話し相手	悩み事、心配ごとの相談	ちょっとした買い物	ちょっとした家事（電球交換など）	ごみ出し	短時間の子どもの預かり	子育ての相談	保育園・幼稚園への送迎	外出先（買い物や通院など）への送迎	その他	特にない	無回答
全体(n=802)		39.7	17.1	9.1	14.2	9.6	11.2	3.6	3.1	1.6	10.5	2.1	33.4	1.9
性別	男性(n=355)	38.3	15.8	9.9	11.5	9.0	9.9	4.5	3.4	2.0	10.4	2.0	39.2	1.1
	女性(n=447)	40.7	18.1	8.5	16.3	10.1	12.3	2.9	2.9	1.3	10.5	2.2	28.9	2.5
年齢別	20代以下(n=86)	24.4	9.3	8.1	3.5	1.2	3.5	3.5	5.8	2.3	7.0	-	52.3	-
	30代(n=82)	22.0	14.6	3.7	6.1	1.2	1.2	13.4	13.4	4.9	2.4	2.4	43.9	1.2
	40代(n=119)	36.1	11.8	13.4	9.2	5.9	3.4	9.2	6.7	5.0	6.7	3.4	43.7	-
	50代(n=115)	44.3	11.3	10.4	16.5	14.8	13.9	1.7	-	-	13.0	2.6	33.0	2.6
	60代(n=154)	51.3	17.5	11.0	18.2	13.0	14.3	1.3	0.6	0.6	16.2	3.2	22.1	1.3
	70代以上(n=245)	43.3	26.1	7.3	20.0	12.7	18.0	-	-	-	11.8	1.2	24.5	3.7
中学校区別	東部(n=117)	33.3	16.2	13.7	11.1	3.4	5.1	3.4	6.8	1.7	10.3	0.9	38.5	2.6
	南部(n=70)	38.6	25.7	10.0	14.3	14.3	12.9	2.9	4.3	1.4	11.4	-	32.9	2.9
	中部(n=68)	36.8	16.2	4.4	11.8	5.9	16.2	4.4	1.5	1.5	7.4	5.9	36.8	1.5
	西部(n=77)	41.6	9.1	5.2	20.8	10.4	11.7	7.8	2.6	5.2	10.4	2.6	32.5	2.6
	代田(n=67)	40.3	13.4	1.5	10.4	9.0	11.9	3.0	3.0	-	6.0	1.5	38.8	1.5
	金屋(n=57)	45.6	15.8	14.0	15.8	15.8	15.8	3.5	-	1.8	14.0	1.8	26.3	5.3
	一宮(n=72)	44.4	25.0	11.1	16.7	8.3	11.1	1.4	1.4	-	11.1	1.4	26.4	2.8
	音羽(n=76)	47.4	18.4	9.2	14.5	13.2	6.6	1.3	1.3	-	13.2	3.9	25.0	-
	御津(n=88)	34.1	14.8	12.5	18.2	12.5	18.2	4.5	4.5	3.4	15.9	2.3	36.4	1.1
	小坂井(n=76)	43.4	19.7	9.2	13.2	9.2	7.9	3.9	2.6	1.3	7.9	-	34.2	-
	わからない(n=34)	29.4	14.7	2.9	8.8	5.9	8.8	2.9	2.9	-	5.9	2.9	38.2	-

問18　住みやすい地域を実現していく上で、問題となることは何だと思いますか。（○は３つまで）

全体では、「近所付き合いが減っていること」の割合が 39.3%と最も高く、次いで「地域に関心のない人が多いこと」が 26.2%、「地域で交流する機会が少ないこと」が 24.2%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「日中、出かけている人が多いこと」の割合が大きく減少しています。



性別では、女性に比べ、男性は「地域活動への若い人の参加が少ないこと」「地域に関心のない人が多いこと」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性は「プライバシーが守られないこと」の割合が高くなっています。

年齢別では、30 代と 70 代以上で「地域で交流する機会が少ないこと」の割合が高くなっています。また、20 代以下と 40 代で「プライバシーが守られないこと」の割合が高くなっています。

中学校区別では、一宮中学校区で「地域で交流する機会が少ないこと」と「日中、出かけている人が多いこと」の割合が特に高くなっています。

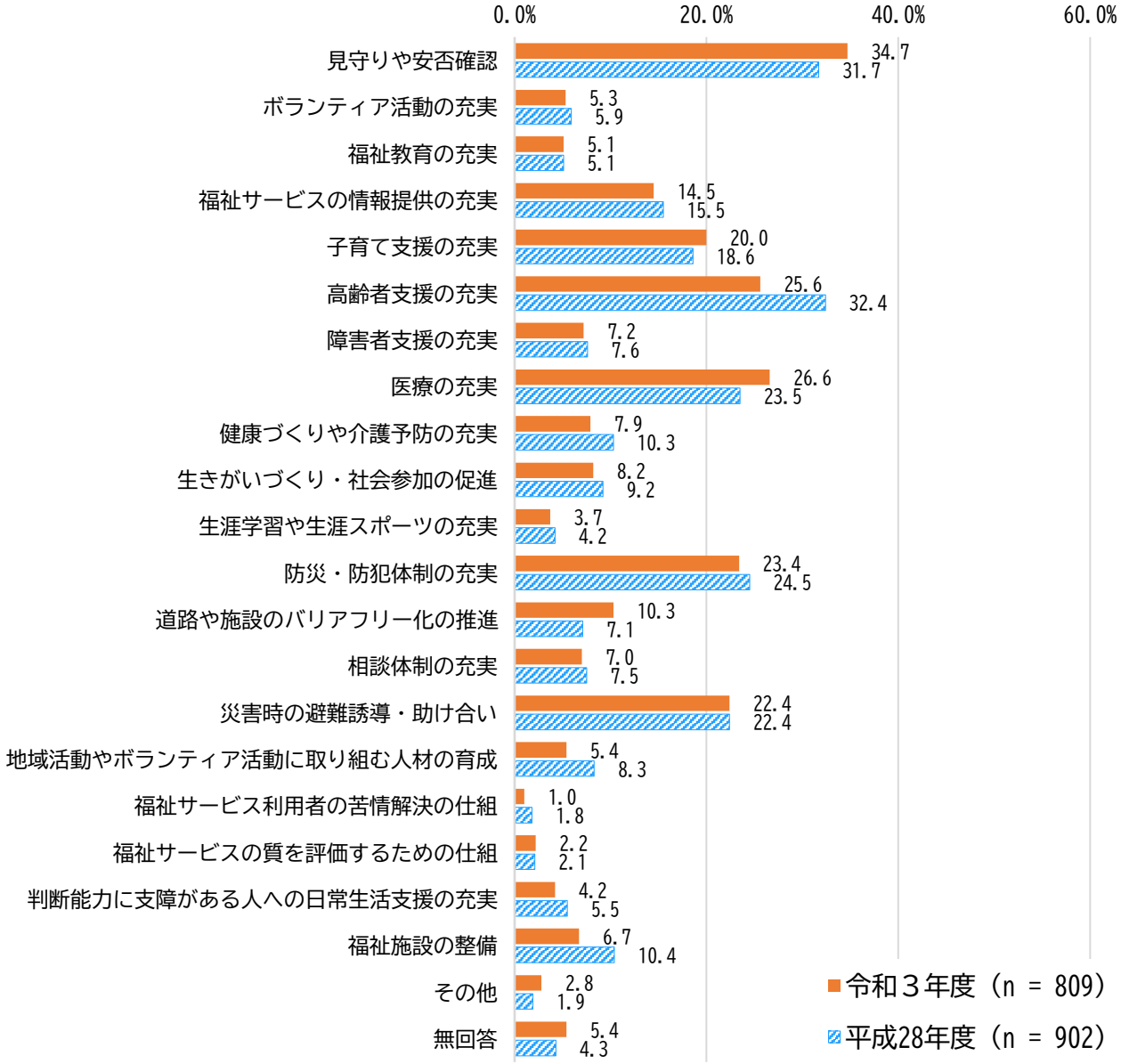
家族構成別では、三世代、一人暮らしで「日中、出かけている人が多いこと」の割合が高くなっています。

区分		近所付き合いが減っていること	地域で交流する機会が少ないこと	日中、出かけている人が多いこと	地域活動への若い人の参加が少ないこと	プライバシーが守られないこと	困っている人への理解が低いこと	校区・町内会等の活動などへ参加しにくいこと	住みよい地域社会を実現する仕組みがないこと	助け合い、支え合いは必要ないと思う人が多いこと	地域に関心のない人が多いこと	その他	無回答
全体(n=802)		39.0	24.1	20.4	14.6	15.8	14.3	7.1	17.8	13.1	26.2	6.6	2.1
性別	男性(n=355)	37.2	25.4	19.2	17.5	11.3	14.4	6.5	18.9	13.8	29.3	8.5	1.7
	女性(n=447)	40.5	23.0	21.5	12.3	19.5	14.3	7.6	17.0	12.5	23.7	5.1	2.5
年齢別	20代以下(n=86)	29.1	23.3	14.0	18.6	25.6	11.6	12.8	11.6	4.7	20.9	4.7	-
	30代(n=82)	20.7	26.8	14.6	13.4	19.5	7.3	12.2	22.0	12.2	22.0	12.2	2.4
	40代(n=119)	27.7	17.6	16.8	11.8	25.2	17.6	6.7	22.7	11.8	26.1	9.2	0.8
	50代(n=115)	34.8	15.7	25.2	7.8	16.5	16.5	5.2	21.7	14.8	21.7	8.7	1.7
	60代(n=154)	40.9	23.4	21.4	19.5	16.2	18.2	7.8	16.9	12.3	39.6	5.2	0.6
	70代以上(n=245)	55.5	31.8	23.3	15.5	6.1	12.7	4.5	15.1	16.3	23.3	4.1	4.5
中学校区別	東部(n=117)	35.0	26.5	15.4	12.0	12.8	12.8	10.3	17.1	16.2	27.4	6.8	-
	南部(n=70)	44.3	21.4	14.3	21.4	20.0	11.4	8.6	21.4	15.7	24.3	4.3	1.4
	中部(n=68)	41.2	25.0	19.1	13.2	13.2	7.4	8.8	23.5	13.2	23.5	8.8	1.5
	西部(n=77)	36.4	7.8	15.6	14.3	10.4	20.8	9.1	19.5	9.1	33.8	6.5	3.9
	代田(n=67)	35.8	22.4	14.9	7.5	19.4	13.4	10.4	22.4	11.9	31.3	9.0	1.5
	金屋(n=57)	45.6	28.1	24.6	19.3	10.5	15.8	5.3	8.8	24.6	28.1	5.3	3.5
	一宮(n=72)	38.9	36.1	36.1	23.6	16.7	8.3	4.2	11.1	6.9	23.6	6.9	2.8
	音羽(n=76)	46.1	22.4	21.1	11.8	13.2	21.1	2.6	19.7	10.5	15.8	9.2	1.3
	御津(n=88)	39.8	25.0	21.6	12.5	19.3	17.0	3.4	19.3	11.4	23.9	5.7	4.5
	小坂井(n=76)	34.2	28.9	27.6	15.8	18.4	14.5	6.6	19.7	13.2	27.6	3.9	1.3
	わからない(n=34)	35.3	20.6	14.7	11.8	23.5	14.7	11.8	5.9	11.8	29.4	5.9	2.9
家族構成	ひとり暮らし(n=135)	39.3	21.5	25.2	16.3	11.1	14.8	8.9	16.3	14.1	24.4	8.9	3.0
	夫婦のみ(n=232)	48.7	26.3	18.1	14.7	14.2	14.7	8.6	18.5	12.9	28.9	4.3	3.0
	親とあなたの二世代(n=112)	27.7	25.9	17.9	15.2	23.2	12.5	5.4	14.3	9.8	20.5	7.1	0.0
	あなたと子の二世代(n=244)	36.5	25.4	19.7	13.9	13.9	13.5	5.3	20.5	13.9	27.0	5.7	2.0
	三世代世帯（親と子と孫）(n=59)	35.6	15.3	28.8	15.3	23.7	15.3	6.8	15.3	15.3	25.4	13.6	1.7
	その他(n=21)	33.3	23.8	14.3	9.5	23.8	23.8	14.3	14.3	9.5	28.6	4.8	0.0

問19　誰もが安心して暮らしていくために、特に必要だと思うことは何ですか。（○は３つまで）

全体では、「見守りや安否確認」の割合が 34.7%と最も高く、次いで「医療の充実」が 26.6%、「高齢者支援の充実」が 25.6%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「高齢者支援の充実」の割合が大きく減少し、「見守りや安否確認」、「医療の充実」の割合が増加しています。



性別では、女性に比べ、男性で「防災・防犯体制の充実」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「医療の充実」「福祉サービスの情報提供の充実」の割合が高くなっています。

年齢別では、20 代以下と 30 代で「子育て支援の充実」、60 代と 70 代で「高齢者支援の充実」の割合が高くなっています。

中学校区別では、南部中学校区で「見守りや安否確認」、東部中学校区で「子育ての充実」、小坂井中学校区で「高齢者支援の充実」の割合が高くなっています。

区分		見守りや安否確認	ボランティア活動の充実	福祉教育の充実	福祉サービスの情報提供の充実	子育て支援の充実	高齢者支援の充実	障害者支援の充実	医療の充実	健康づくりや介護予防の充実	生きがいづくり・社会参加の促進	生涯学習や生涯スポーツの充実
全体(n=802)		34.8	5.2	4.9	14.6	20.0	25.4	7.2	26.6	8.0	8.2	3.7
性別	男性(n=355)	32.7	5.4	5.4	11.8	20.3	23.7	6.2	23.7	7.6	7.6	3.9
	女性(n=447)	36.5	5.1	4.5	16.8	19.7	26.8	8.1	28.9	8.3	8.7	3.6
年齢別	20代以下(n=86)	32.6	3.5	7.0	12.8	41.9	7.0	5.8	29.1	1.2	4.7	3.5
	30代(n=82)	39.0	-	6.1	9.8	57.3	19.5	7.3	26.8	3.7	8.5	2.4
	40代(n=119)	34.5	5.0	6.7	12.6	31.9	16.0	5.9	30.3	4.2	9.2	3.4
	50代(n=115)	33.9	2.6	3.5	13.0	14.8	23.5	12.2	31.3	5.2	7.0	3.5
	60代(n=154)	35.7	5.2	3.2	18.8	8.4	35.1	5.8	27.9	9.7	7.1	2.6
	70代以上(n=245)	34.7	9.4	4.9	15.9	4.1	33.9	6.9	20.4	13.9	10.2	5.3
中学校区別	東部(n=117)	30.8	3.4	6.0	12.8	28.2	23.9	8.5	23.9	6.8	7.7	2.6
	南部(n=70)	47.1	8.6	7.1	17.1	14.3	27.1	8.6	22.9	11.4	15.7	8.6
	中部(n=68)	29.4	1.5	5.9	13.2	20.6	30.9	7.4	26.5	5.9	4.4	1.5
	西部(n=77)	36.4	5.2	3.9	10.4	20.8	15.6	5.2	23.4	5.2	6.5	3.9
	代田(n=67)	31.3	3.0	3.0	20.9	13.4	26.9	11.9	31.3	10.4	6.0	6.0
	金屋(n=57)	31.6	5.3	8.8	12.3	19.3	21.1	8.8	19.3	8.8	12.3	3.5
	一宮(n=72)	33.3	9.7	8.3	9.7	19.4	34.7	5.6	30.6	2.8	2.8	2.8
	音羽(n=76)	35.5	6.6	-	18.4	10.5	25.0	7.9	25.0	5.3	6.6	1.3
	御津(n=88)	34.1	4.5	4.5	15.9	21.6	19.3	4.5	33.0	12.5	9.1	2.3
	小坂井(n=76)	38.2	9.2	2.6	18.4	19.7	38.2	5.3	19.7	10.5	10.5	3.9
	わからない(n=34)	38.2	-	5.9	8.8	35.3	14.7	5.9	47.1	8.8	11.8	8.8

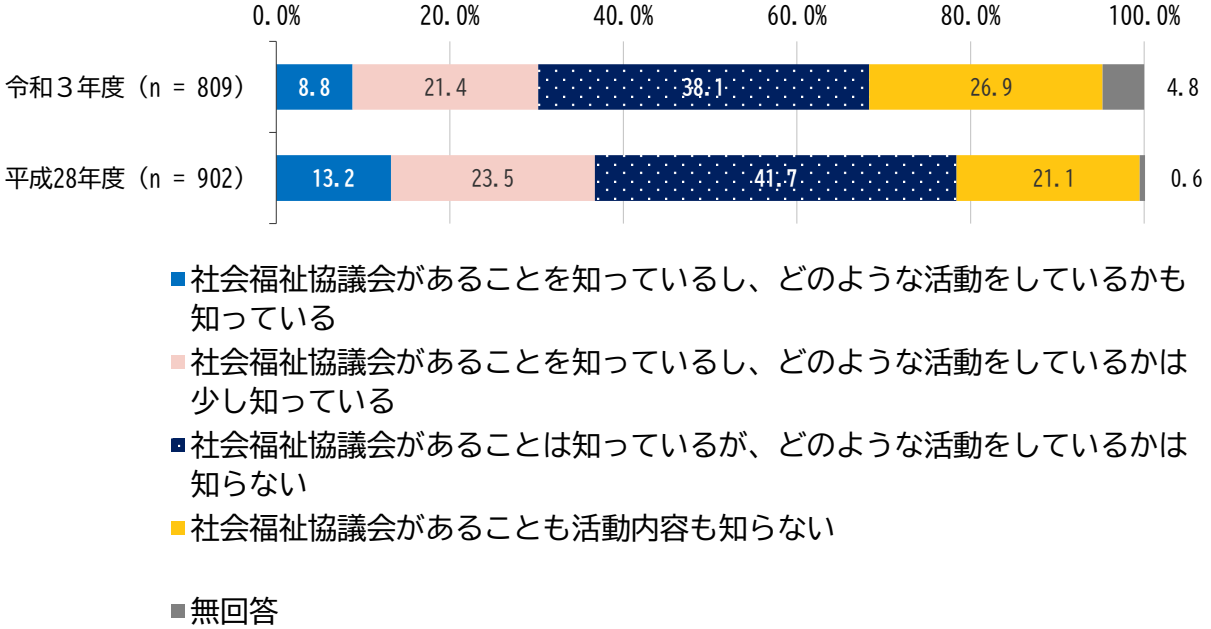
（つづき）

区分		防災・防犯体制の充実	道路や施設のバリアフリー化の推進	相談体制の充実	災害時の避難誘導・助け合い	地域活動やボランティア活動に取り組む人材の育成	福祉サービス利用者の苦情解決の仕組	福祉サービスの質を評価するための仕組	判断能力に支障がある人への日常生活支援の充実	福祉施設の整備	その他	無回答
全体(n=802)		23.3	10.3	7.0	22.6	5.5	1.0	2.2	4.2	6.6	2.9	5.4
性別	男性(n=355)	29.6	10.7	5.4	24.2	7.3	1.7	2.3	2.5	7.6	3.9	5.1
	女性(n=447)	18.3	10.1	8.3	21.3	4.0	0.4	2.2	5.6	5.8	2.0	5.6
年齢別	20代以下(n=86)	23.3	17.4	7.0	20.9	-	-	1.2	-	4.7	3.5	5.8
	30代(n=82)	25.6	11.0	8.5	14.6	2.4	-	2.4	-	4.9	2.4	1.2
	40代(n=119)	28.6	6.7	9.2	31.9	2.5	1.7	0.8	2.5	2.5	5.0	1.7
	50代(n=115)	33.0	15.7	6.1	20.0	5.2	1.7	3.5	8.7	6.1	2.6	2.6
	60代(n=154)	27.3	10.4	9.1	25.3	5.8	0.6	0.6	5.8	9.7	1.9	5.2
	70代以上(n=245)	13.1	6.5	4.5	20.8	9.8	1.2	3.7	4.9	7.8	2.4	9.4
中学校区別	東部(n=117)	19.7	9.4	6.0	17.1	1.7	1.7	3.4	4.3	8.5	4.3	6.8
	南部(n=70)	20.0	12.9	4.3	22.9	7.1	-	-	4.3	5.7	1.4	2.9
	中部(n=68)	25.0	11.8	16.2	26.5	5.9	-	1.5	4.4	5.9	4.4	5.9
	西部(n=77)	23.4	14.3	5.2	23.4	3.9	1.3	-	6.5	9.1	7.8	7.8
	代田(n=67)	26.9	7.5	1.5	16.4	7.5	3.0	6.0	4.5	4.5	1.5	1.5
	金屋(n=57)	28.1	7.0	7.0	19.3	12.3	-	1.8	5.3	3.5	1.8	8.8
	一宮(n=72)	16.7	9.7	9.7	23.6	5.6	-	1.4	5.6	6.9	2.8	4.2
	音羽(n=76)	26.3	11.8	2.6	22.4	5.3	-	2.6	2.6	7.9	1.3	10.5
	御津(n=88)	22.7	9.1	6.8	33.0	4.5	1.1	2.3	3.4	4.5	2.3	5.7
	小坂井(n=76)	22.4	11.8	7.9	22.4	3.9	1.3	3.9	3.9	10.5	-	1.3
	わからない(n=34)	29.4	5.9	11.8	17.6	8.8	2.9	-	-	-	2.9	-

問20　社会福祉協議会※を知っていますか。（○は１つ）

全体では、「社会福祉協議会があることを知っているし、どのような活動をしているかも知っている」と「社会福祉協議会があることを知っているし、どのような活動をしているかは少し知っている」をあわせた“活動内容を知っている”の割合が 30.2%、「社会福祉協議会があることは知っているが、どのような活動をしているかは知らない」と「社会福祉協議会があることも活動内容も知らない」をあわせた“活動内容を知らない”の割合が 65.0%となっています。地域福祉を牽引する団体であることから、今後ますます活動内容を周知していくことが必要です。

平成 28 年度調査との比較では、“活動内容を知っている”の割合が減少しています。

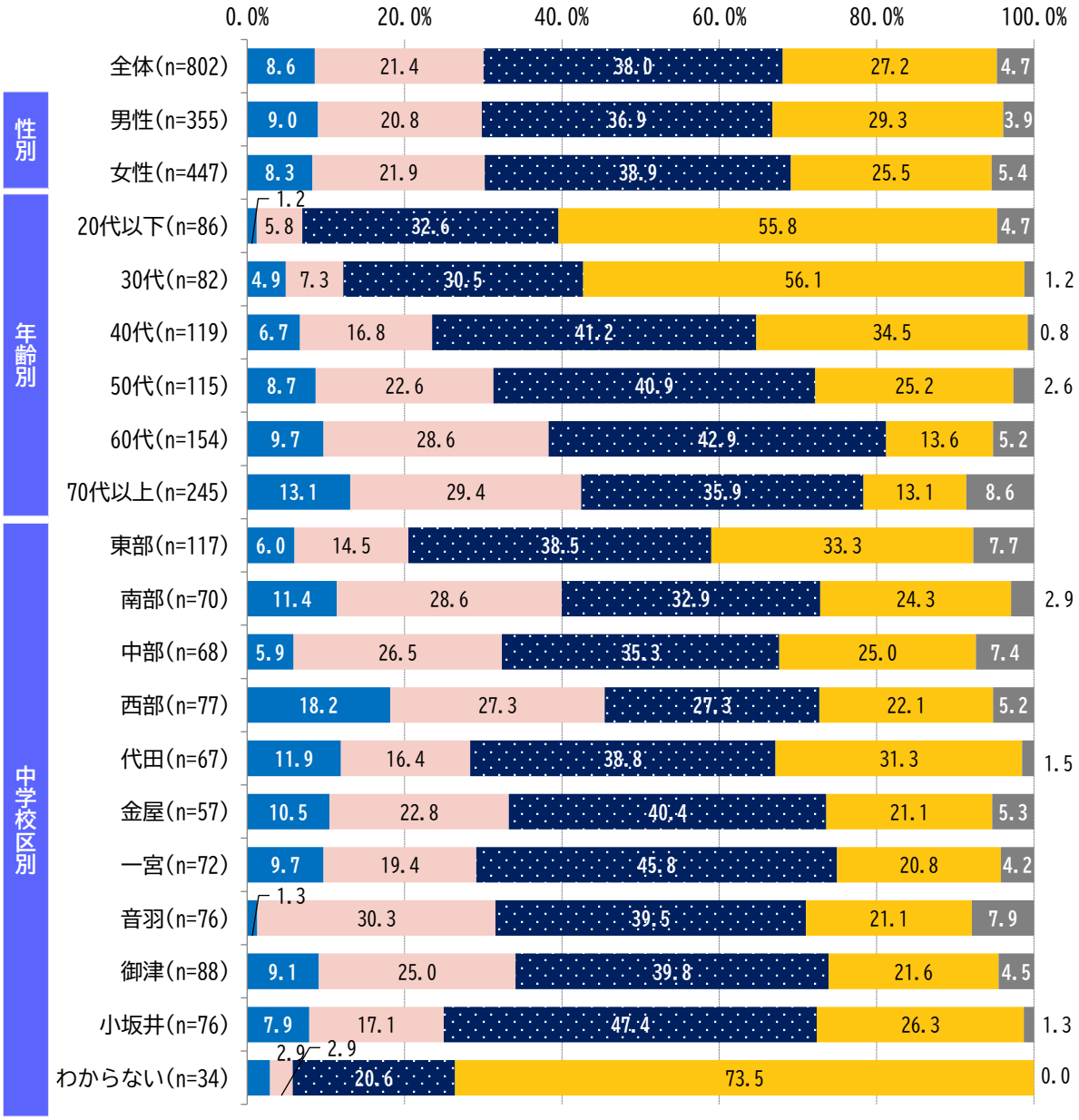


※社会福祉協議会：略して「社協」ともいう。地域福祉の推進を目的として、地域住民や福祉活動団体、福祉事業者等の参加によって構成される民間の団体。地域の見守りのしくみづくりやボランティア活動の支援、福祉サービスの提供等、様々な場面で地域の福祉増進に取り組んでいる。

性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、年齢が高くなるにつれて“活動内容を知っている”の割合が高くなる傾向にあります。

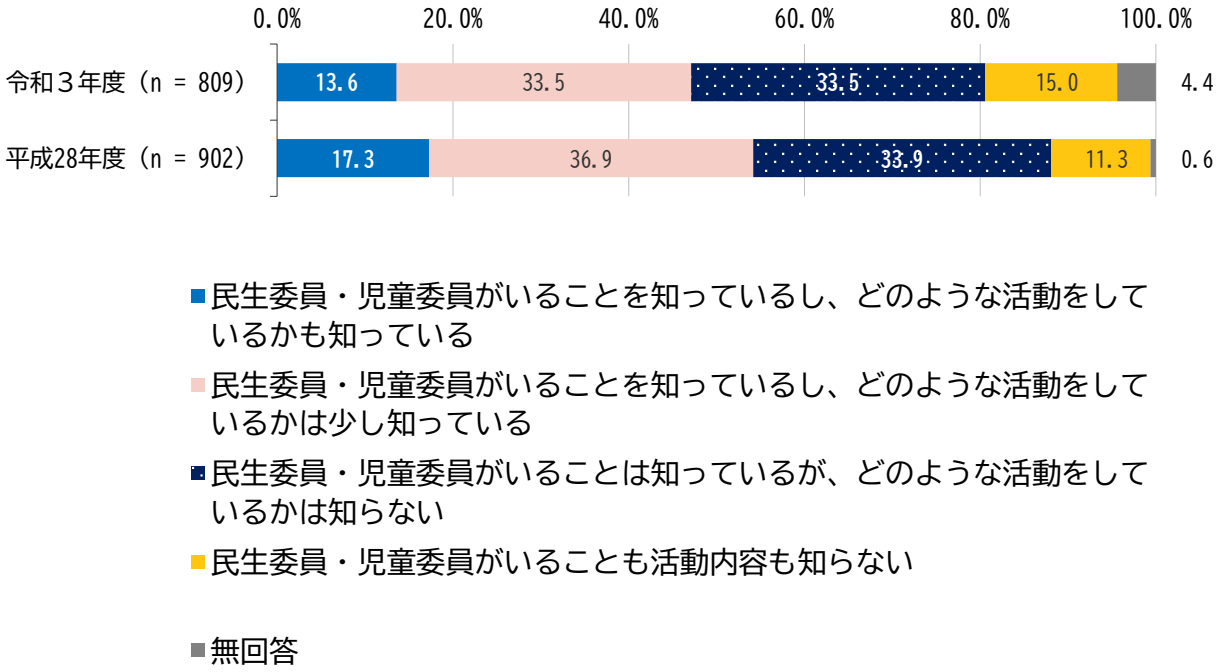
中学校区別では、西部中学校区、南部中学校区で“活動内容を知っている”の割合が高くなっています。



問21　民生委員・児童委員※を知っていますか。（○は１つ）

全体では、「民生委員・児童委員がいることを知っているし、どのような活動をしているかも知っている」と「民生委員・児童委員がいることを知っているし、どのような活動をしているかは少し知っている」をあわせた“活動内容を知っている”の割合が 47.1%、「民生委員・児童委員がいることは知っているが、どのような活動をしているかは知らない」と「民生委員・児童委員がいることも活動内容も知らない」をあわせた“活動内容を知らない”の割合が 48.5%となっています。

平成 28 年度調査との比較では、“活動内容を知っている”の割合が減少しています。

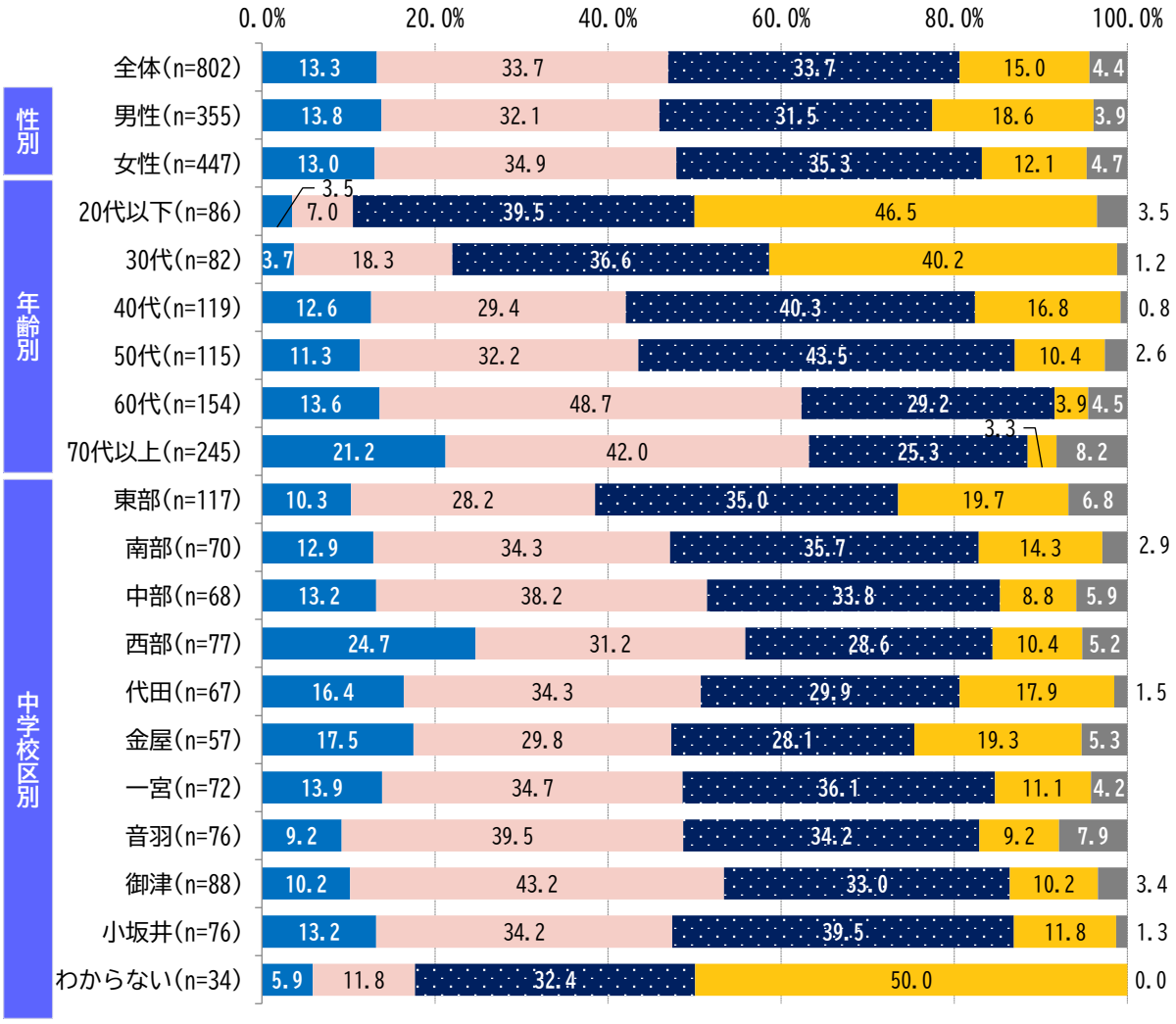


※民生委員・児童委員：自らも地域住民の一員として、それぞれが担当する区域において、住民の生活上のさまざまな相談に応じ、行政をはじめ適切な支援やサービスへの「つなぎ役」としての役割を果たすとともに、高齢者や障害者世帯の見守りや安否確認などにも重要な役割を果たす人。

性別では、女性に比べ、男性で「民生委員・児童委員がいることも活動内容も知らない」の割合が高くなっています。

年齢別では、年齢が高くなるにつれて“活動内容を知っている”の割合が高くなる傾向にあります。

中学校区別では、西部中学校区、御津中学校区で“活動内容を知っている”の割合が高くなっています。



■民生委員・児童委員がいることを知っているし、どのような活動をしているかも知っている

■民生委員・児童委員がいることを知っているし、どのような活動をしているかは少し知っている

■民生委員・児童委員がいることは知っているが、どのような活動をしているかは知らない

■民生委員・児童委員がいることも活動内容も知らない

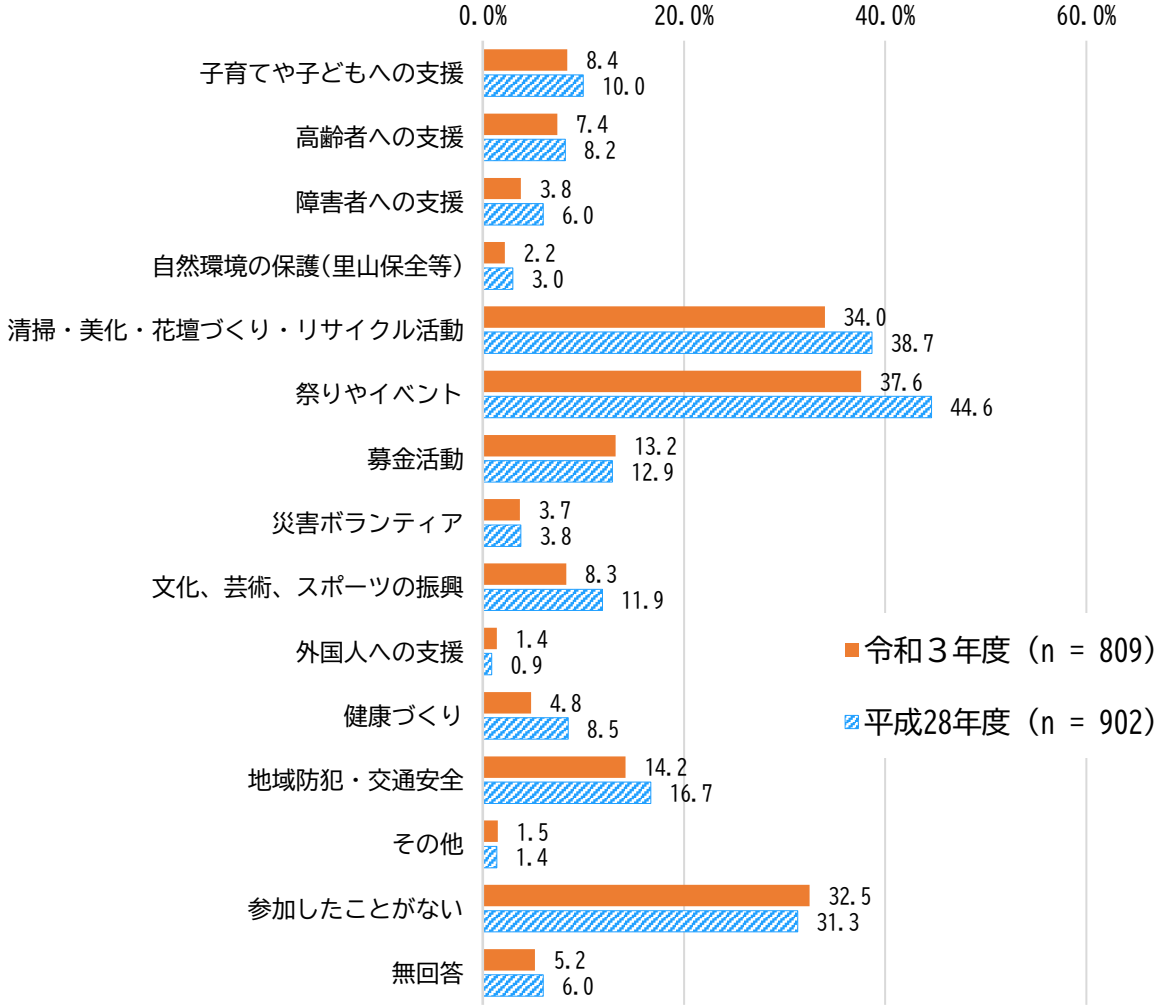
■無回答

4　ボランティア・地域活動についておたずねします

問22　これまでに「参加したことがある」ボランティア・地域活動はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「祭りやイベント」の割合が 37.6%と最も高く、次いで「清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動」の割合が 34.0%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動」「祭りやイベント」の割合が特に減少しています。



性別では、女性に比べ、男性で「祭りやイベント」「地域防犯・交通安全」の割合が高くなっています。

年齢別では、40 代で「祭りやイベント」、50 代で「祭りやイベント」「清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動」の割合が高くなっています。

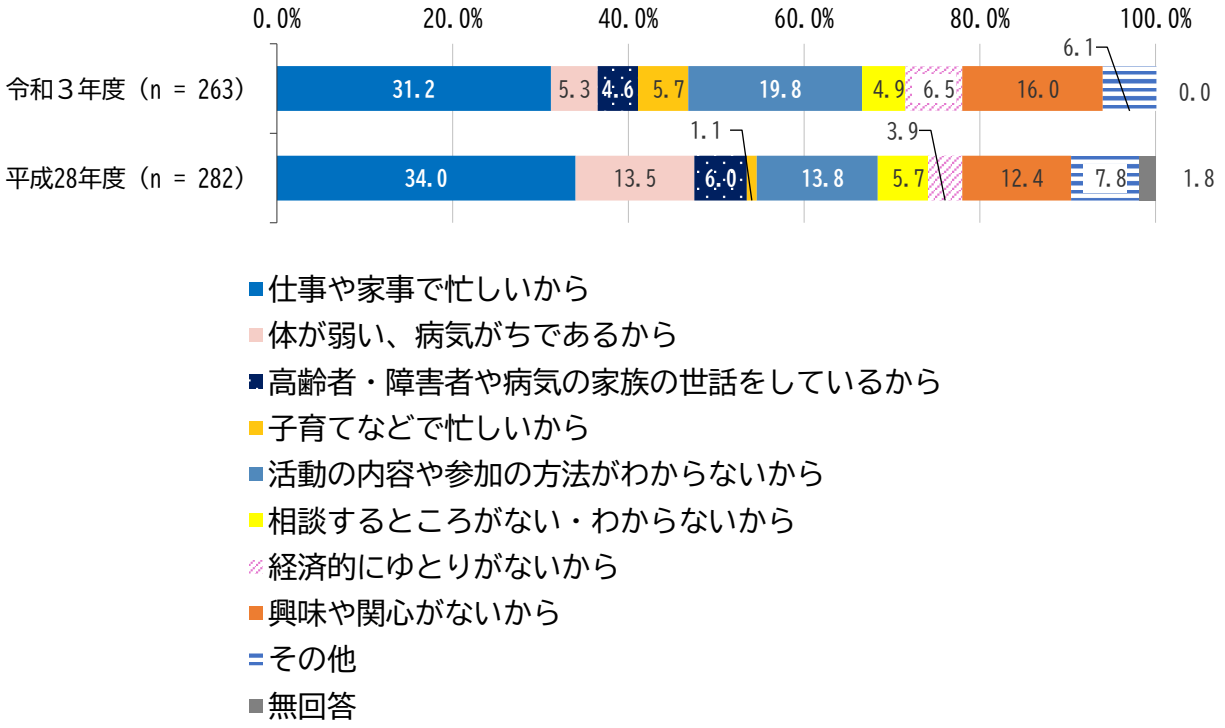
中学校区別では、多くの中学校区で「祭りやイベント」「清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動」の割合が高くなっています。また、西部中学校区、金屋学校区では「地域防犯・交通安全」、代田中学校区では「募金活動」の割合が高くなっています。

区分		子育てや子どもへの支援	高齢者への支援	障害者への支援	自然環境の保護（里山保全等）	清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動	祭りやイベント	募金活動	災害ボランティア	文化、芸術、スポーツの振興	外国人への支援	健康づくり	地域防犯・交通安全	その他	参加したことがない	無回答
全体(n=802)		8.2	7.4	3.9	2.1	33.8	37.5	13.3	3.7	8.2	1.2	4.9	14.0	1.5	32.5	5.1
性別	男性(n=355)	6.8	5.6	1.7	4.2	36.1	42.8	12.7	5.6	9.6	0.6	3.9	17.5	1.4	31.5	4.5
	女性(n=447)	9.4	8.7	5.6	0.4	32.0	33.3	13.9	2.2	7.2	1.8	5.6	11.2	1.6	33.3	5.6
年齢別	20代以下(n=86)	3.5	3.5	5.8	-	19.8	33.7	15.1	2.3	9.3	1.2	1.2	1.2	-	40.7	3.5
	30代(n=82)	15.9	7.3	2.4	1.2	25.6	23.2	8.5	1.2	7.3	1.2	2.4	6.1	-	53.7	1.2
	40代(n=119)	9.2	6.7	2.5	1.7	31.1	47.9	21.0	3.4	6.7	3.4	1.7	13.4	1.7	29.4	0.8
	50代(n=115)	12.2	5.2	3.5	3.5	45.2	46.1	16.5	6.1	8.7	1.7	3.5	16.5	2.6	27.0	2.6
	60代(n=154)	11.0	7.1	6.5	3.9	41.6	44.2	11.0	5.2	5.8	0.6	5.2	19.5	2.6	25.3	5.8
	70代以上(n=245)	3.7	10.6	2.9	2.0	32.7	31.0	10.6	3.3	10.6	0.8	9.0	17.1	1.2	31.0	9.8
中学校区別	東部(n=117)	12.0	6.0	5.1	0.9	22.2	38.5	7.7	3.4	12.0	0.9	1.7	12.8	-	39.3	7.7
	南部(n=70)	7.1	10.0	5.7	-	27.1	40.0	11.4	7.1	12.9	-	12.9	14.3	1.4	34.3	4.3
	中部(n=68)	10.3	4.4	4.4	2.9	33.8	30.9	5.9	4.4	1.5	-	8.8	11.8	2.9	32.4	5.9
	西部(n=77)	6.5	7.8	2.6	2.6	42.9	48.1	16.9	6.5	11.7	2.6	3.9	26.0	1.3	19.5	5.2
	代田(n=67)	1.5	6.0	1.5	-	26.9	37.3	22.4	3.0	7.5	4.5	4.5	7.5	4.5	35.8	3.0
	金屋(n=57)	8.8	10.5	3.5	-	35.1	40.4	8.8	5.3	10.5	1.8	7.0	24.6	1.8	31.6	5.3
	一宮(n=72)	5.6	4.2	2.8	4.2	34.7	30.6	19.4	5.6	8.3	2.8	2.8	18.1	-	33.3	4.2
	音羽(n=76)	7.9	7.9	1.3	7.9	40.8	34.2	14.5	2.6	11.8	-	3.9	9.2	2.6	25.0	10.5
	御津(n=88)	10.2	6.8	4.5	3.4	43.2	44.3	14.8	2.3	5.7	2.3	3.4	12.5	-	27.3	4.5
	小坂井(n=76)	10.5	13.2	6.6	1.3	46.1	40.8	11.8	-	1.3	-	3.9	13.2	2.6	30.3	-
	わからない(n=34)	8.8	5.9	2.9	-	8.8	11.8	14.7	-	5.9	-	2.9	-	-	64.7	2.9

問22で「14. 参加したことがない」と答えた方にお聞きします
問22-1　ボランティア・地域活動に参加したことがない理由を教えてください。（○は１つ）

全体では、「仕事や家事で忙しいから」の割合が 31.2%と最も高く、次いで「活動の内容や参加の方法がわからないから」が 19.8%、「興味や関心がないから」の割合が 16.0%となっています。

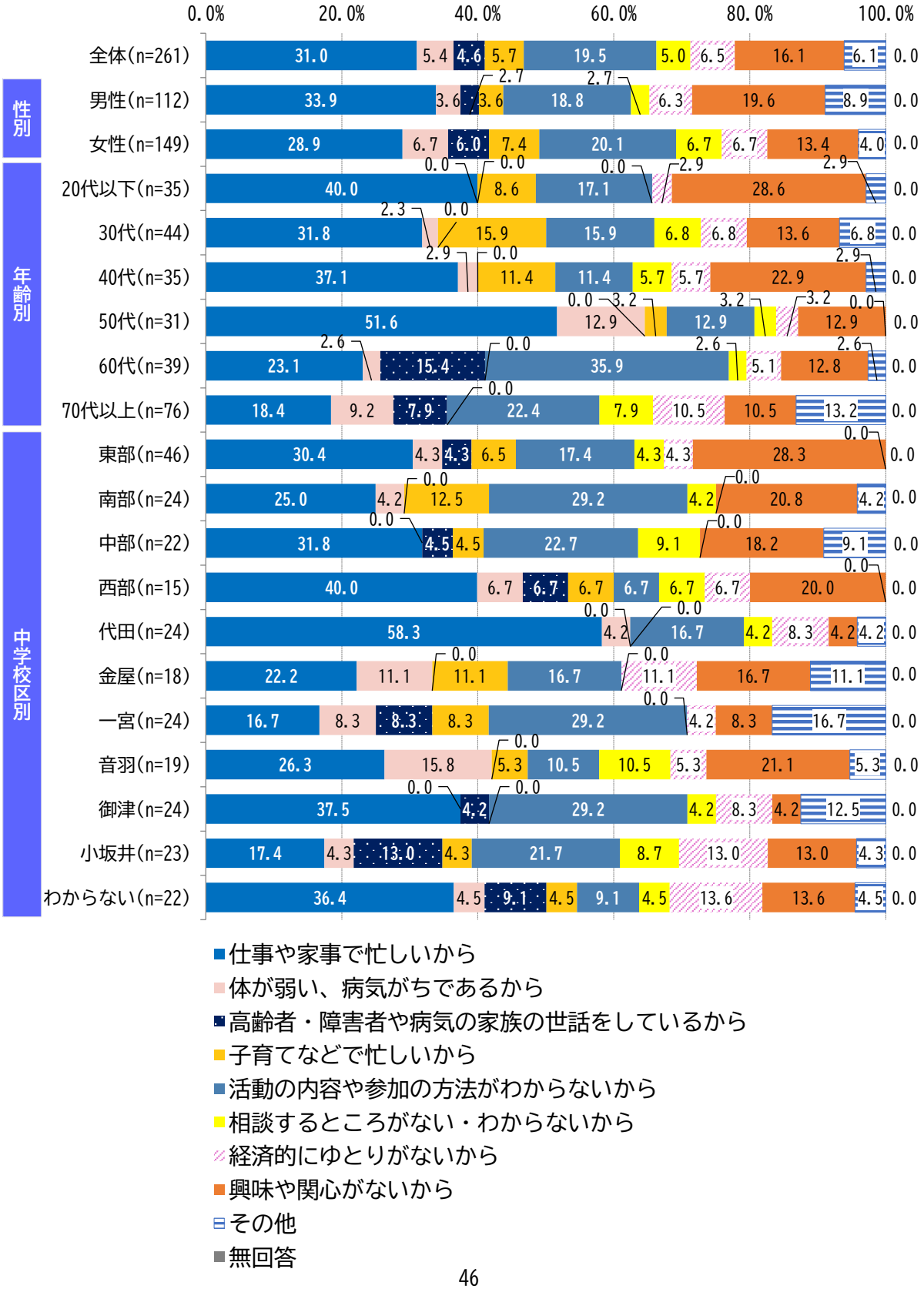
平成 28 年度調査と比較すると、「興味や関心がないから」が特に増加しています。



性別では、女性に比べ、男性で「興味や関心がないから」の割合が高くなっています。

年齢別では、50 代で「仕事や家事で忙しいから」の割合が高くなっています。

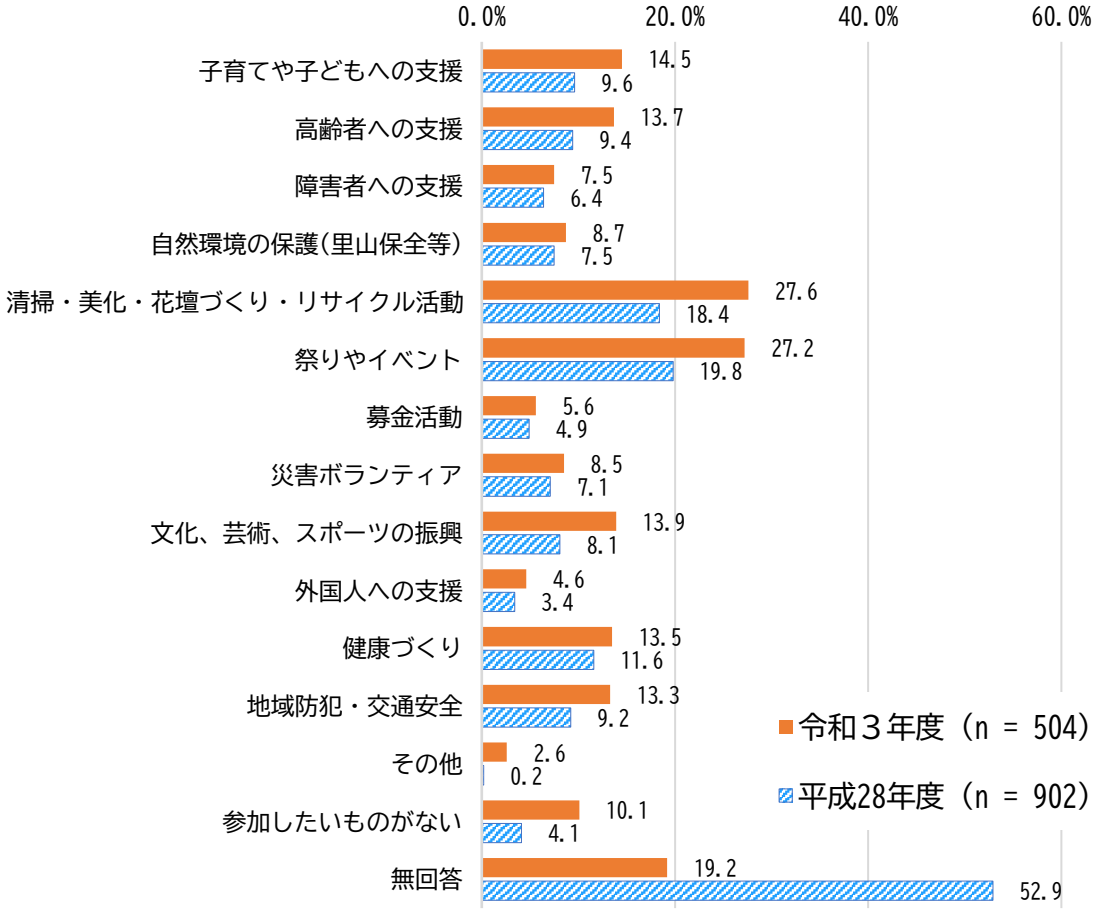
中学校区別では、東部中学校区で「興味や関心がないから」、代田中学校区で「仕事や家事で忙しいから」の割合が高くなっています。



問22で「14. 参加したことがない」以外を答えた方にお聞きします
問22-2　参加経験の有無にかかわらず「今後(も)参加してみたい」ボランティア・地域活動はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

全体では、「清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動」が 27.6%と最も高く、次いで「祭りやイベント」の割合が 27.2%、「子育てや子どもへの支援」が 14.5%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、多くの項目で増加しています。特に「清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動」、「祭りやイベント」の割合が増加しており、地域の催事に対する関心がうかがえます。



※平成28年度では、問22で「14.参加したことがない」を選択された方も回答数に含まれます。

性別では、女性に比べ、男性で「地域防犯・交通安全」「災害ボランティア」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「子育てや子どもへの支援」「高齢者への支援」の割合が高くなっています。

年齢別では、他に比べ、30 代で「子育てや子どもへの支援」の割合が高くなっています。

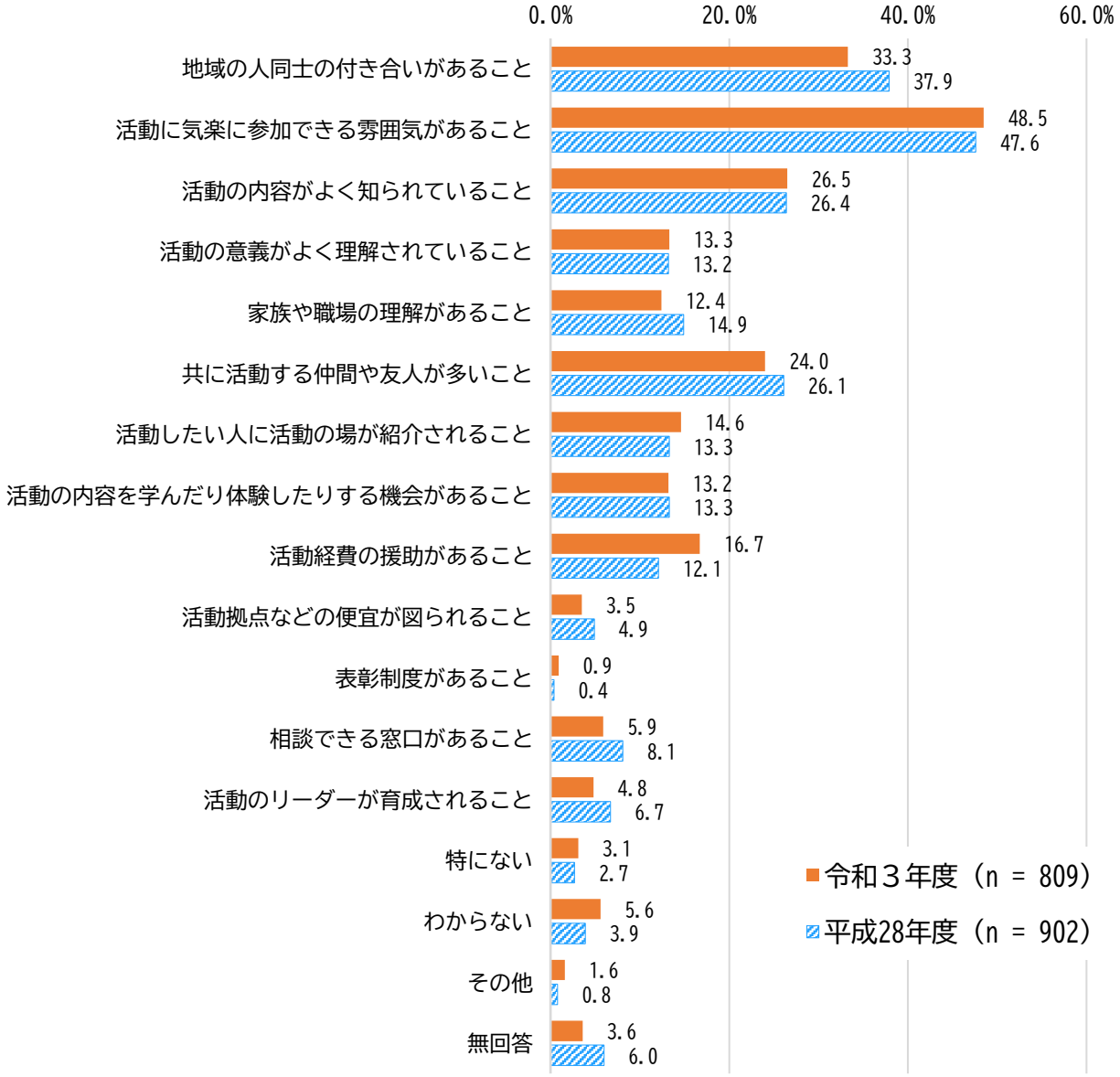
中学校区別では、「祭りやイベント」「清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動」の他に、中部中学校区で「子育てや子どもへの支援」の割合が、小坂井中学校区で「高齢者への支援」、南部中学校区で「健康づくり」の割合が高くなっています。

区分		子育てや子どもへの支援	高齢者への支援	障害者への支援	自然環境の保護（里山保全等）	清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動	祭りやイベント	募金活動	災害ボランティア	文化、芸術、スポーツの振興	外国人への支援	健康づくり	地域防犯・交通安全	その他	参加したいものがない	無回答
全体(n=500)		14.6	13.8	7.6	8.6	27.6	27.2	5.6	8.6	14.0	4.4	13.4	13.4	2.6	10.2	19.2
性別	男性(n=227)	11.9	10.6	6.6	12.8	30.0	33.0	6.2	12.3	16.7	3.1	11.0	18.1	1.8	10.1	17.2
	女性(n=273)	16.8	16.5	8.4	5.1	25.6	22.3	5.1	5.5	11.7	5.5	15.4	9.5	3.3	10.3	20.9
年齢別	20代以下(n=48)	20.8	4.2	6.3	4.2	16.7	35.4	4.2	8.3	18.8	6.3	10.4	6.3	-	12.5	22.9
	30代(n=37)	32.4	2.7	2.7	8.1	21.6	32.4	5.4	5.4	27.0	10.8	8.1	18.9	-	16.2	18.9
	40代(n=83)	18.1	9.6	7.2	3.6	19.3	31.3	8.4	8.4	13.3	4.8	7.2	8.4	3.6	10.8	24.1
	50代(n=81)	14.8	14.8	12.3	9.9	23.5	25.9	4.9	9.9	12.3	6.2	13.6	11.1	2.5	21.0	14.8
	60代(n=106)	16.0	16.0	8.5	13.2	31.1	30.2	4.7	12.3	8.5	4.7	14.2	14.2	1.9	3.8	19.8
	70代以上(n=145)	4.8	20.0	6.2	9.0	37.2	19.3	5.5	6.2	14.5	0.7	18.6	17.9	4.1	6.2	17.2
中学校区別	東部(n=62)	11.3	3.2	4.8	8.1	24.2	38.7	3.2	8.1	19.4	1.6	9.7	14.5	4.8	3.2	25.8
	南部(n=43)	14.0	18.6	16.3	2.3	25.6	30.2	18.6	18.6	11.6	2.3	27.9	23.3	2.3	9.3	11.6
	中部(n=42)	21.4	14.3	7.1	14.3	21.4	9.5	4.8	7.1	4.8	7.1	9.5	9.5	-	14.3	23.8
	西部(n=58)	13.8	8.6	3.4	15.5	25.9	29.3	6.9	6.9	13.8	5.2	13.8	12.1	1.7	13.8	13.8
	代田(n=41)	9.8	9.8	-	12.2	29.3	26.8	2.4	7.3	17.1	7.3	7.3	12.2	9.8	7.3	14.6
	金屋(n=36)	16.7	19.4	13.9	-	25.0	30.6	2.8	11.1	19.4	-	19.4	16.7	-	8.3	19.4
	一宮(n=45)	13.3	15.6	8.9	6.7	24.4	24.4	8.9	11.1	8.9	6.7	8.9	8.9	2.2	15.6	17.8
	音羽(n=49)	10.2	14.3	6.1	8.2	30.6	18.4	2.0	8.2	12.2	6.1	14.3	8.2	2.0	4.1	24.5
	御津(n=60)	20.0	8.3	5.0	10.0	31.7	28.3	5.0	5.0	15.0	5.0	10.0	16.7	1.7	8.3	25.0
	小坂井(n=53)	15.1	32.1	11.3	5.7	35.8	28.3	1.9	7.5	13.2	-	17.0	11.3	1.9	18.9	13.2
	わからない(n=11)	18.2	9.1	18.2	9.1	27.3	36.4	9.1	-	27.3	18.2	9.1	18.2	-	9.1	18.2

問23　ボランティア・地域活動が活発になるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

全体では、「活動に気楽に参加できる雰囲気があること」の割合が 48.5%と最も高く、次いで「地域の人同士の付き合いがあること」が 33.3%、「活動の内容がよく知られていること」が 26.5%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、20 代から 50 代で「活動の内容がよく知られていること」、60 代、70 代以上で「地域の人同士の付き合いがあること」の割合が高くなっています。

中学校区別では、「活動に気楽に参加できる雰囲気があること」、「地域の人同士の付き合いがあること」の他に、一宮中学校区、音羽中学校区、西部中学校区などで「活動の内容がよく知られていること」の割合が高くなっています。

区分		地域の人同士の付き合いがあること	活動に気楽に参加できる雰囲気があること	活動の内容がよく知られていること	活動の意義がよく理解されていること	家族や職場の理解があること	共に活動する仲間や友人が多いこと	活動したい人に活動の場が紹介されること	活動の内容を学んだり体験したりする機会があること	活動経費の援助があること	活動拠点などの便宜が図られること	表彰制度があること	相談できる窓口があること	福祉サービスの質を評価するための仕組	判断能力に支障がある人への日常生活支援の充実	福祉施設の整備	その他	無回答
全体(n=802)		33.3	48.6	26.6	13.2	11.8	23.9	14.6	13.2	16.6	3.5	0.9	6.0	4.9	3.1	5.6	1.6	3.6
性別	男性(n=355)	33.2	45.9	25.4	13.8	11.5	26.2	14.1	14.1	20.8	3.7	1.4	5.6	5.6	3.9	3.4	2.0	3.4
	女性(n=447)	33.3	50.8	27.5	12.8	12.1	22.1	15.0	12.5	13.2	3.4	0.4	6.3	4.3	2.5	7.4	1.3	3.8
年齢別	20代以下(n=86)	22.1	47.7	34.9	9.3	10.5	18.6	16.3	9.3	17.4	3.5	2.3	4.7	1.2	2.3	10.5	3.5	1.2
	30代(n=82)	26.8	50.0	30.5	14.6	19.5	22.0	15.9	11.0	17.1	-	1.2	1.2	2.4	2.4	4.9	1.2	2.4
	40代(n=119)	23.5	49.6	30.3	9.2	13.4	26.1	16.8	14.3	21.8	1.7	2.5	9.2	2.5	1.7	5.9	3.4	3.4
	50代(n=115)	25.2	45.2	26.1	23.5	20.0	19.1	16.5	15.7	23.5	3.5	0.9	7.0	5.2	2.6	5.2	1.7	0.9
	60代(n=154)	38.3	50.6	27.3	14.3	9.7	27.3	13.0	18.8	16.2	3.9	-	7.1	5.8	3.2	3.9	0.6	3.9
	70代以上(n=245)	44.9	48.6	20.4	11.0	6.9	26.1	12.7	10.2	10.6	5.3	-	5.3	7.3	4.1	4.9	0.8	6.1
中学校区別	東部(n=117)	28.2	42.7	23.1	6.8	8.5	25.6	12.0	16.2	15.4	0.9	0.9	7.7	2.6	4.3	8.5	2.6	3.4
	南部(n=70)	32.9	52.9	27.1	11.4	10.0	18.6	20.0	17.1	14.3	5.7	-	7.1	2.9	2.9	2.9	-	7.1
	中部(n=68)	33.8	39.7	22.1	16.2	10.3	20.6	20.6	13.2	17.6	4.4	-	2.9	10.3	1.5	8.8	1.5	-
	西部(n=77)	28.6	46.8	29.9	13.0	13.0	19.5	13.0	11.7	14.3	5.2	1.3	2.6	9.1	5.2	7.8	3.9	1.3
	代田(n=67)	32.8	52.2	23.9	17.9	11.9	20.9	14.9	7.5	16.4	-	-	4.5	3.0	6.0	9.0	3.0	-
	金屋(n=57)	36.8	47.4	26.3	10.5	12.3	35.1	12.3	12.3	10.5	1.8	-	7.0	10.5	1.8	3.5	-	8.8
	一宮(n=72)	38.9	48.6	36.1	18.1	16.7	26.4	15.3	9.7	20.8	2.8	5.6	5.6	2.8	-	5.6	-	1.4
	音羽(n=76)	36.8	42.1	30.3	22.4	9.2	26.3	14.5	14.5	14.5	3.9	-	1.3	3.9	1.3	6.6	2.6	5.3
	御津(n=88)	37.5	48.9	20.5	9.1	17.0	25.0	12.5	13.6	23.9	2.3	-	4.5	3.4	3.4	-	-	9.1
	小坂井(n=76)	32.9	63.2	25.0	13.2	14.5	23.7	13.2	13.2	13.2	5.3	1.3	13.2	3.9	3.9	2.6	2.6	1.3
	わからない(n=34)	26.5	55.9	35.3	8.8	5.9	20.6	14.7	14.7	23.5	8.8	-	8.8	2.9	2.9	5.9	-	-

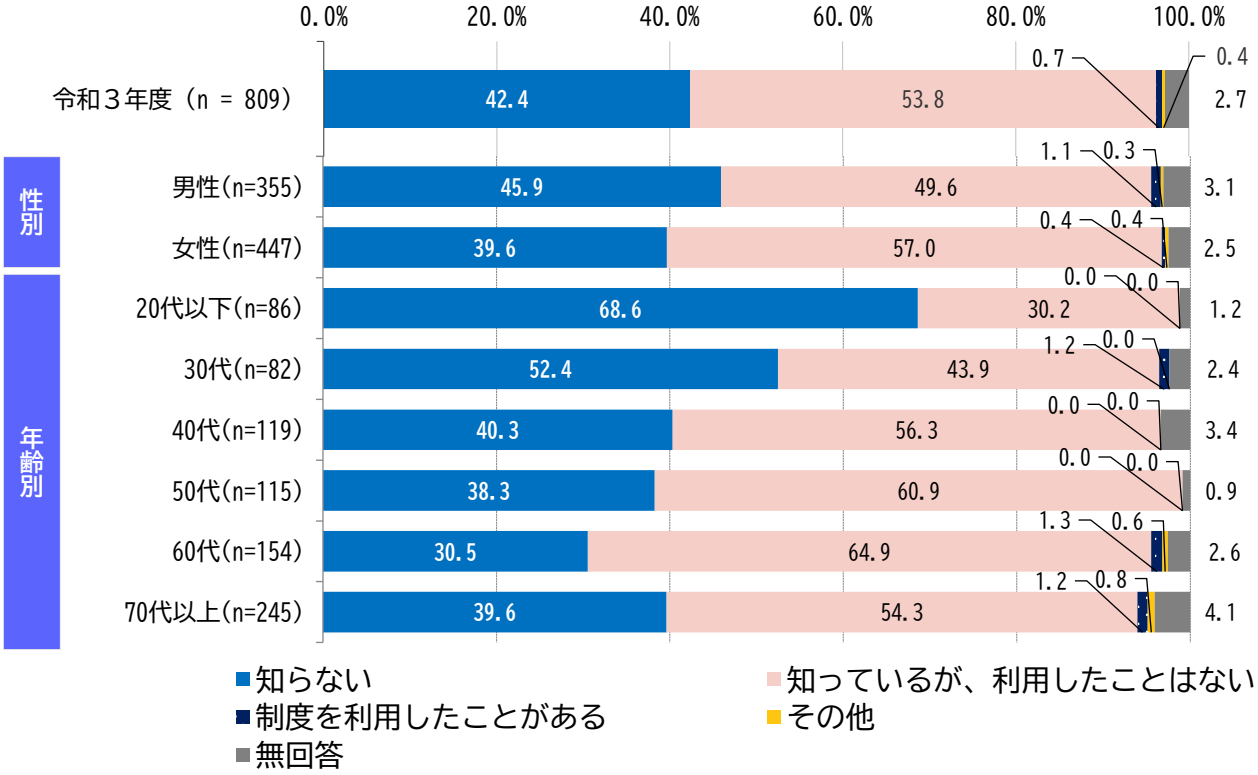
5　成年後見制度についておたずねします

問24　成年後見制度※について知っていますか。（○は１つ）

全体では、「知っているが、利用したことはない」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「知らない」が 42.4%、「制度を利用したことがある」が 0.7%となっています。

性別では、女性に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。

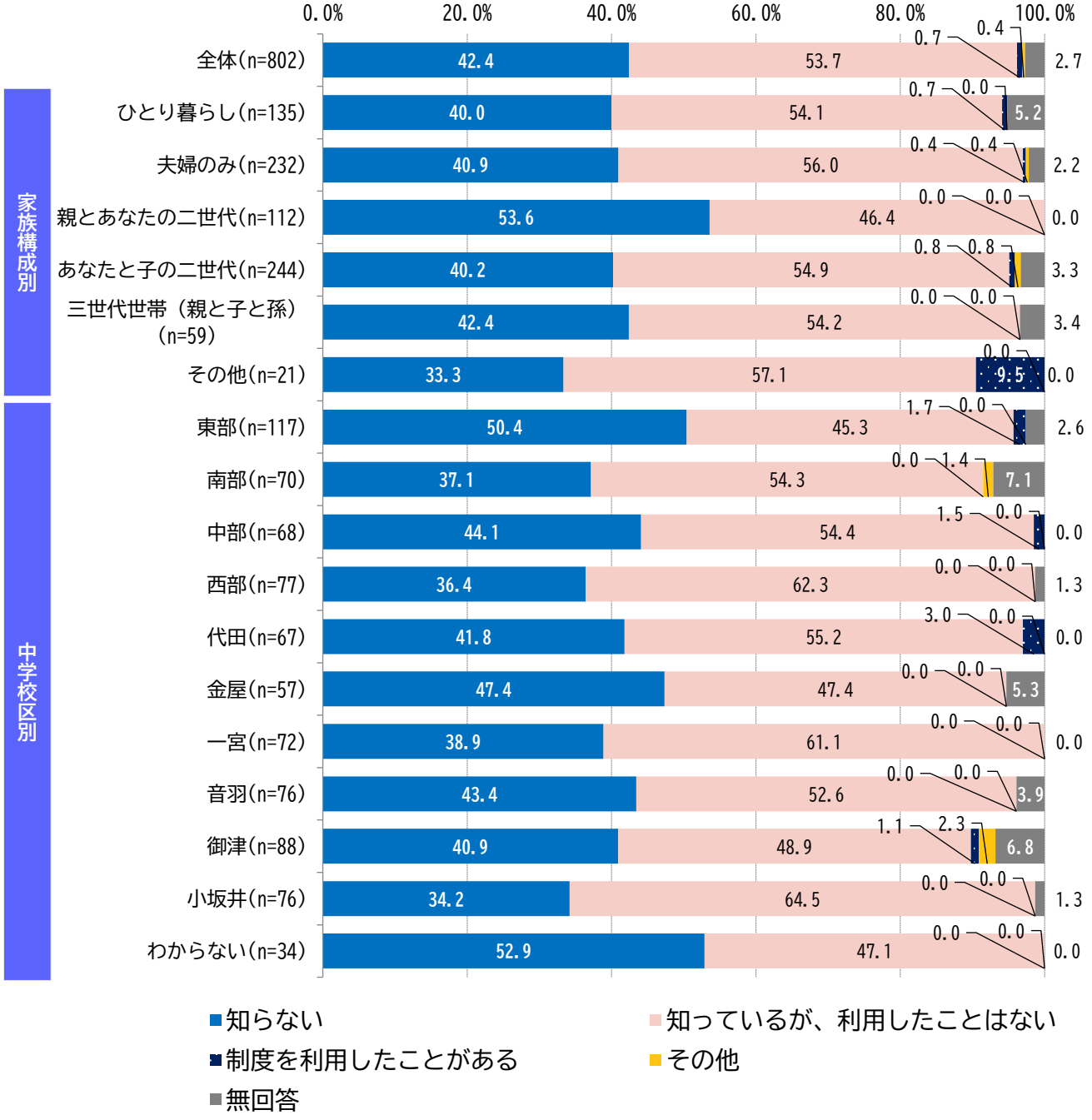
年齢別では、20 代以下で「知らない」の割合が高くなっています。また、年齢が上がるにつれ「知らない」の割合が低くなる傾向があります。



※成年後見制度とは、認知症や知的障害、精神上の障害などによって判断能力が十分ではない方（本人）の財産管理や、施設入所・入院の契約手続きなどを後見人が法律的に支援する制度です。本人の権利を守る後見人は、家庭裁判所に本人又は親族が申立てを行うことにより選任されます。

家族構成別では、「親とあなたの二世代」で「知らない」の割合が高くなっています。

中学校区別では、東部中学校区で「知らない」の割合が高くなっています。

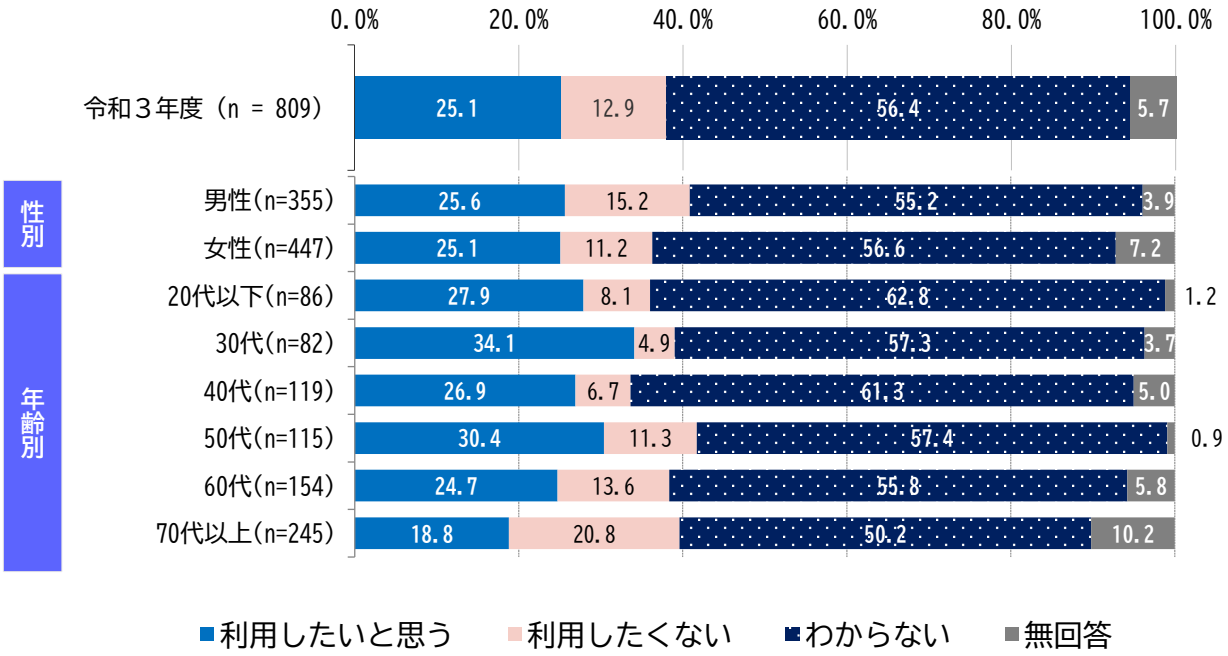


問25　あなた（または、まわりの方）の判断能力が不十分となった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。（○は１つ）

全体では、「わからない」の割合が 56.4%と最も高く、次いで「利用したいと思う」が 25.1%、「利用したくない」が 12.9%となっています。

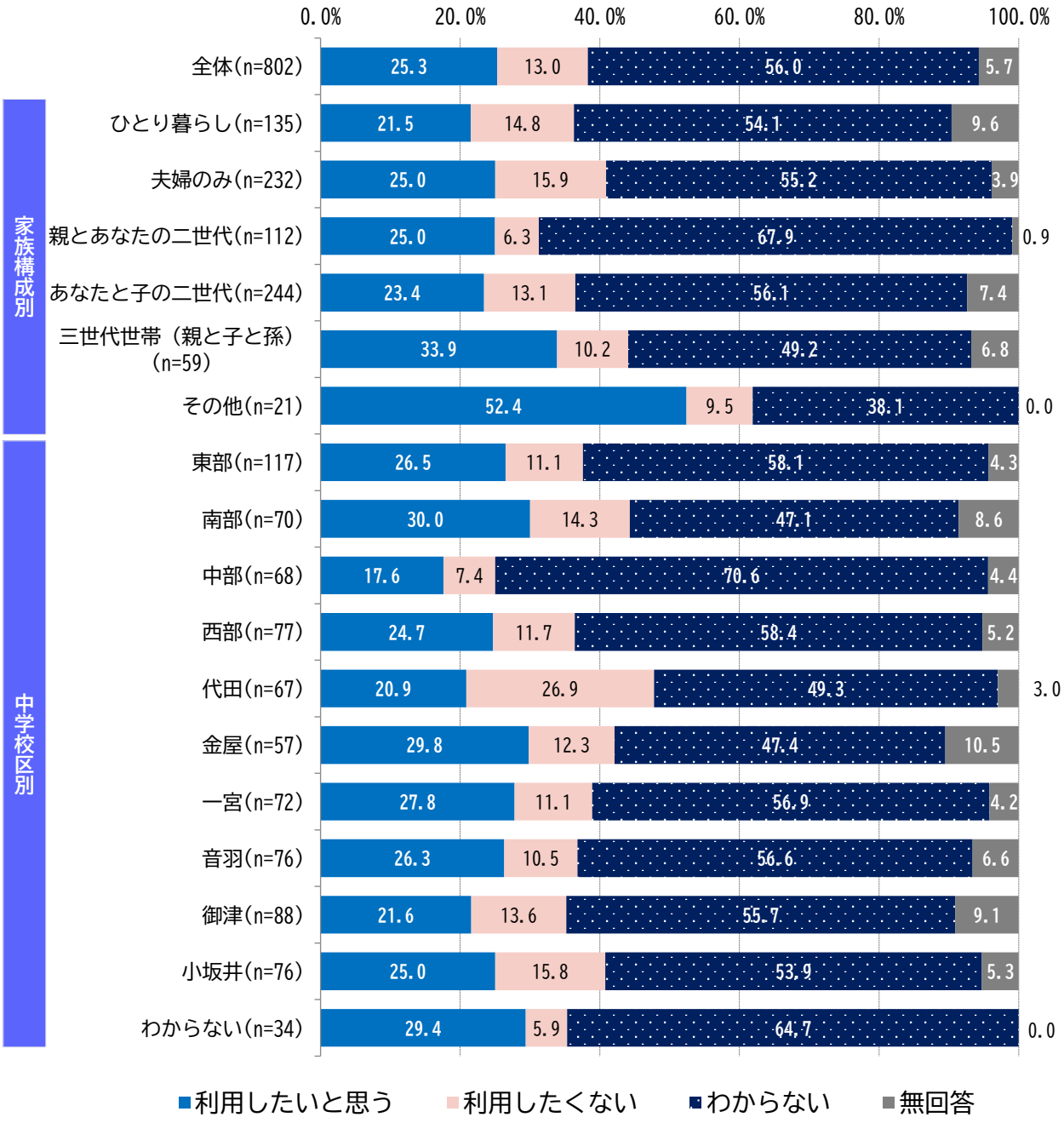
性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、40 代以上で「利用したくない」の割合が高くなる傾向にあります。



家族構成別では、「三世代世帯」で「利用したいと思う」の割合が高くなっています。

中学校区別では、南部中学校区、金屋中学校区で「利用したいと思う」の割合が高くなっています。



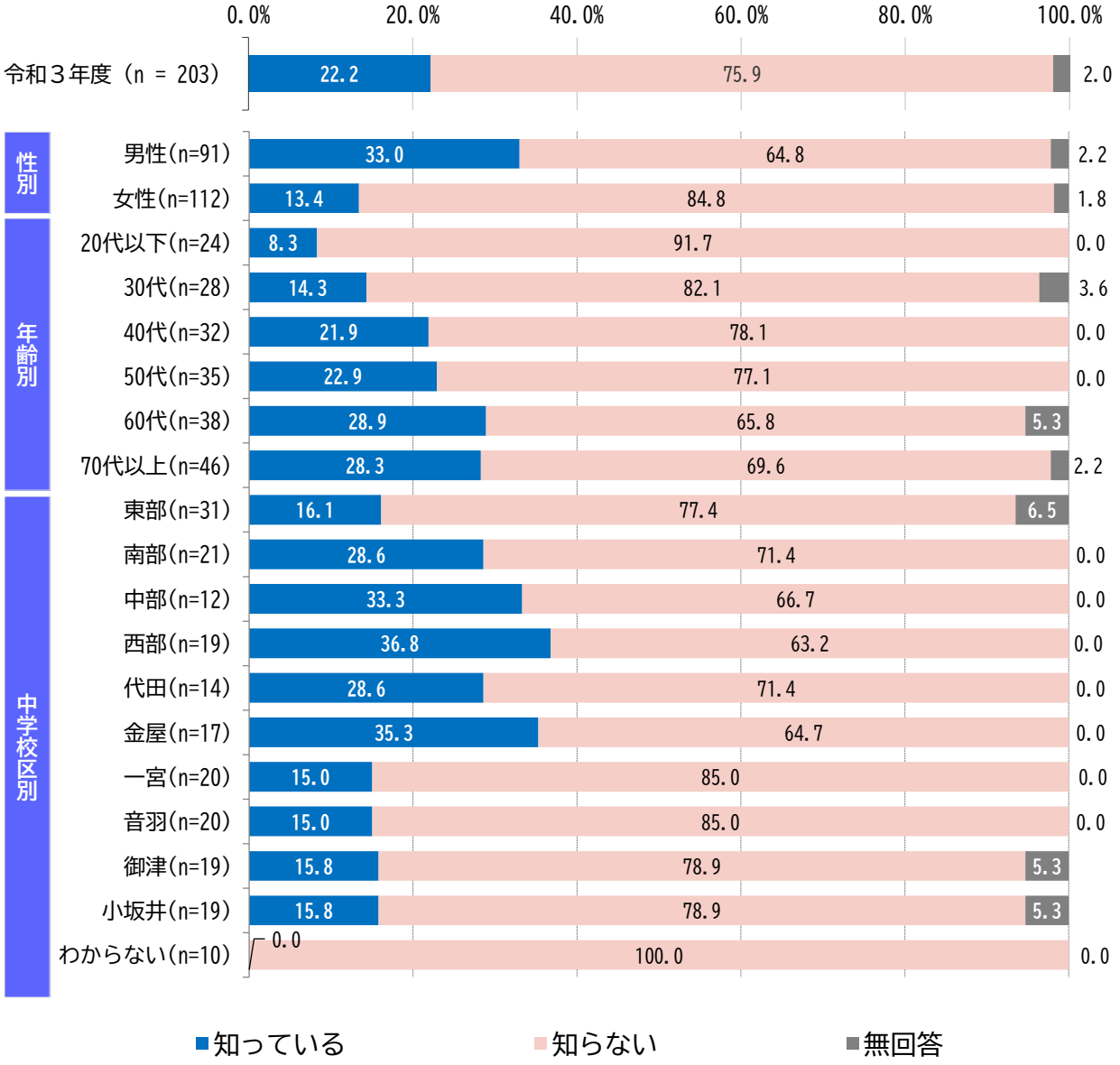
問25で「１．利用したいと思う」と答えた方にお聞きします
問25-1　成年後見制度について、相談できる窓口を知っていますか。
（○はひとつ）

全体では、「知らない」の割合が 75.9%、「知っている」の割合が 22.2%となっています。

性別では、女性に比べ、男性で「知っている」の割合が高くなっています。

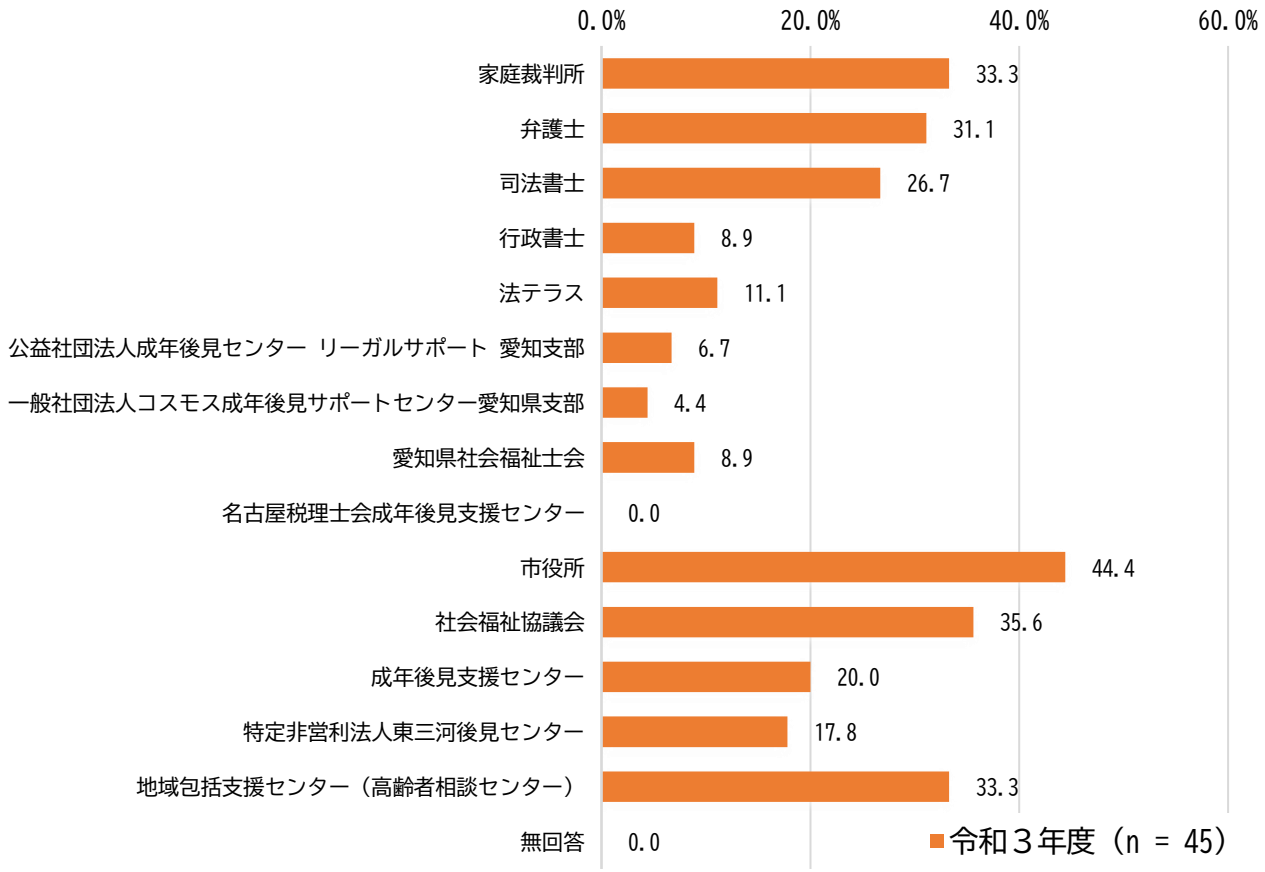
年齢別では、年齢が上がるにつれ「知っている」の割合が高くなる傾向があります。

中学校区別では、西部中学校区、金屋中学校区、中部中学校区で「知っている」の割合が高くなっています。



問25-1で「１．知っている」と答えた方にお聞きします
問25-2　成年後見制度について、あなたが知っている相談窓口はどこですか。
（○はいくつでも）

全体では、「市役所」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「社会福祉協議会」が 35.6%、「家庭裁判所」「地域包括支援センター（高齢者相談センター）」が 33.3%となっています。



性別では、男性に比べ、女性で「地域包括支援センター(高齢者相談センター)」の割合が高くなっています。

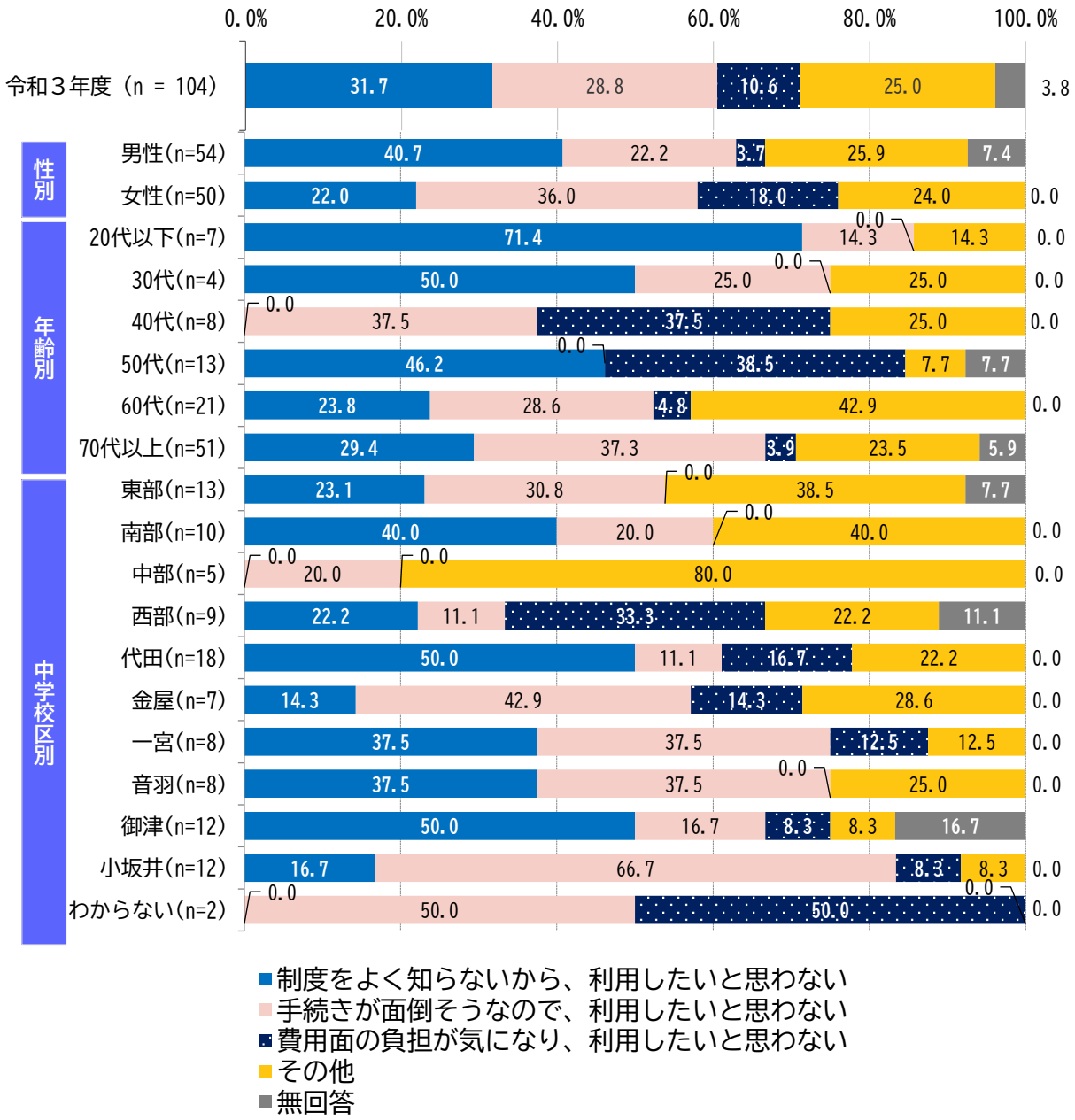
区分		家庭裁判所	弁護士	司法書士	行政書士	法テラス	公益社団法人成年後見センターリーガルサポート愛知支部	一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター愛知県支部	愛知県社会福祉士会	名古屋税理士会成年後見支援センター	市役所	社会福祉協議会	成年後見支援センター	特定非営利法人東三河後見センター	地域包括支援センター(高齢者相談センター)	無回答
全体(n=45)		33.3	31.1	26.7	8.9	11.1	6.7	4.4	8.9	-	44.4	35.6	20.0	17.8	33.3	-
性別	男性(n=30)	30.0	40.0	40.0	13.3	13.3	10.0	6.7	13.3	-	43.3	36.7	16.7	20.0	20.0	-
	女性(n=15)	40.0	13.3	-	-	6.7	-	-	-	-	46.7	33.3	26.7	13.3	60.0	-
年齢別	20代以下(n=2)	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30代(n=4)	25.0	-	25.0	-	50.0	-	-	-	-	75.0	25.0	25.0	25.0	25.0	-
	40代(n=7)	28.6	28.6	28.6	14.3	-	-	14.3	14.3	-	57.1	71.4	42.9	28.6	57.1	-
	50代(n=8)	37.5	37.5	12.5	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	-	50.0	50.0	25.0	37.5	50.0	-
	60代(n=11)	45.5	54.5	36.4	9.1	-	9.1	-	9.1	-	18.2	18.2	-	18.2	18.2	-
	70代以上(n=13)	23.1	15.4	23.1	7.7	7.7	7.7	-	7.7	-	53.8	30.8	23.1	-	30.8	-
中学校区別	東部(n=5)	-	-	40.0	-	20.0	-	20.0	20.0	-	60.0	20.0	20.0	20.0	-	-
	南部(n=6)	16.7	33.3	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	-	50.0	16.7	33.3	16.7	16.7	-
	中部(n=4)	-	50.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	25.0	25.0	-	50.0	50.0	-
	西部(n=7)	57.1	28.6	28.6	-	-	-	-	-	-	71.4	42.9	28.6	14.3	57.1	-
	代田(n=4)	25.0	-	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	50.0	25.0	50.0	50.0	-
	金屋(n=6)	33.3	50.0	33.3	-	16.7	16.7	-	33.3	-	50.0	50.0	16.7	16.7	33.3	-
	一宮(n=3)	-	33.3	-	-	33.3	33.3	-	-	-	33.3	66.7	-	-	33.3	-
	音羽(n=3)	66.7	66.7	-	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	33.3	-
	御津(n=3)	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	33.3	-	33.3	-	33.3	-
	小坂井(n=3)	100.0	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	33.3	66.7	-	-	33.3	-
	わからない(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問25で「２．利用したくない」と答えた方にお聞きします
問25-3　あなたが、成年後見制度を利用したくない理由を教えてください。
（○は１つ）

全体では、「制度をよく知らないから、利用したいと思わない」の割合が31.7%と最も高く、次いで「手続きが面倒そうなので、利用したいと思わない」が28.8%、「その他」が25.0%となっています。

性別では、女性に比べ、男性で「制度をよく知らないから、利用したいと思わない」の割合が高くなっています。対して、男性に比べ、女性で「手続きが面倒そうなので、利用したいと思わない」、「費用面の負担が気になり、利用したいと思わない」の割合が高くなっています。

年齢では、70代以上で「手続きが面倒そうなので、利用したいと思わない」の割合が高くなっています。

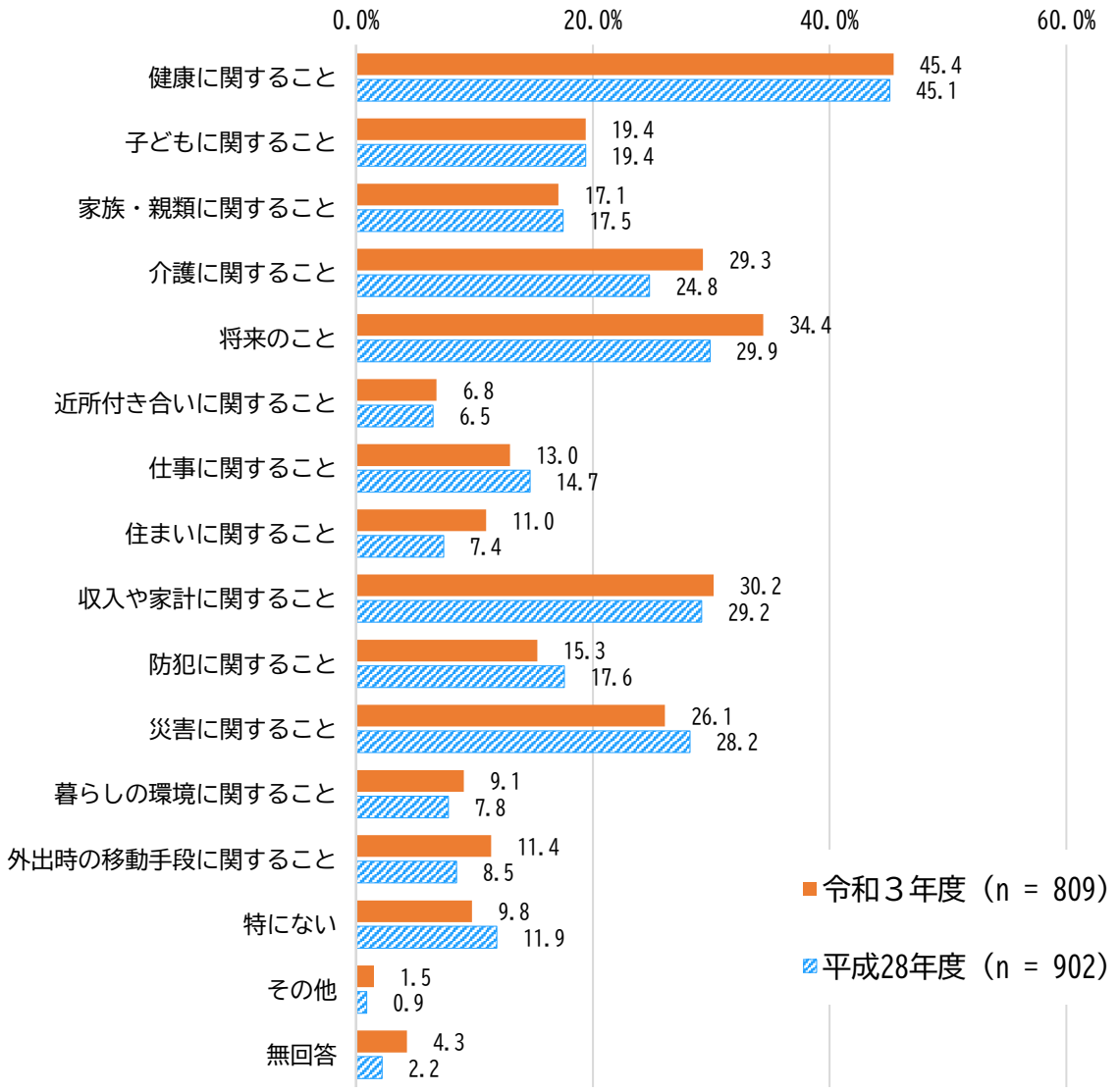


6　暮らしの中での不安やその相談相手などについておたずねします

問26　あなたは暮らしの中で、どのような悩みや不安をお持ちですか。
（○はいくつでも）

全体では、「健康に関すること」の割合が 45.4%と最も高く、次いで「将来のこと」が 34.4%、「収入や家計に関すること」が 30.2%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「介護に関すること」「将来のこと」の割合が増加しています。



性別では、大きな差異は見られません。

年齢別では、20 代で「将来のこと」「収入や家計に関すること」、30 代で「子どもに関すること」「収入や家計に関すること」、70 代以上で「外出時の移動手段に関すること」の割合が高くなっています。また、年齢が高くなるにつれて、「健康に関すること」「介護に関すること」の割合が高くなる傾向があります。

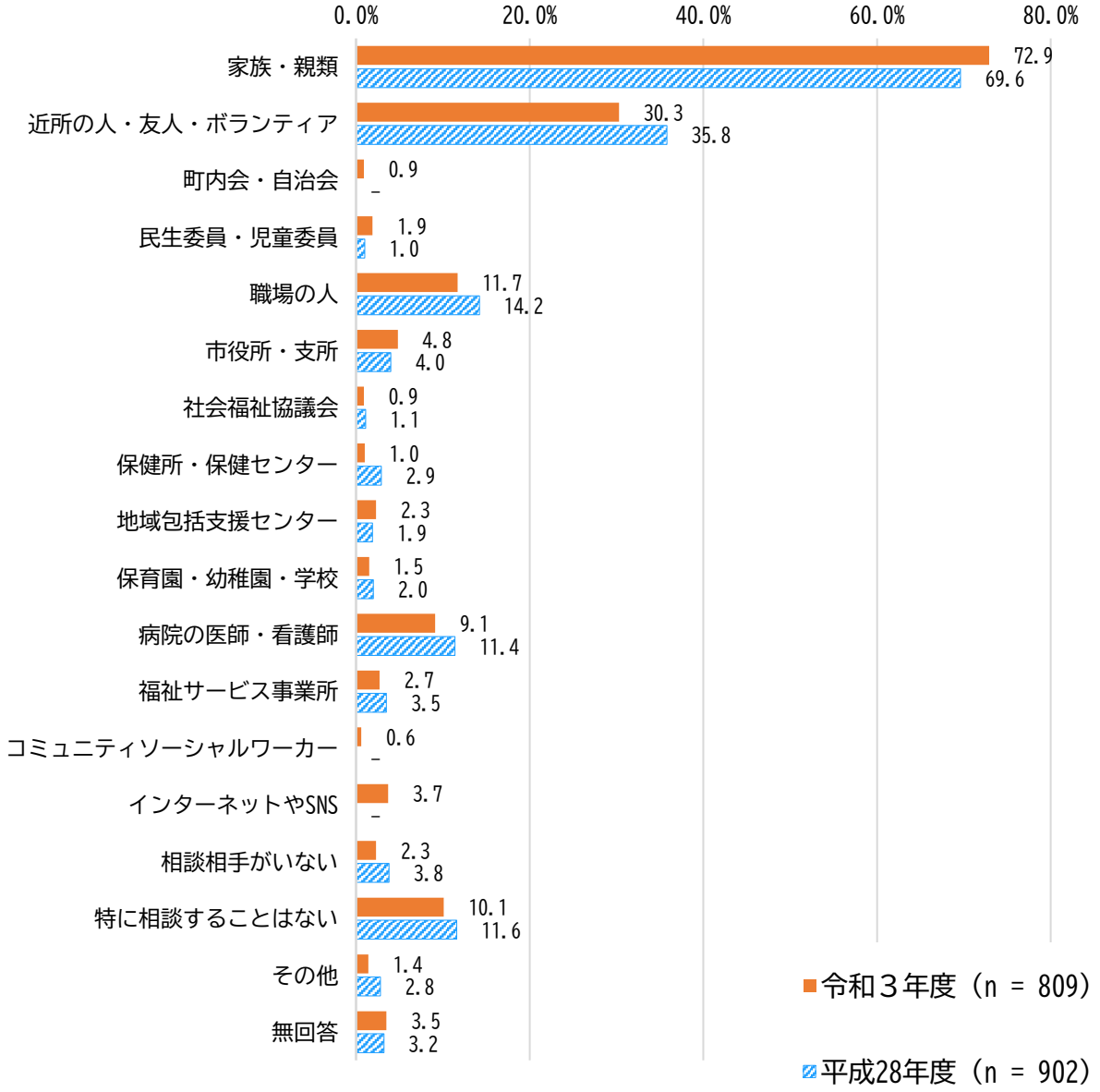
中学校区別では、「健康に関すること」の他に、一宮中学校区で「収入や家計に関すること」、小坂井中学校区で「災害に関すること」の割合が、他の中学校区と比べて高くなっています。

家族構成別では、親とあなたの二世代で「将来のこと」の割合が高くなっています。

区分		健康に関すること	子どもに関すること	家族・親類に関すること	介護に関すること	将来のこと	近所付き合いに関すること	仕事に関すること	住まいに関すること	収入や家計に関すること	防犯に関すること	災害に関すること	暮らしの環境に関すること	外出時の移動手段に関すること	特にない	その他	無回答
全体(n=802)		45.3	19.5	17.0	29.1	34.0	6.9	13.0	11.0	30.2	15.2	26.1	9.1	11.5	9.9	1.5	4.4
性別	男性(n=355)	41.7	18.9	16.6	27.9	35.5	6.8	13.8	10.4	31.3	14.1	26.5	11.0	12.4	11.5	1.1	4.2
	女性(n=447)	48.1	19.9	17.2	30.0	32.9	6.9	12.3	11.4	29.3	16.1	25.7	7.6	10.7	8.5	1.8	4.5
年齢別	20代以下(n=86)	11.6	12.8	4.7	5.8	50.0	2.3	16.3	7.0	30.2	18.6	20.9	3.5	2.3	22.1	1.2	2.3
	30代(n=82)	39.0	58.5	22.0	17.1	39.0	8.5	29.3	18.3	57.3	29.3	52.4	12.2	1.2	3.7	-	2.4
	40代(n=119)	37.0	32.8	26.1	22.7	42.0	11.8	25.2	5.9	39.5	21.8	36.1	9.2	4.2	5.9	0.8	4.2
	50代(n=115)	48.7	18.3	27.0	27.0	43.5	6.1	24.3	9.6	44.3	12.2	27.8	12.2	10.4	7.0	3.5	0.9
	60代(n=154)	57.8	12.3	20.1	38.3	29.9	9.7	3.2	15.6	24.0	11.7	25.3	9.1	11.0	4.5	1.9	3.9
	70代以上(n=245)	53.9	7.3	9.0	39.6	22.0	4.1	1.6	9.8	14.3	9.8	13.9	8.6	22.0	13.9	1.2	7.8
中学校区別	東部(n=117)	39.3	22.2	8.5	22.2	36.8	9.4	16.2	8.5	30.8	20.5	29.1	8.5	8.5	11.1	0.9	5.1
	南部(n=70)	42.9	11.4	17.1	34.3	27.1	8.6	12.9	10.0	28.6	14.3	28.6	14.3	11.4	12.9	-	7.1
	中部(n=68)	42.6	20.6	17.6	20.6	33.8	4.4	14.7	11.8	27.9	13.2	22.1	14.7	14.7	8.8	7.4	1.5
	西部(n=77)	50.6	26.0	16.9	28.6	27.3	3.9	9.1	13.0	24.7	9.1	20.8	5.2	7.8	14.3	-	2.6
	代田(n=67)	49.3	19.4	26.9	17.9	37.3	3.0	20.9	13.4	34.3	14.9	20.9	7.5	6.0	14.9	-	4.5
	金屋(n=57)	49.1	15.8	26.3	31.6	28.1	10.5	15.8	17.5	26.3	10.5	24.6	8.8	10.5	10.5	1.8	5.3
	一宮(n=72)	61.1	18.1	20.8	40.3	45.8	9.7	13.9	4.2	43.1	11.1	26.4	4.2	13.9	4.2	1.4	-
	音羽(n=76)	39.5	11.8	15.8	35.5	39.5	2.6	9.2	13.2	23.7	15.8	18.4	13.2	14.5	7.9	-	6.6
	御津(n=88)	37.5	20.5	14.8	29.5	27.3	13.6	10.2	10.2	26.1	17.0	23.9	6.8	19.3	8.0	-	9.1
	小坂井(n=76)	48.7	25.0	15.8	38.2	31.6	3.9	7.9	10.5	31.6	17.1	34.2	11.8	10.5	10.5	3.9	2.6
	わからない(n=34)	41.2	17.6	11.8	17.6	47.1	-	14.7	11.8	41.2	20.6	47.1	2.9	5.9	-	2.9	-
家族構成別	ひとり暮らし(n=135)	49.6	4.4	11.1	33.3	33.3	5.9	11.1	14.1	20.7	11.9	19.3	8.9	13.3	8.9	0.7	4.4
	夫婦のみ(n=232)	51.3	9.9	13.8	29.3	29.3	3.9	6.5	13.8	25.4	11.6	24.1	9.5	14.2	11.2	1.7	5.6
	親とあなたの二世代(n=112)	35.7	5.4	19.6	27.7	44.6	5.4	20.5	8.9	35.7	17.9	24.1	3.6	8.9	14.3	-	0.9
	あなたと子の二世代(n=244)	41.0	42.2	21.7	27.0	34.8	8.6	15.2	8.6	36.9	19.3	32.4	9.4	9.0	7.0	2.0	4.9
	三世代世帯（親と子と孫）(n=59)	44.1	25.4	20.3	28.8	28.8	15.3	16.9	3.4	32.2	10.2	22.0	13.6	8.5	13.6	3.4	5.1
	その他(n=21)	52.4	14.3	14.3	33.3	47.6	9.5	23.8	14.3	33.3	28.6	38.1	19.0	14.3	-	-	-

問27　悩みや不安について、あなたは誰（どこ）に相談していますか。（○はいくつでも）

全体では、「家族・親類」の割合が 72.9%と最も高く、次いで「近所の人・友人・ボランティア」が 30.3%、「職場の人」の割合が 11.7%となっています。一方、公的機関への相談の割合は低くなっています。



※平成28年度調査における「近所の人・友人」の項目を、令和３年度調査では「近所の人・友人・ボランティア」として集計。
※平成28年度調査では「町内会・自治会」「コミュニティソーシャルワーカー」「インターネットやSNS」の選択肢はありません。

性別では、女性に比べ、男性で「特に相談することはない」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「近所の人・友人・ボランティア」の割合が特に高くなっています。

年齢別では、70 代以上で「病院の医師・看護師」の割合が高くなっています。

中学校区別では、「家族・親類」、「近所の人・友人・ボランティア」の他に、金屋中学校区で「市役所・支所」の割合が高くなっています。

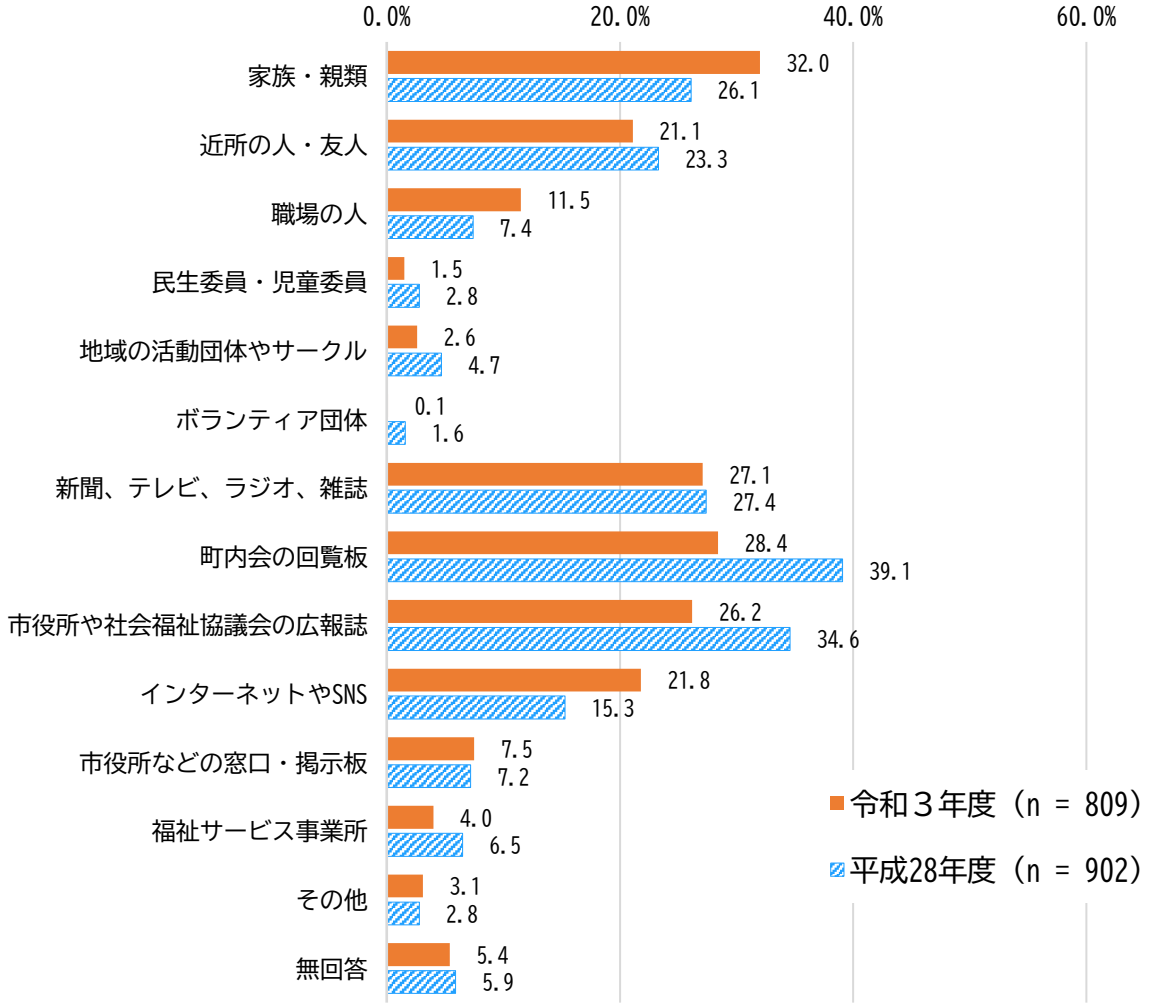
家族構成別では、大きな差異はみられません。

区分		家族・親類	近所の人・友人・ボランティア	町内会・自治会	民生委員・児童委員	職場の人	市役所・支所	社会福祉協議会	保健所・保健センター	地域包括支援センター	保育園・幼稚園・学校	病院の医師・看護師	福祉サービス事業所	コミュニティソーシャルワーカー	インターネットやSNS	相談相手がいない	特に相談することはない	その他	無回答
全体(n=802)		73.1	30.2	0.9	1.9	11.7	4.7	0.9	1.0	2.4	1.5	9.1	2.6	0.6	3.7	2.4	10.2	1.4	3.4
性別	男性(n=355)	67.9	24.5	1.7	2.3	11.5	6.5	1.1	1.1	2.8	1.4	10.1	3.4	1.1	4.8	2.0	13.8	1.1	2.8
	女性(n=447)	77.2	34.7	0.2	1.6	11.9	3.4	0.7	0.9	2.0	1.6	8.3	2.0	0.2	2.9	2.7	7.4	1.6	3.8
年齢別	20代以下(n=86)	73.3	40.7	-	-	9.3	1.2	-	-	-	3.5	1.2	-	-	5.8	1.2	12.8	-	2.3
	30代(n=82)	92.7	40.2	-	-	26.8	3.7	-	3.7	1.2	3.7	4.9	1.2	-	12.2	-	2.4	-	2.4
	40代(n=119)	75.6	40.3	1.7	0.8	21.0	1.7	-	1.7	-	5.0	6.7	0.8	-	4.2	2.5	9.2	0.8	1.7
	50代(n=115)	70.4	28.7	-	0.9	18.3	5.2	2.6	-	3.5	-	5.2	4.3	1.7	0.9	2.6	10.4	-	2.6
	60代(n=154)	66.9	31.8	1.9	1.3	11.0	6.5	2.6	1.3	1.3	-	11.7	2.6	0.6	2.6	1.3	11.0	3.9	3.9
	70代以上(n=245)	70.6	18.0	0.8	4.5	0.8	6.5	-	0.4	4.9	-	15.1	3.7	0.8	2.0	4.1	11.8	1.6	4.9
中学校区別	東部(n=117)	71.8	35.9	-	0.9	11.1	4.3	-	1.7	0.9	2.6	7.7	1.7	-	4.3	4.3	11.1	0.9	2.6
	南部(n=70)	72.9	30.0	1.4	4.3	8.6	8.6	2.9	1.4	5.7	1.4	7.1	4.3	1.4	4.3	4.3	4.3	-	4.3
	中部(n=68)	60.3	23.5	-	-	5.9	4.4	1.5	1.5	2.9	1.5	5.9	4.4	-	-	2.9	11.8	1.5	8.8
	西部(n=77)	74.0	28.6	3.9	1.3	15.6	-	-	-	1.3	1.3	7.8	1.3	-	-	2.6	9.1	3.9	3.9
	代田(n=67)	68.7	19.4	-	-	10.4	1.5	-	1.5	4.5	1.5	10.4	1.5	-	1.5	3.0	16.4	3.0	3.0
	金屋(n=57)	77.2	31.6	1.8	1.8	12.3	10.5	3.5	-	1.8	-	12.3	3.5	3.5	7.0	-	7.0	1.8	1.8
	一宮(n=72)	77.8	30.6	2.8	1.4	8.3	2.8	-	-	4.2	2.8	9.7	4.2	-	2.8	4.2	2.8	1.4	4.2
	音羽(n=76)	82.9	35.5	-	3.9	9.2	9.2	-	-	-	1.3	6.6	1.3	-	3.9	-	10.5	-	2.6
	御津(n=88)	69.3	31.8	-	3.4	15.9	4.5	1.1	2.3	2.3	1.1	13.6	2.3	-	3.4	1.1	14.8	2.3	2.3
	小坂井(n=76)	77.6	30.3	-	1.3	15.8	3.9	1.3	1.3	2.6	1.3	10.5	3.9	2.6	6.6	1.3	9.2	-	2.6
	わからない(n=34)	70.6	26.5	-	-	20.6	2.9	-	-	-	-	8.8	-	-	8.8	-	17.6	-	-
家族構成別	ひとり暮らし(n=135)	60.0	26.7	0.7	5.2	9.6	5.2	0.7	0.7	2.2	-	11.9	3.0	1.5	2.2	3.7	11.1	3.7	3.0
	夫婦のみ(n=232)	74.1	23.3	0.9	1.3	10.3	5.6	-	-	4.3	-	11.2	2.2	0.4	4.7	1.3	10.3	0.9	5.2
	親とあなたの二世代(n=112)	69.6	37.5	1.8	1.8	8.9	3.6	-	1.8	0.9	2.7	2.7	1.8	-	3.6	0.9	12.5	0.9	2.7
	あなたと子の二世代(n=244)	78.7	31.1	0.4	1.2	14.8	3.3	1.6	2.0	2.0	2.9	8.2	2.9	0.8	3.3	2.9	9.0	1.2	2.9
	三世代世帯（親と子と孫）(n=59)	81.4	44.1	1.7	-	16.9	8.5	1.7	-	-	3.4	10.2	3.4	-	6.8	3.4	10.2	-	1.7
	その他(n=21)	76.2	38.1	-	-	9.5	4.8	4.8	-	-	-	14.3	4.8	-	-	4.8	4.8	-	-

問28　福祉サービス（子育て、高齢者、障害者等）についての情報を、どこから入手していますか。（○はいくつでも）

全体では、「家族・親類」の割合が 32.0%と最も高く、次いで「町内会の回覧板」が 28.4%、「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌」が 27.1%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「町内会の回覧板」「市役所や社会福祉協議会の広報誌」の割合が特に減少し、一方で「インターネット」の割合が増加していることから、さまざまな手段を通して、情報を提供していくことが必要です。また、「家族・親類」や「近所の人・友人」を通じて、情報を入手する傾向もみられることから、要支援者を支える家族や地域支援者へ、正確な情報を発信する必要があることがうかがえます。



性別では、女性に比べ、男性で「新聞・テレビ・ラジオ・雑誌」の割合が高くなっています。

年齢別では、20 代で「家族・親類」の割合が高くなっています。また、60 代、70 以上で「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌」の割合が高くなっています。

中学校区別では、「家族・親類」「町内会の回覧板」の他に、音羽中学校区、金屋中学校区、小坂井中学校区で「市役所や社会福祉協議会の広報誌」の割合が高くなっています。

家族構成別では、親とあなたの二世代で「インターネットや SNS」の割合が高くなっています。

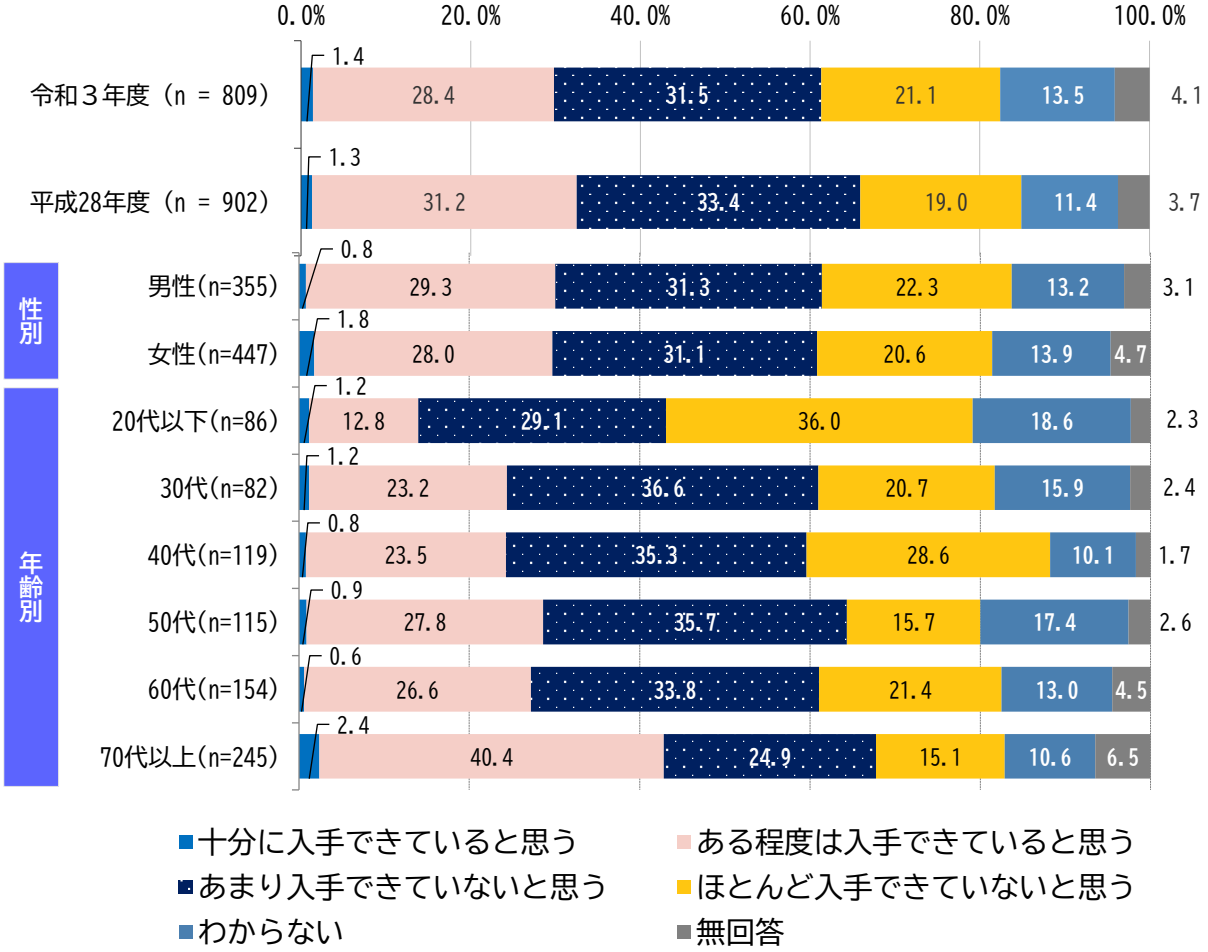
区分		家族・親類	近所の人・友人	職場の人	民生委員・児童委員	地域の活動団体やサークル	ボランティア団体	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌	町内会の回覧板	市役所や社会福祉協議会の広報誌	インターネットやSNS	市役所などの窓口・掲示板	福祉サービス事業所	その他	無回答
全体(n=802)		32.0	21.2	11.6	1.5	2.6	0.1	27.1	28.2	25.7	21.7	7.5	4.0	3.1	5.4
性別	男性(n=355)	32.1	19.2	12.1	1.7	2.0	-	30.7	28.7	25.9	23.7	7.0	4.5	3.4	4.8
	女性(n=447)	32.0	22.8	11.2	1.3	3.1	0.2	24.2	27.7	25.5	20.1	7.8	3.6	2.9	5.8
年齢別	20代以下(n=86)	52.3	10.5	9.3	-	1.2	-	15.1	5.8	4.7	37.2	7.0	1.2	5.8	4.7
	30代(n=82)	45.1	29.3	23.2	-	1.2	-	14.6	22.0	23.2	46.3	4.9	2.4	1.2	3.7
	40代(n=119)	31.1	19.3	21.0	-	0.8	-	18.5	29.4	27.7	31.9	10.1	0.8	5.9	2.5
	50代(n=115)	24.3	26.1	16.5	0.9	1.7	-	26.1	26.1	22.6	28.7	6.1	6.1	-	3.5
	60代(n=154)	22.1	18.8	11.7	1.3	3.2	0.6	31.8	29.2	31.2	14.9	8.4	5.2	2.6	7.1
	70代以上(n=245)	30.6	22.4	1.6	3.7	4.5	-	37.1	37.6	31.4	4.5	7.3	4.9	3.3	7.3
中学校区別	東部(n=117)	34.2	22.2	11.1	1.7	0.9	-	23.9	18.8	22.2	19.7	10.3	1.7	2.6	6.0
	南部(n=70)	30.0	20.0	12.9	1.4	4.3	-	22.9	25.7	21.4	25.7	7.1	4.3	4.3	5.7
	中部(n=68)	27.9	14.7	8.8	1.5	2.9	-	23.5	26.5	22.1	17.6	4.4	5.9	2.9	13.2
	西部(n=77)	35.1	26.0	16.9	-	3.9	-	29.9	31.2	22.1	22.1	2.6	3.9	2.6	5.2
	代田(n=67)	29.9	19.4	10.4	-	4.5	-	35.8	32.8	25.4	14.9	9.0	1.5	4.5	4.5
	金屋(n=57)	29.8	28.1	14.0	3.5	3.5	-	21.1	21.1	33.3	26.3	8.8	5.3	7.0	3.5
	一宮(n=72)	29.2	16.7	5.6	1.4	1.4	-	20.8	33.3	30.6	26.4	5.6	5.6	1.4	6.9
	音羽(n=76)	32.9	30.3	7.9	2.6	3.9	1.3	31.6	32.9	36.8	13.2	7.9	2.6	2.6	5.3
	御津(n=88)	34.1	19.3	13.6	1.1	-	-	29.5	38.6	22.7	20.5	6.8	4.5	2.3	1.1
	小坂井(n=76)	30.3	15.8	11.8	1.3	3.9	-	28.9	30.3	32.9	28.9	10.5	7.9	1.3	2.6
	わからない(n=34)	38.2	20.6	17.6	2.9	-	-	29.4	8.8	11.8	32.4	8.8	-	2.9	5.9
家族構成別	ひとり暮らし(n=135)	20.0	17.8	4.4	3.7	0.7	-	29.6	22.2	21.5	15.6	6.7	5.9	6.7	5.9
	夫婦のみ(n=232)	31.9	18.1	11.2	2.2	3.0	0.4	29.3	31.0	30.2	17.7	8.2	3.4	3.0	6.9
	親とあなたの二世代(n=112)	33.0	13.4	11.6	-	1.8	-	27.7	17.0	16.1	33.0	2.7	1.8	3.6	5.4
	あなたと子の二世代(n=244)	32.4	28.7	14.3	0.8	2.9	-	21.7	34.8	28.3	25.0	7.4	3.3	2.0	3.7
	三世代世帯（親と子と孫）(n=59)	49.2	27.1	18.6	-	5.1	-	33.9	23.7	25.4	20.3	10.2	5.1	-	3.4
	その他(n=21)	47.6	14.3	9.5	-	4.8	-	23.8	23.8	33.3	14.3	23.8	14.3	-	9.5

問29　福祉サービスに関する情報を、内容的にみて、どの程度入手できていると思われますか。（○は１つ）

全体では、「十分に入手できていると思う」と「ある程度は入手できていると思う」をあわせた“入手できていると思う”の割合が 29.8%、「あまり入手できていないと思う」と「ほとんど入手できていないと思う」をあわせた“入手できていないと思う”の割合が 52.6%となっています。今後の指標として“入手できていないと思う”の割合を減らしていくための施策を講じていく必要があります。

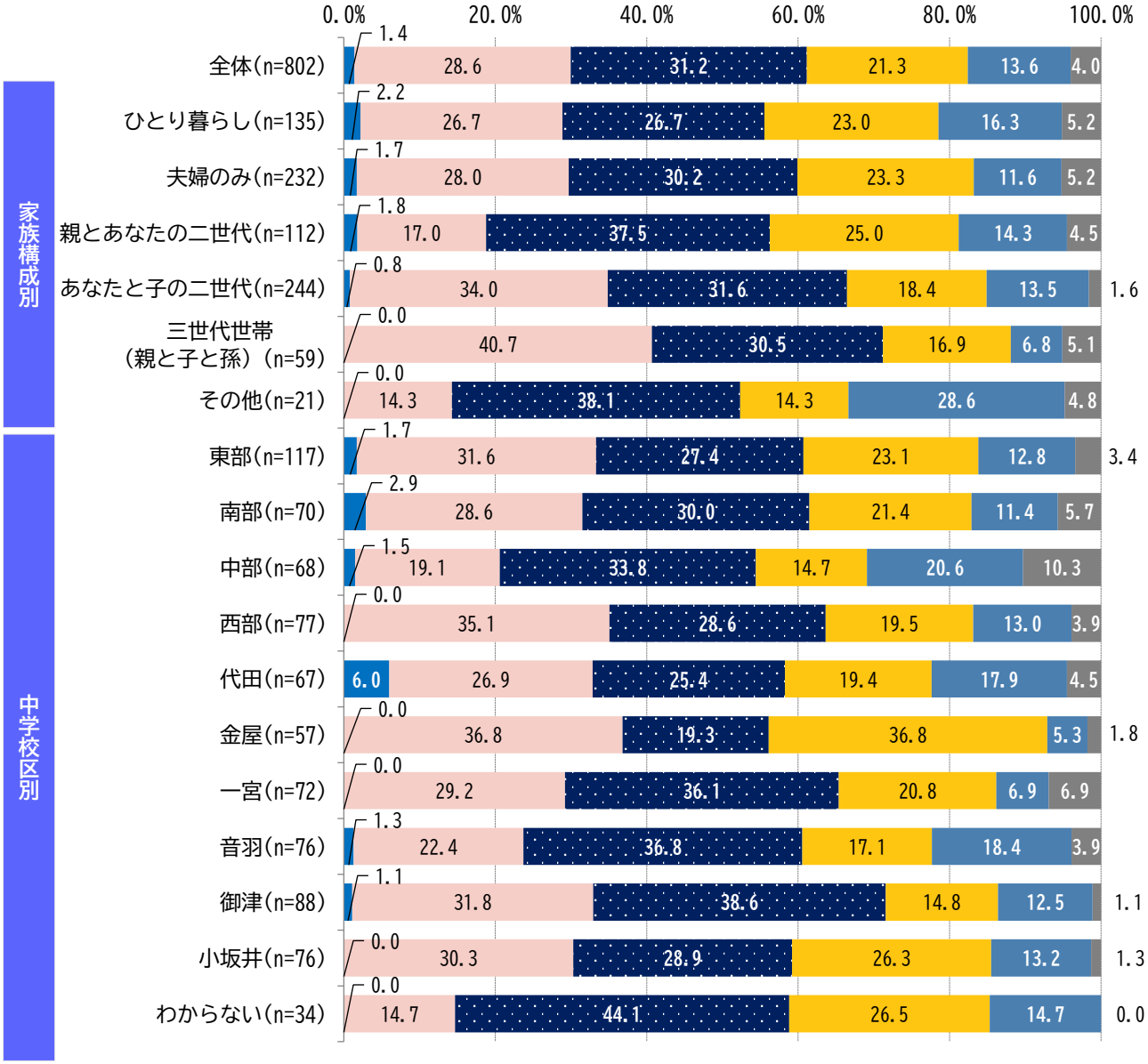
性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、20 代以下、40 代で“入手できていないと思う”、70 代以上で“入手できていると思う”の割合が高くなっています。



中学校区別では、金屋中学校区、西部中学校区、東部中学校区で“入手できていると思う”の割合が高くなっています。また、金屋中学校区で“入手できていないと思う”の割合も高くなっています。

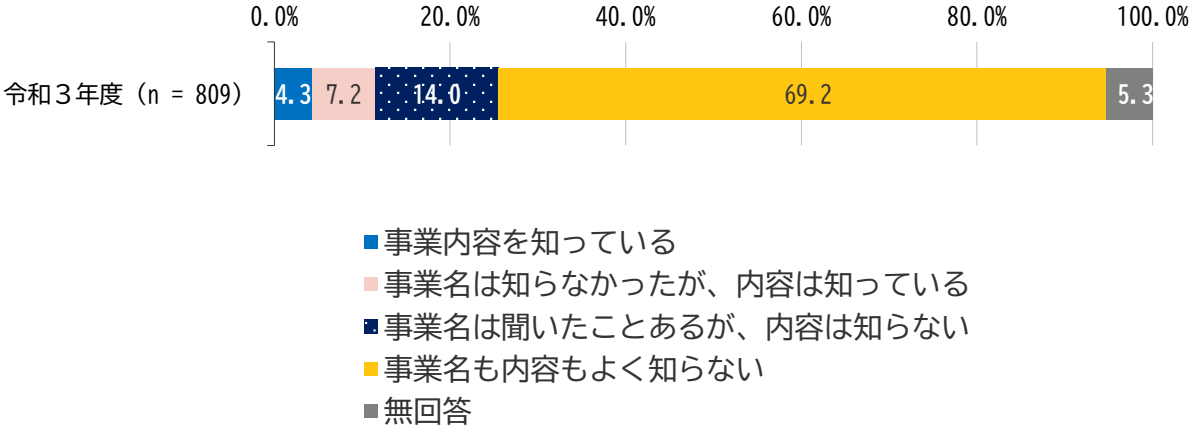
家族構成別では、親とあなたの二世代で“入手できていると思う”の割合が低くなっています。



7　災害時における助け合いについて

問30　あなたは、避難行動要支援者支援制度※について、どの程度知っていますか。（○はひとつ）

全体では、「事業内容を知っている」と「事業名は知らなかったが、内容は知っている」をあわせた“事業内容を知っている”の割合が 11.5%、「事業名は聞いたことあるが、内容は知らない」と「事業名も内容もよく知らない」をあわせた“事業内容を知らない”が 83.2%となっています。今後ますます事業内容を周知していくことが必要です。

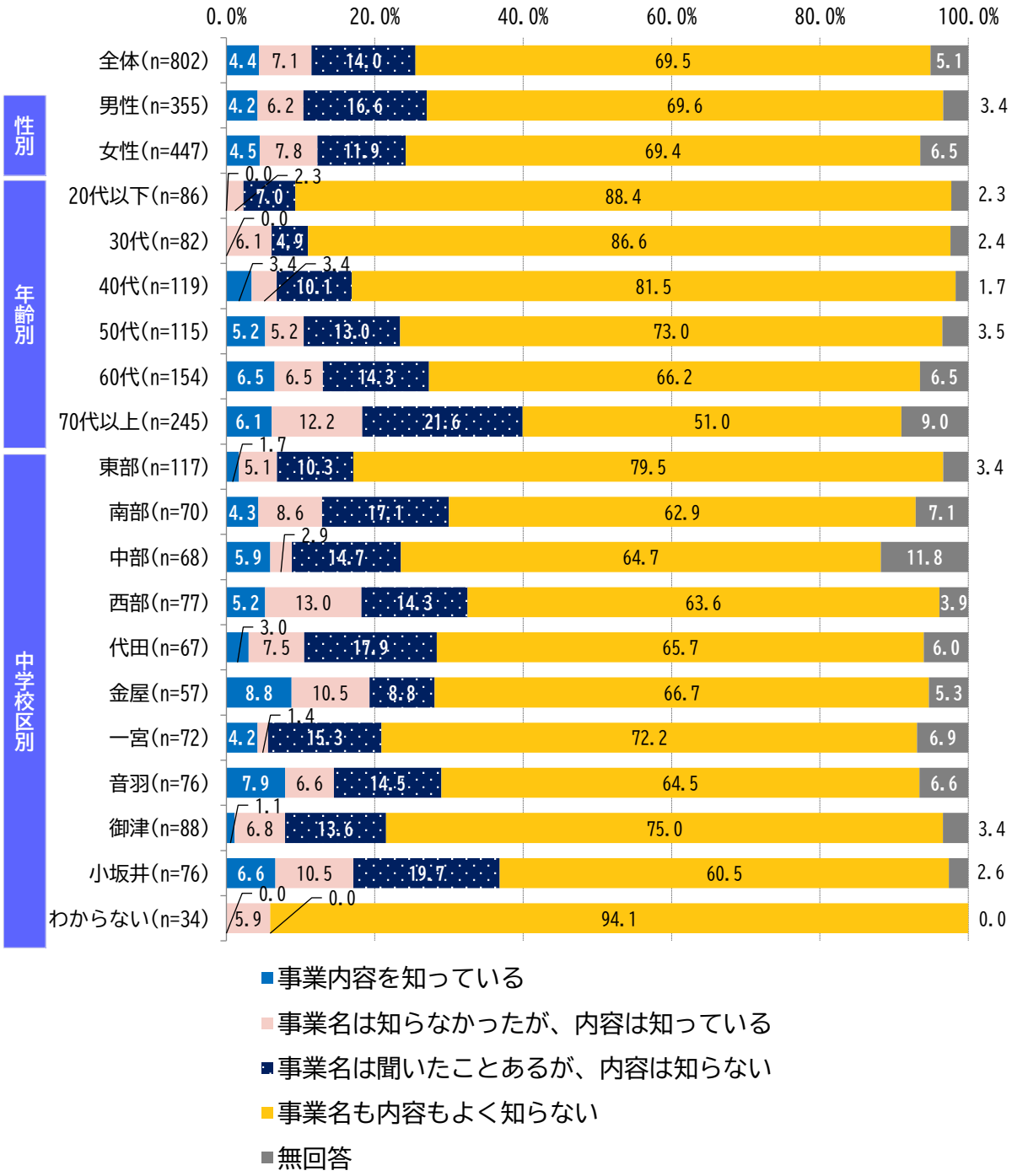


※避難行動要支援者支援制度とは、災害時に自力で避難が困難な方に対し、日頃からの見守りと住民同士の繋がりを築き、災害時に迅速かつ適切に避難支援ができるようにするもの。

性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、20 代以下で“事業内容を知っている”の割合が低くなっており、年齢が上がるにつれ“事業内容を知っている”の割合が高くなります。しかし、どの年齢層も“事業内容を知っている”と答えた割合は２割に届きません。

中学校区別では、金屋中学校区、西部中学校区で“事業内容を知っている”の割合が高くなっています。

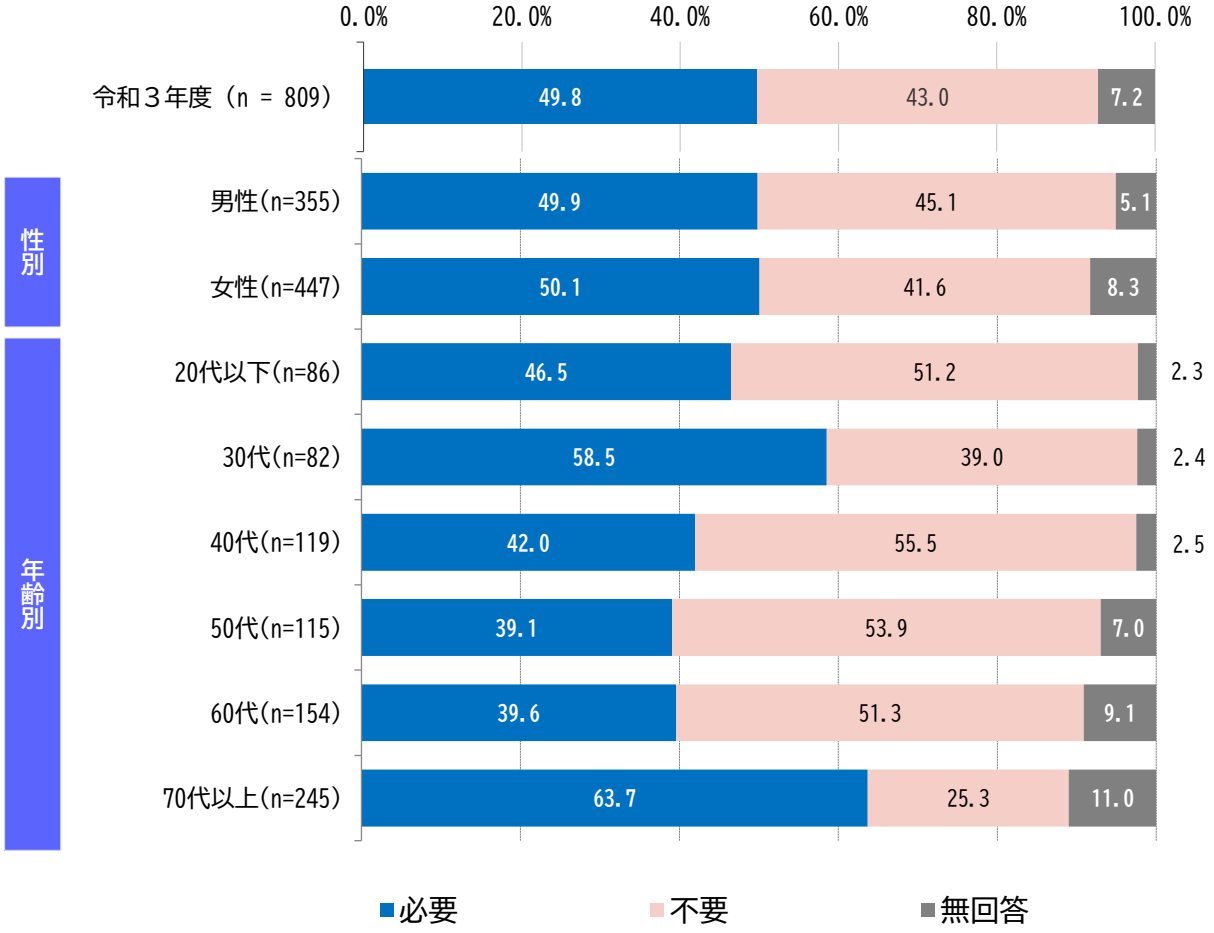


問31　あなたは災害が起こった場合に、支援が必要ですか。
（どちらかに○）

全体では、「必要」の割合が 49.8%、「不要」の割合が 43.0%となっています。

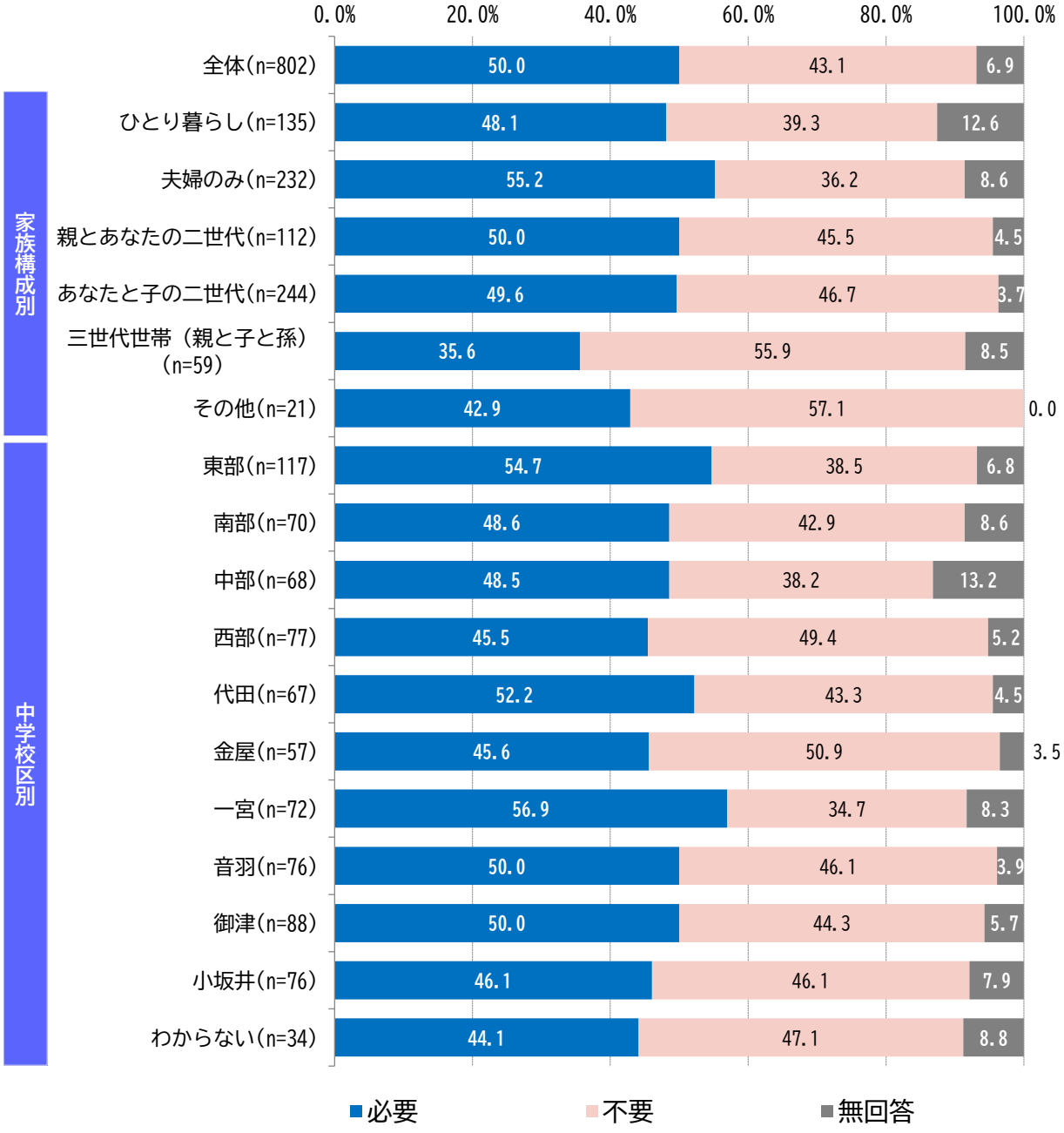
性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、70 代以上、30 代の順に「必要」の割合が高くなっています。



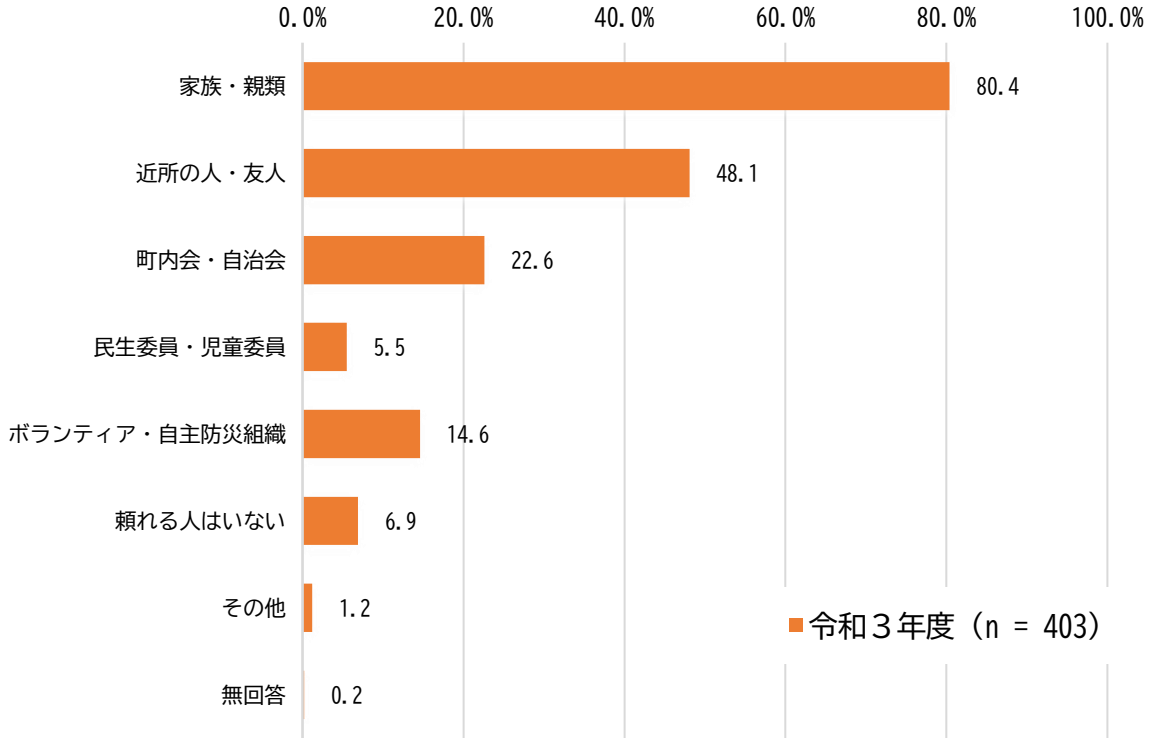
家族構成別では、夫婦のみで「必要」の割合が高くなるのに対して、三世代世帯で「必要」の割合が低くなっています。

中学校区別では、一宮中学校区、東部中学校区で「必要」の割合が高くなっています。



問31で「１．必要」と答えた方にお聞きします
問31-1　あなたは災害が起こった場合に、避難するために行政や消防以外で誰を頼りにしますか。（○はいくつでも）

全体では、「家族・親類」の割合が 80.4%と最も高く、次いで「近所の人・友人」が 48.1%、「町内会・自治会」が 22.6%となっています。



性別では、女性に対し、男性で「町内会・自治体」の割合が高くなっています。

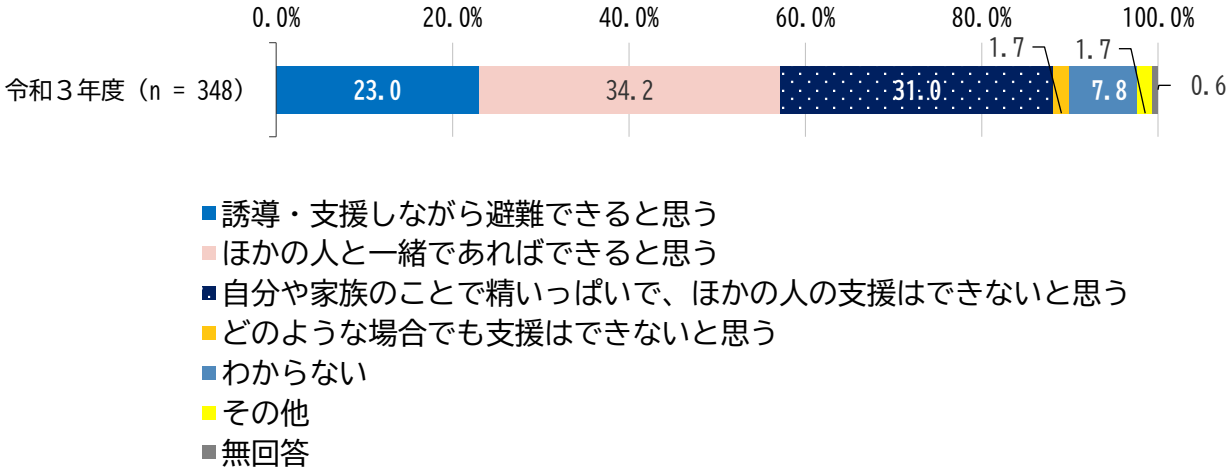
年齢別では、60 代で「町内会・自治会」の割合が高くなっています。

中学校区別では、音羽中学校区で「町内会・自治体」の割合が高くなっています。

区分		家族・親類	近所の人・友人	町内会・自治会	民生委員・児童委員	ボランティア・自主防災組織	頼れる人はいない	その他	無回答
全体(n=401)		80.5	48.4	22.4	5.5	14.5	7.0	1.2	0.2
性別	男性(n=177)	78.0	51.4	28.2	6.8	14.7	7.9	1.1	-
	女性(n=224)	82.6	46.0	17.9	4.5	14.3	6.3	1.3	0.4
年齢別	20代以下(n=40)	87.5	57.5	12.5	-	22.5	2.5	-	-
	30代(n=48)	87.5	45.8	20.8	2.1	18.8	12.5	-	-
	40代(n=50)	94.0	42.0	18.0	4.0	14.0	-	-	-
	50代(n=45)	80.0	44.4	17.8	4.4	15.6	11.1	-	-
	60代(n=61)	73.8	59.0	29.5	3.3	9.8	11.5	3.3	-
	70代以上(n=156)	75.0	46.2	25.6	9.6	12.8	5.8	1.9	0.6
中学校区別	東部(n=64)	84.4	45.3	21.9	6.3	12.5	7.8	1.6	-
	南部(n=34)	70.6	20.6	20.6	8.8	11.8	14.7	-	2.9
	中部(n=33)	84.8	54.5	27.3	3.0	9.1	6.1	-	-
	西部(n=35)	74.3	51.4	20.0	11.4	5.7	5.7	-	-
	代田(n=35)	74.3	40.0	22.9	2.9	5.7	11.4	2.9	-
	金屋(n=26)	84.6	46.2	23.1	-	23.1	3.8	-	-
	一宮(n=41)	82.9	61.0	14.6	2.4	14.6	7.3	2.4	-
	音羽(n=38)	81.6	63.2	39.5	5.3	21.1	2.6	-	-
	御津(n=44)	72.7	47.7	20.5	9.1	25.0	6.8	2.3	-
	小坂井(n=35)	88.6	51.4	22.9	5.7	14.3	2.9	2.9	-
	わからない(n=15)	93.3	46.7	6.7	-	20.0	6.7	-	-

問31で「２．不要」と答えた方にお聞きします
問31-2　災害が起こった場合に、避難するために支援が必要な近所の方に対して、あなた自身ができることはありますか。（○はひとつ）

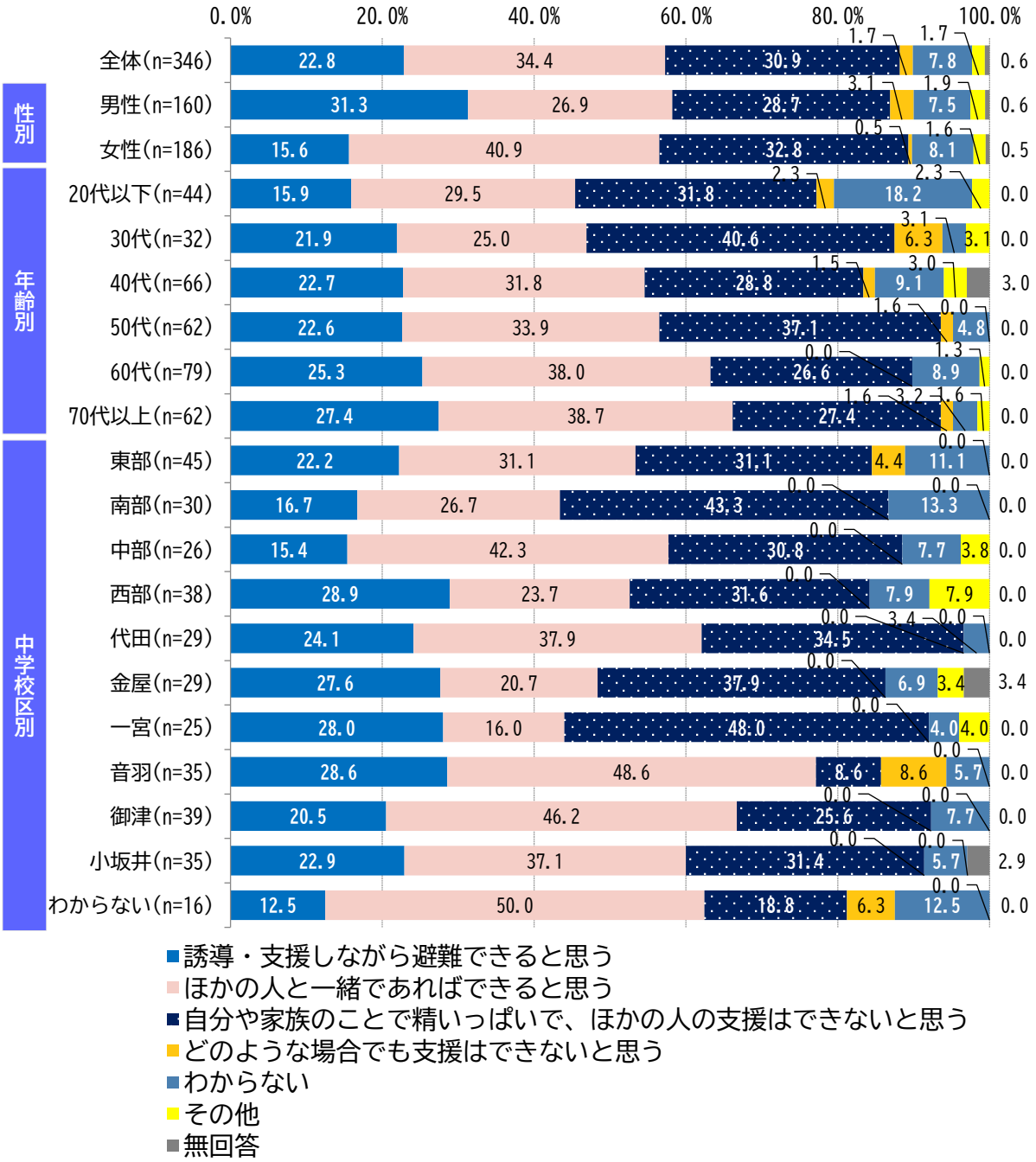
全体では、「誘導・支援しながら避難できると思う」と「ほかの人と一緒であればできると思う」をあわせた“支援できると思う”の割合が 57.2%、「自分や家族ことで精いっぱいで、ほかの人の支援はできないと思う」「どのような場合でも支援はできないと思う」をあわせた“支援できないと思う”が 32.7%となっています。５割を超えた方が支援したいと考えていることがうかがえます。



性別では、女性に対し、男性で「誘導・支援しながら避難できると思う」の割合が高くなっています。

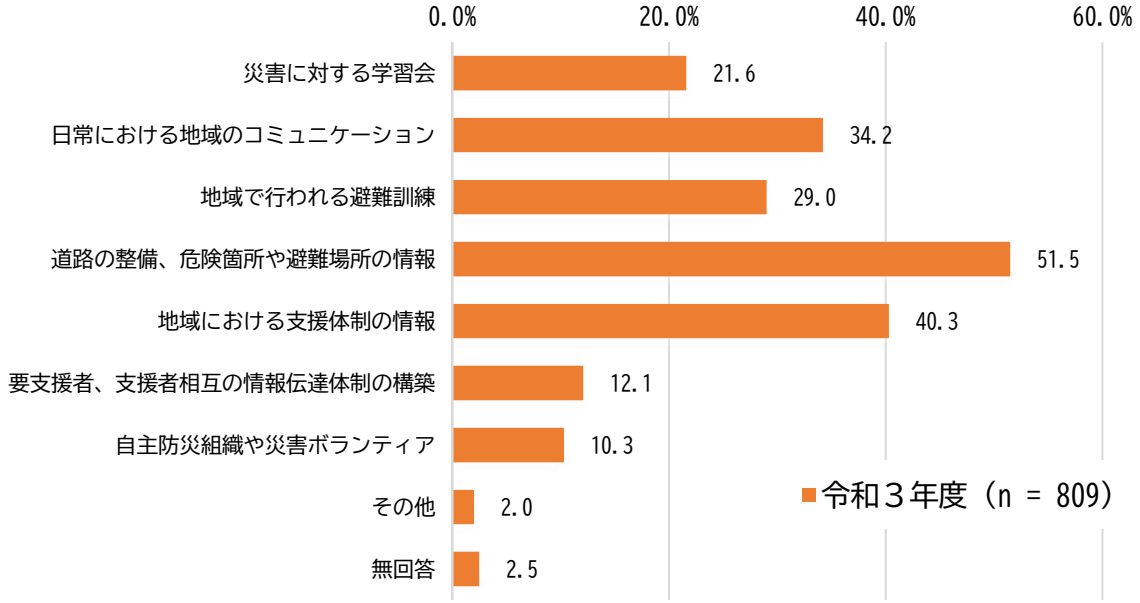
年齢別では、年齢が上がるにつれて“支援できると思う”の割合が高くなる傾向があります。

中学校区別では、音羽中学校区で“支援できると思う”の割合が高くなっています。



問32　災害への備えとして、あなた自身には何が必要だと思いますか。
（○は３つまで）

全体では、「道路の整備、危険箇所や避難場所の情報」の割合が 51.5%と最も高く、次いで「地域における支援体制の情報」が 40.3%、「日常における地域のコミュニケーション」が 34.2%となっています。５割以上の方が「道路の整備、危険箇所や避難場所の情報」を挙げていることから、正確な情報に対するニーズがうかがえます。



性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、70 代以上で「日常における地域のコミュニケーション」の割合が高くなる傾向があります。

中学校区別では、金屋中学校区で「日常における地域のコミュニケーション」の割合が高くなっています。

区分		災害に対する学習会	日常における地域のコミュニケーション	地域で行われる避難訓練	道路の整備、危険箇所や避難場所の情報	地域における支援体制の情報	要支援者、支援者相互の情報伝達体制の構築	自主防災組織や災害ボランティア	その他	無回答
全体(n=802)		21.3	34.3	29.1	51.7	40.4	12.1	10.2	2.0	2.4
性別	男性(n=355)	20.6	32.4	31.3	47.6	37.7	14.1	10.7	2.8	2.5
	女性(n=447)	21.9	35.8	27.3	55.0	42.5	10.5	9.8	1.3	2.2
年齢別	20代以下(n=86)	16.3	24.4	17.4	66.3	31.4	9.3	10.5	2.3	-
	30代(n=82)	20.7	29.3	24.4	73.2	36.6	9.8	7.3	1.2	1.2
	40代(n=119)	21.0	24.4	26.1	59.7	47.1	6.7	14.3	2.5	1.7
	50代(n=115)	14.8	31.3	27.0	56.5	44.3	15.7	6.1	3.5	0.9
	60代(n=154)	25.3	35.1	34.4	47.4	45.5	12.3	12.3	1.3	1.9
	70代以上(n=245)	24.5	44.9	34.3	35.9	37.1	14.7	9.8	1.6	4.9
中学校区別	東部(n=117)	19.7	27.4	23.9	53.8	35.0	10.3	8.5	1.7	1.7
	南部(n=70)	28.6	40.0	22.9	44.3	50.0	10.0	11.4	1.4	4.3
	中部(n=68)	16.2	30.9	25.0	45.6	38.2	20.6	10.3	2.9	4.4
	西部(n=77)	24.7	28.6	32.5	49.4	35.1	13.0	10.4	1.3	2.6
	代田(n=67)	23.9	38.8	29.9	41.8	41.8	16.4	9.0	1.5	1.5
	金屋(n=57)	26.3	42.1	29.8	50.9	40.4	8.8	10.5	1.8	1.8
	一宮(n=72)	19.4	33.3	33.3	55.6	33.3	5.6	11.1	2.8	1.4
	音羽(n=76)	15.8	38.2	30.3	50.0	44.7	11.8	15.8	2.6	2.6
	御津(n=88)	18.2	36.4	31.8	55.7	42.0	12.5	9.1	2.3	3.4
	小坂井(n=76)	23.7	36.8	34.2	55.3	40.8	13.2	9.2	-	2.6
	わからない(n=34)	23.5	23.5	26.5	70.6	52.9	11.8	5.9	5.9	-

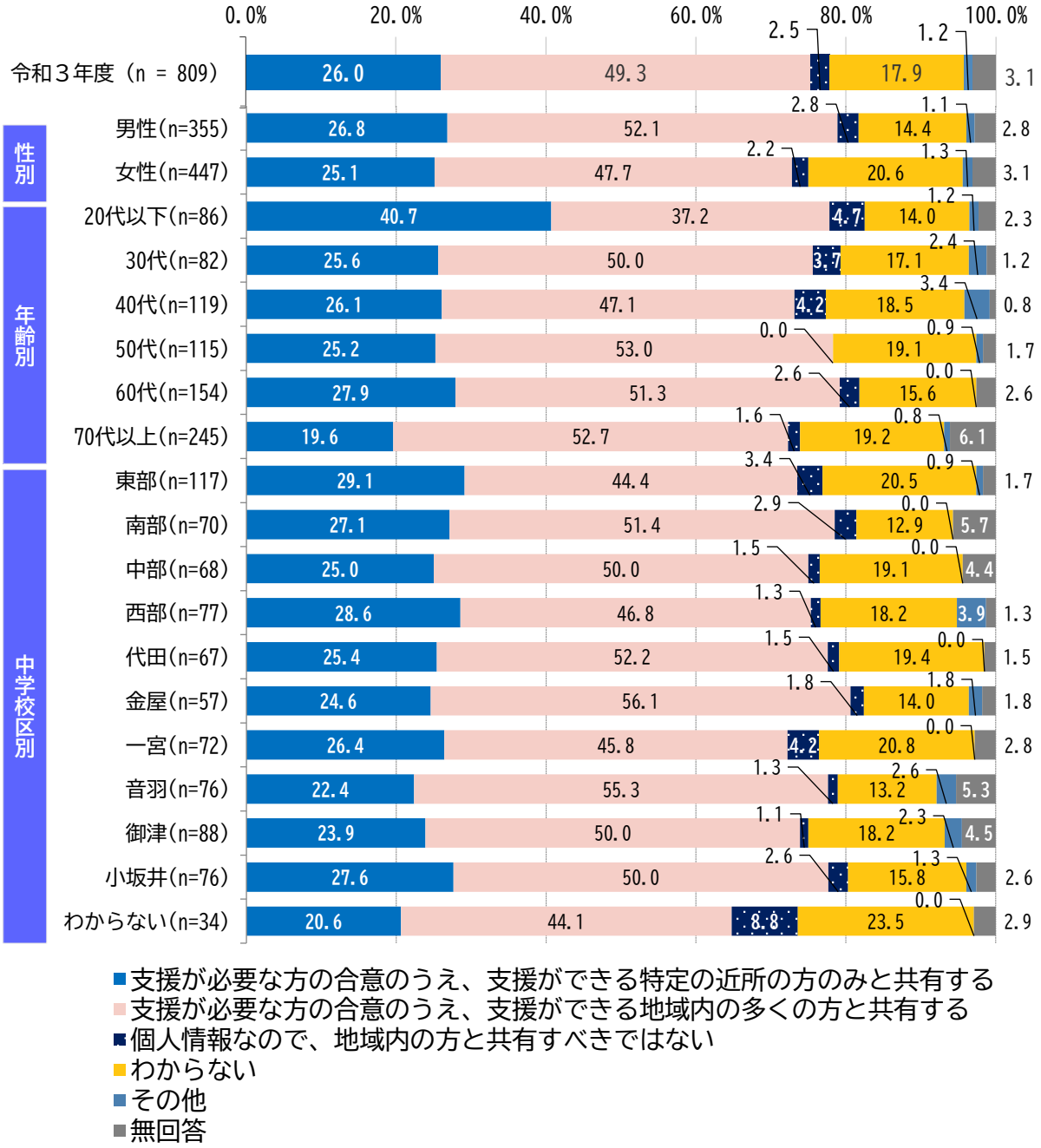
問33　災害が起こった場合に支援が必要な方の情報は、どのように共有されるべきだと思いますか。（○はひとつ）

全体では、「支援が必要な方の合意のうえ、支援ができる特定の近所の方のみと共有する」と「支援が必要な方の合意のうえ、支援ができる地域内の多くの方と共有する」をあわせた“地域内の方と情報を共有する”の割合が 75.3%、「個人情報なので、地域内の方と共有すべきでない」の“情報を共有すべきでない”が 2.5%となっています。

性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、20 代以下で「支援が必要な方の合意のうえ、支援ができる特定の近所の方のみと共有する」の割合が高くなっています。

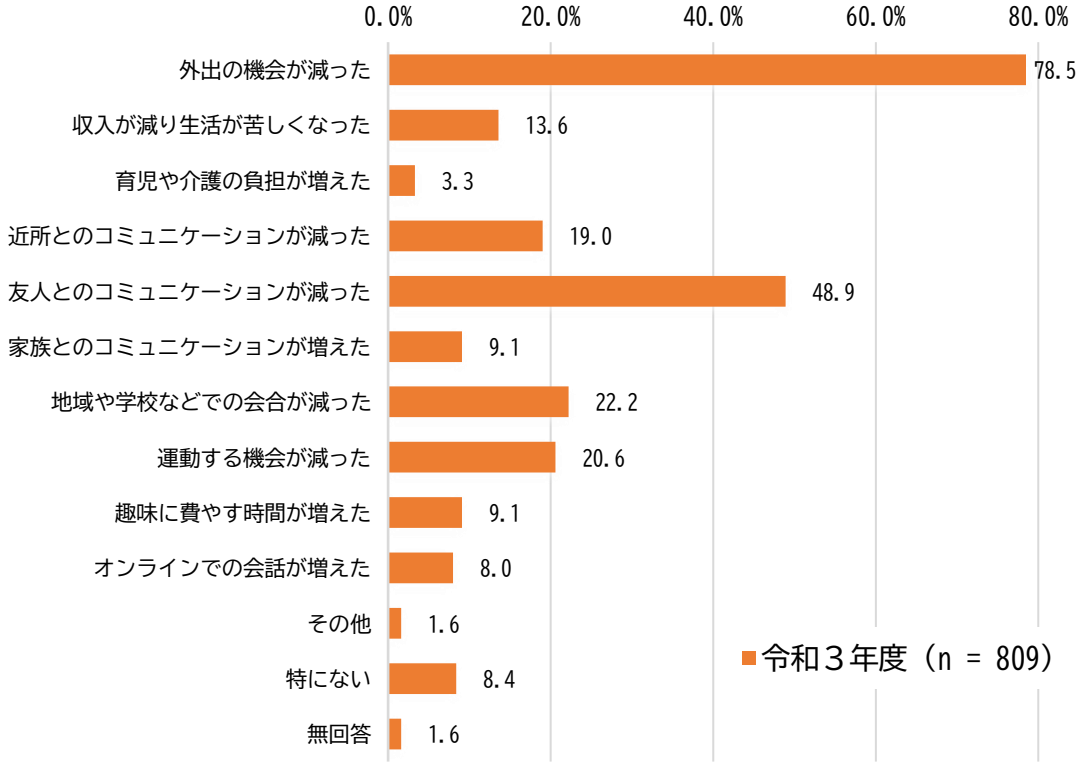
中学校区別では、金屋中学校区で“地域内の方と情報を共有する”の割合が８割と高くなっています。



8　新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化についておたずねします

問34　新型コロナウイルス感染症の影響により、生活に何らかの変化がありましたか。（○はいくつでも）

全体では、「外出の機会が減った」の割合が 78.5%と最も高く、次いで「友人とのコミュニケーションが減った」が 48.9%、「地域や学校などでの会合が減った」が 22.2%となっています。



性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、30 代、40 代で「収入が減り生活が苦しくなった」の割合が高くなっています。また、年齢が上がるに連れて「近所とのコミュニケーションが減った」の割合が高くなっています。

中学校区別では、東部中学校区で「収入が減り生活が苦しくなった」の割合が高くなっています。

区分		外出の機会が減った	収入が減り生活が苦しくなった	育児や介護の負担が増えた	近所とのコミュニケーションが減った	友人とのコミュニケーションが減った	家族とのコミュニケーションが増えた	地域や学校などでの会合が減った	運動する機会が減った	趣味に費やす時間が増えた	オンラインでの会話が増えた	その他	特にない	無回答
全体(n=802)		78.7	13.3	3.4	19.0	49.0	9.1	22.1	20.7	9.2	8.1	1.5	8.5	1.5
性別	男性(n=355)	75.2	14.1	2.3	17.5	45.9	8.5	22.5	18.0	11.3	9.3	2.0	9.3	2.0
	女性(n=447)	81.4	12.8	4.3	20.1	51.5	9.6	21.7	22.8	7.6	7.2	1.1	7.8	1.1
年齢別	20代以下(n=86)	72.1	10.5	2.3	4.7	44.2	10.5	16.3	25.6	14.0	17.4	2.3	11.6	-
	30代(n=82)	87.8	25.6	8.5	12.2	53.7	17.1	36.6	24.4	13.4	17.1	1.2	2.4	-
	40代(n=119)	84.0	23.5	5.0	14.3	52.9	7.6	36.1	23.5	5.9	6.7	1.7	4.2	0.8
	50代(n=115)	74.8	19.1	5.2	14.8	44.3	10.4	27.8	24.3	15.7	13.9	2.6	7.0	2.6
	60代(n=154)	77.3	7.1	2.6	22.7	53.9	7.8	22.1	10.4	7.8	5.2	1.3	9.7	1.9
	70代以上(n=245)	78.0	6.5	0.8	28.6	46.9	7.3	9.8	21.6	5.7	1.6	0.8	11.0	2.4
中学校区別	東部(n=117)	78.6	22.2	4.3	20.5	48.7	6.8	21.4	16.2	10.3	5.1	1.7	10.3	-
	南部(n=70)	74.3	10.0	2.9	14.3	57.1	8.6	15.7	28.6	7.1	4.3	-	10.0	1.4
	中部(n=68)	79.4	11.8	1.5	13.2	47.1	8.8	27.9	22.1	2.9	10.3	1.5	10.3	1.5
	西部(n=77)	77.9	14.3	1.3	23.4	57.1	14.3	24.7	27.3	10.4	16.9	1.3	9.1	-
	代田(n=67)	88.1	16.4	6.0	19.4	43.3	7.5	22.4	17.9	13.4	11.9	1.5	6.0	-
	金屋(n=57)	73.7	10.5	7.0	17.5	42.1	5.3	19.3	26.3	7.0	8.8	3.5	15.8	-
	一宮(n=72)	83.3	8.3	4.2	29.2	52.8	6.9	25.0	18.1	5.6	5.6	1.4	4.2	2.8
	音羽(n=76)	78.9	6.6	1.3	17.1	46.1	11.8	22.4	19.7	7.9	3.9	-	9.2	3.9
	御津(n=88)	75.0	12.5	2.3	19.3	43.2	6.8	22.7	13.6	13.6	9.1	2.3	5.7	4.5
	小坂井(n=76)	78.9	10.5	2.6	19.7	60.5	11.8	23.7	23.7	10.5	6.6	1.3	6.6	2.6
	わからない(n=34)	73.5	20.6	5.9	5.9	29.4	17.6	11.8	17.6	11.8	8.8	2.9	5.9	-

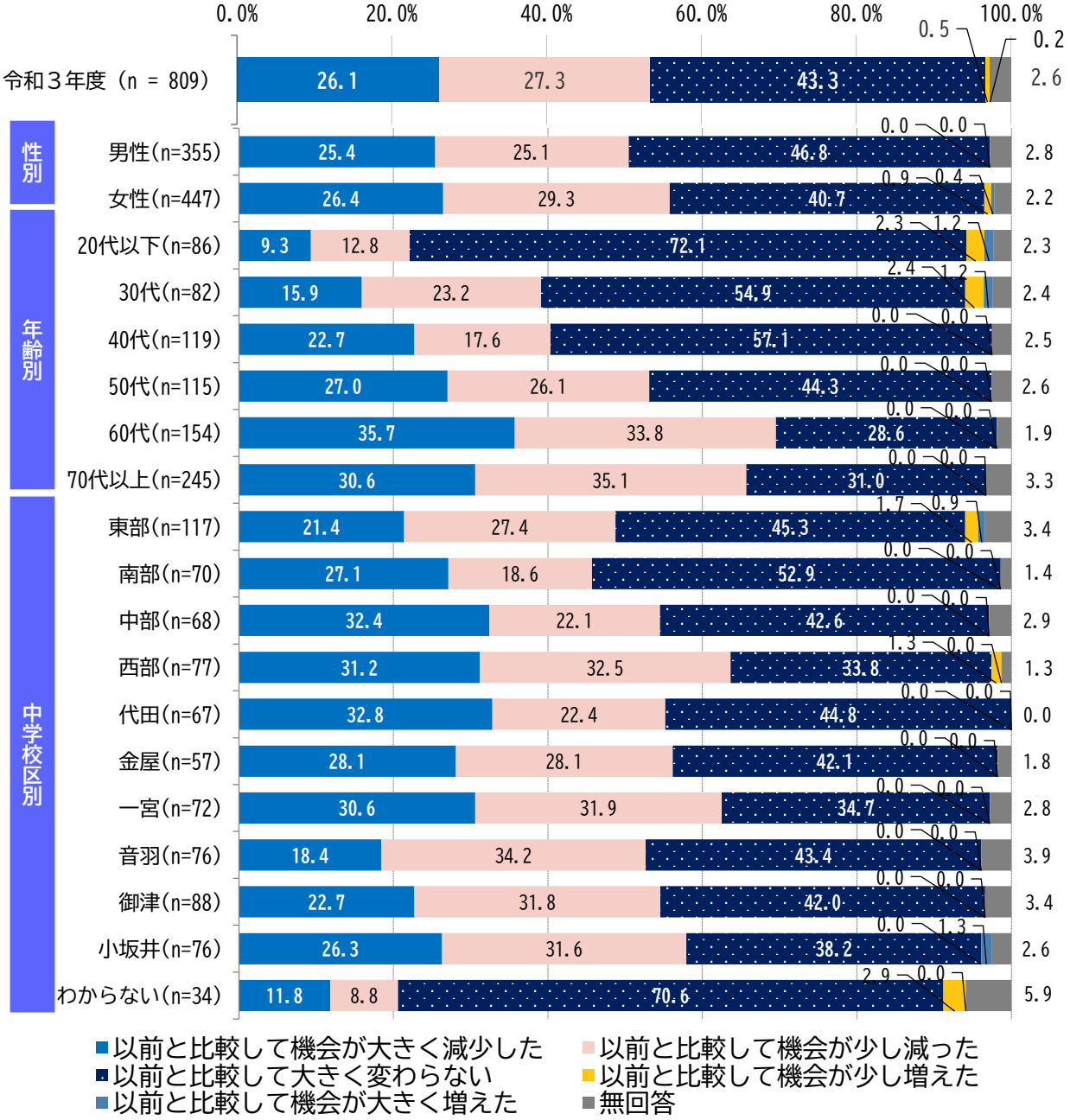
問35　新型コロナウイルス感染症の影響により、隣近所の住民同士のコミュニケーションや自治会など地域の組織に関わる機会は変化しましたか。（○はひとつ）

全体では、「以前と比較して機会が大きく減少した」と「以前と比較して機会が少し減った」をあわせた“機会が減少した”の割合が 53.4%、「以前と比較して大きく変わらない」の“変わらない”の割合が 43.3%、「以前と比較して機会が少し増えた」と「以前と比較して機会が大きく増えた」をあわせた“機会が増えた”の割合が 0.7%となっています。

性別では、大きな差異はみられません。

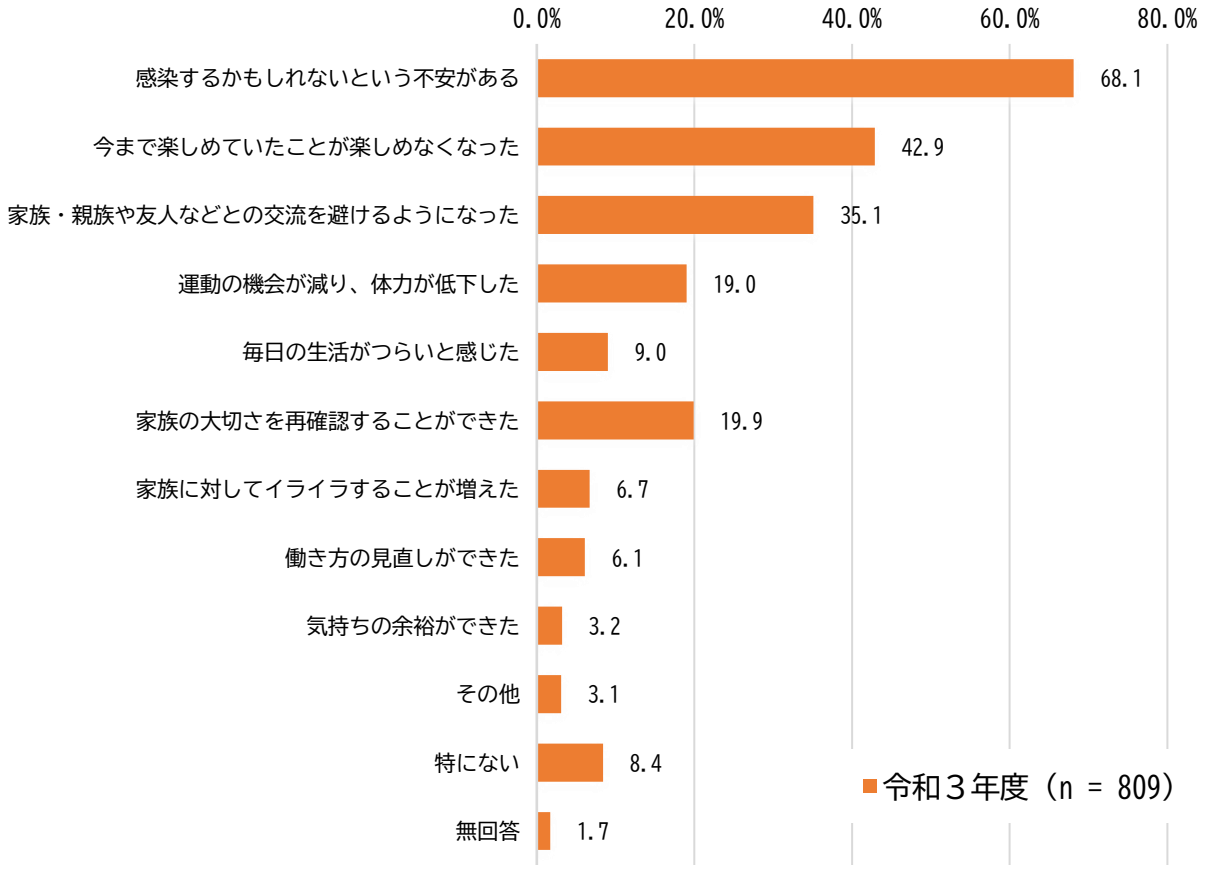
年齢別では、年齢が上がるに連れて“機会が減少した”の割合が高くなっています。

中学校区別では、西部中学校区、一宮中学校区で“機会が減少した”の割合が高くなっています。



問36　新型コロナウイルス感染症の影響により、あなたの気持ちや身体にどのような変化がありましたか。（○はいくつでも）

全体では、「感染するかもしれないという不安がある」の割合が 68.1%と最も高く、次いで「今まで楽しめていたことが楽しめなくなった」が 42.9%、「家族・親族や友人などとの交流を避けるようになった」が 35.1%となっています。



性別では、男性に比べ、女性で「今まで楽しめていたことが楽しめなくなった」の割合が高くなっています。

年齢別では、30 代で「家族の大切さを再確認することができた」の割合が高くなっています。

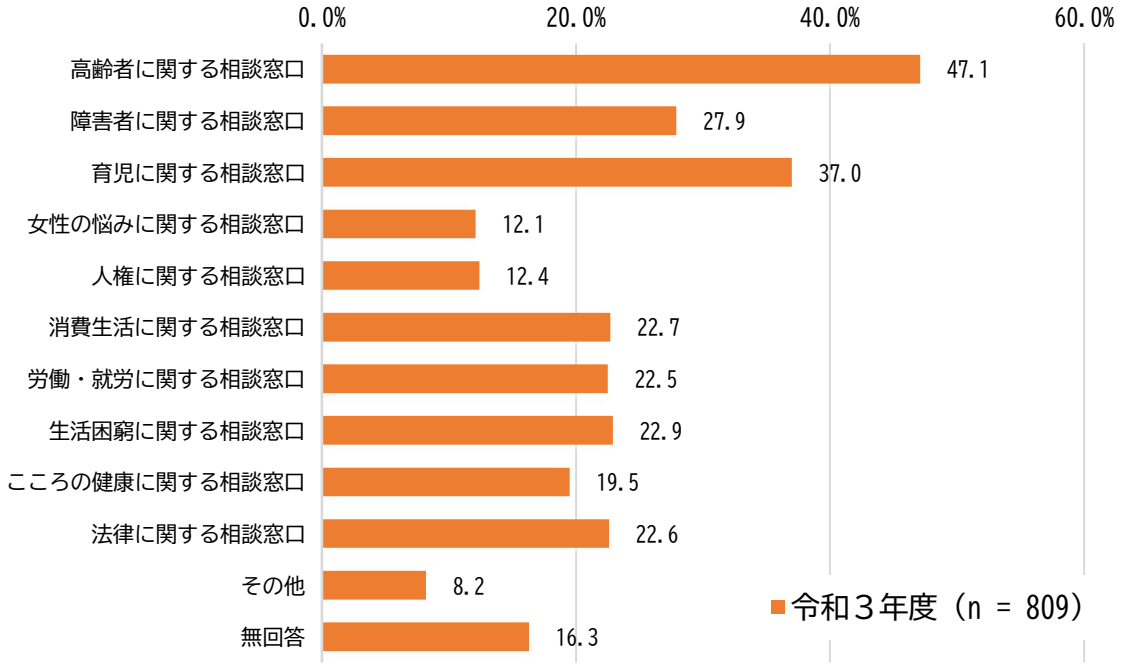
中学校区別では、金屋中学校区、中部中学校区で「今まで楽しめていたことが楽しめなくなった」の割合が低くなっています。

区分		感染するかもしれないという不安がある	今まで楽しめていたことが楽しめなくなった	家族・親族や友人などとの交流を避けるようになった	運動の機会が減り、体力が低下した	毎日の生活がつらいと感じた	家族の大切さを再確認することができた	家族に対してイライラすることが増えた	働き方の見直しができた	気持ちの余裕ができた	その他	特にない	無回答
全体(n=802)		68.2	42.9	35.0	19.1	8.7	19.8	6.6	6.0	3.2	3.1	8.5	1.6
性別	男性(n=355)	65.1	38.9	32.7	16.9	6.8	16.9	3.4	7.3	3.4	3.4	11.5	2.5
	女性(n=447)	70.7	46.1	36.9	20.8	10.3	22.1	9.2	4.9	3.1	2.9	6.0	0.9
年齢別	20代以下(n=86)	57.0	46.5	23.3	18.6	4.7	18.6	8.1	3.5	4.7	7.0	14.0	-
	30代(n=82)	68.3	47.6	39.0	18.3	9.8	32.9	9.8	13.4	9.8	3.7	6.1	-
	40代(n=119)	68.9	43.7	36.1	21.0	13.4	21.0	10.1	5.0	1.7	5.0	7.6	0.8
	50代(n=115)	62.6	40.9	31.3	20.0	15.7	15.7	7.8	12.2	0.9	1.7	7.0	2.6
	60代(n=154)	74.7	46.1	38.3	12.3	5.2	15.6	5.2	7.1	1.3	2.6	9.1	1.9
	70代以上(n=245)	70.2	39.2	37.1	22.9	6.9	20.0	3.7	1.6	3.7	1.6	7.8	2.9
中学校区別	東部(n=117)	67.5	47.9	33.3	15.4	9.4	20.5	7.7	7.7	0.9	5.1	10.3	-
	南部(n=70)	68.6	37.1	38.6	22.9	18.6	25.7	7.1	4.3	1.4	-	8.6	2.9
	中部(n=68)	69.1	33.8	32.4	17.6	7.4	19.1	10.3	2.9	2.9	2.9	10.3	1.5
	西部(n=77)	66.2	37.7	35.1	24.7	7.8	22.1	6.5	7.8	9.1	3.9	9.1	-
	代田(n=67)	71.6	52.2	38.8	20.9	4.5	16.4	9.0	3.0	3.0	1.5	9.0	-
	金屋(n=57)	70.2	33.3	35.1	22.8	15.8	19.3	5.3	5.3	3.5	3.5	15.8	-
	一宮(n=72)	68.1	41.7	40.3	12.5	11.1	19.4	2.8	5.6	2.8	1.4	6.9	2.8
	音羽(n=76)	65.8	42.1	34.2	13.2	-	14.5	2.6	9.2	1.3	2.6	5.3	3.9
	御津(n=88)	61.4	42.0	31.8	20.5	2.3	17.0	8.0	6.8	2.3	5.7	5.7	4.5
	小坂井(n=76)	73.7	50.0	38.2	22.4	11.8	18.4	6.6	7.9	3.9	3.9	5.3	2.6
	わからない(n=34)	73.5	55.9	23.5	23.5	11.8	35.3	5.9	2.9	8.8	-	8.8	-

9　これからの地域福祉についておたずねします

問37　市内には、さまざまな分野の困りごとの相談窓口があります。次のうち、あなたが知っている相談窓口はどれですか。（○はいくつでも）

全体では、「高齢者に関する相談窓口」の割合が 47.1%と最も高く、次いで「育児に関する相談窓口」が 37.0%、「障害者に関する相談窓口」が 27.9%となっています。

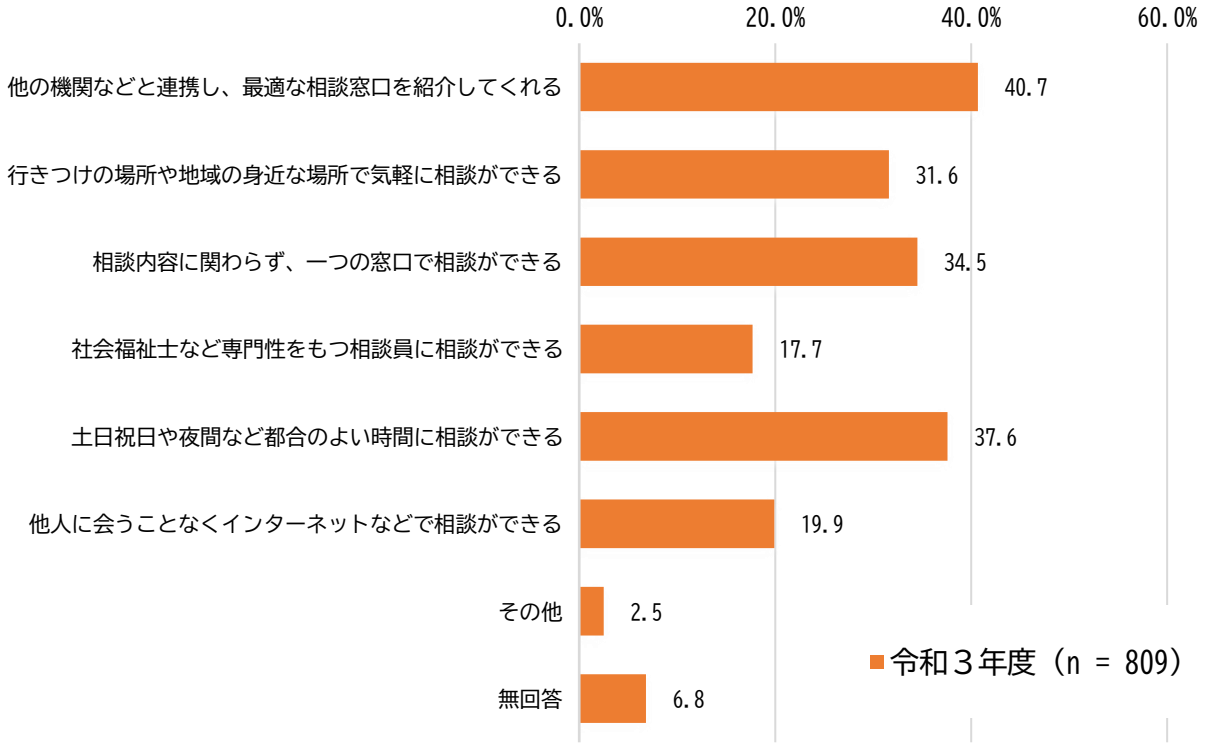


性別では、男性に比べ、女性で多くの項目の割合が高くなっています。
年齢別では、30 代で「育児に関する相談窓口」の割合が高くなっています。
中学校区別では、御津中学校区で「育児に関する相談窓口」の割合が高くなっています。

区分		高齢者に関する相談窓口	障害者に関する相談窓口	育児に関する相談窓口	女性の悩みに関する相談窓口	人権に関する相談窓口	消費生活に関する相談窓口	労働・就労に関する相談窓口	生活困窮に関する相談窓口	こころの健康に関する相談窓口	法律に関する相談窓口	その他	無回答
全体(n=802)		46.8	27.6	36.8	12.0	12.2	22.7	22.3	22.7	19.6	22.4	8.2	16.3
性別	男性(n=355)	41.1	23.9	29.9	6.2	9.3	19.7	21.4	20.8	13.5	21.1	10.7	19.2
	女性(n=447)	51.2	30.4	42.3	16.6	14.5	25.1	23.0	24.2	24.4	23.5	6.3	14.1
年齢別	20代以下(n=86)	30.2	23.3	40.7	7.0	8.1	14.0	33.7	17.4	19.8	14.0	11.6	11.6
	30代(n=82)	24.4	14.6	63.4	14.6	6.1	17.1	29.3	23.2	29.3	14.6	7.3	17.1
	40代(n=119)	42.9	33.6	57.1	23.5	9.2	26.9	28.6	21.0	31.1	25.2	5.0	12.6
	50代(n=115)	46.1	35.7	40.0	15.7	17.4	30.4	26.1	30.4	23.5	29.6	9.6	18.3
	60代(n=154)	53.9	30.5	35.1	14.3	16.2	21.4	24.0	26.0	18.8	21.4	7.1	17.5
	70代以上(n=245)	58.0	25.3	16.7	4.5	12.7	23.3	10.6	19.6	9.8	24.1	9.0	18.0
中学校区別	東部(n=117)	41.9	22.2	33.3	7.7	7.7	19.7	21.4	18.8	21.4	17.1	7.7	14.5
	南部(n=70)	51.4	24.3	44.3	11.4	12.9	24.3	24.3	34.3	18.6	25.7	8.6	10.0
	中部(n=68)	48.5	32.4	36.8	16.2	13.2	33.8	25.0	14.7	23.5	22.1	5.9	17.6
	西部(n=77)	59.7	31.2	36.4	11.7	11.7	27.3	23.4	29.9	20.8	29.9	7.8	7.8
	代田(n=67)	47.8	28.4	29.9	11.9	13.4	16.4	25.4	23.9	19.4	16.4	6.0	20.9
	金屋(n=57)	52.6	33.3	38.6	21.1	19.3	24.6	26.3	19.3	24.6	33.3	8.8	12.3
	一宮(n=72)	45.8	26.4	36.1	9.7	11.1	16.7	20.8	15.3	18.1	26.4	9.7	19.4
	音羽(n=76)	46.1	26.3	32.9	7.9	7.9	18.4	18.4	27.6	15.8	18.4	10.5	22.4
	御津(n=88)	45.5	34.1	45.5	20.5	21.6	28.4	27.3	26.1	21.6	26.1	9.1	18.2
	小坂井(n=76)	47.4	27.6	40.8	7.9	13.2	22.4	19.7	23.7	14.5	22.4	7.9	14.5
	わからない(n=34)	14.7	11.8	23.5	2.9	-	14.7	5.9	11.8	14.7	2.9	8.8	32.4

問38　福祉に関する相談窓口について、どのような窓口であれば相談しやすいと思いますか。（○はいくつでも）

全体では、「他の機関などと連携し、最適な相談窓口を紹介してくれる」の割合が 40.7%と最も高く、次いで「土日祝日や夜間など都合のよい時間に相談できる」が 37.6%、「相談内容に関わらず、一つの窓口で相談できる」が 34.5%となっています。



性別では、大きな差異はみられません。

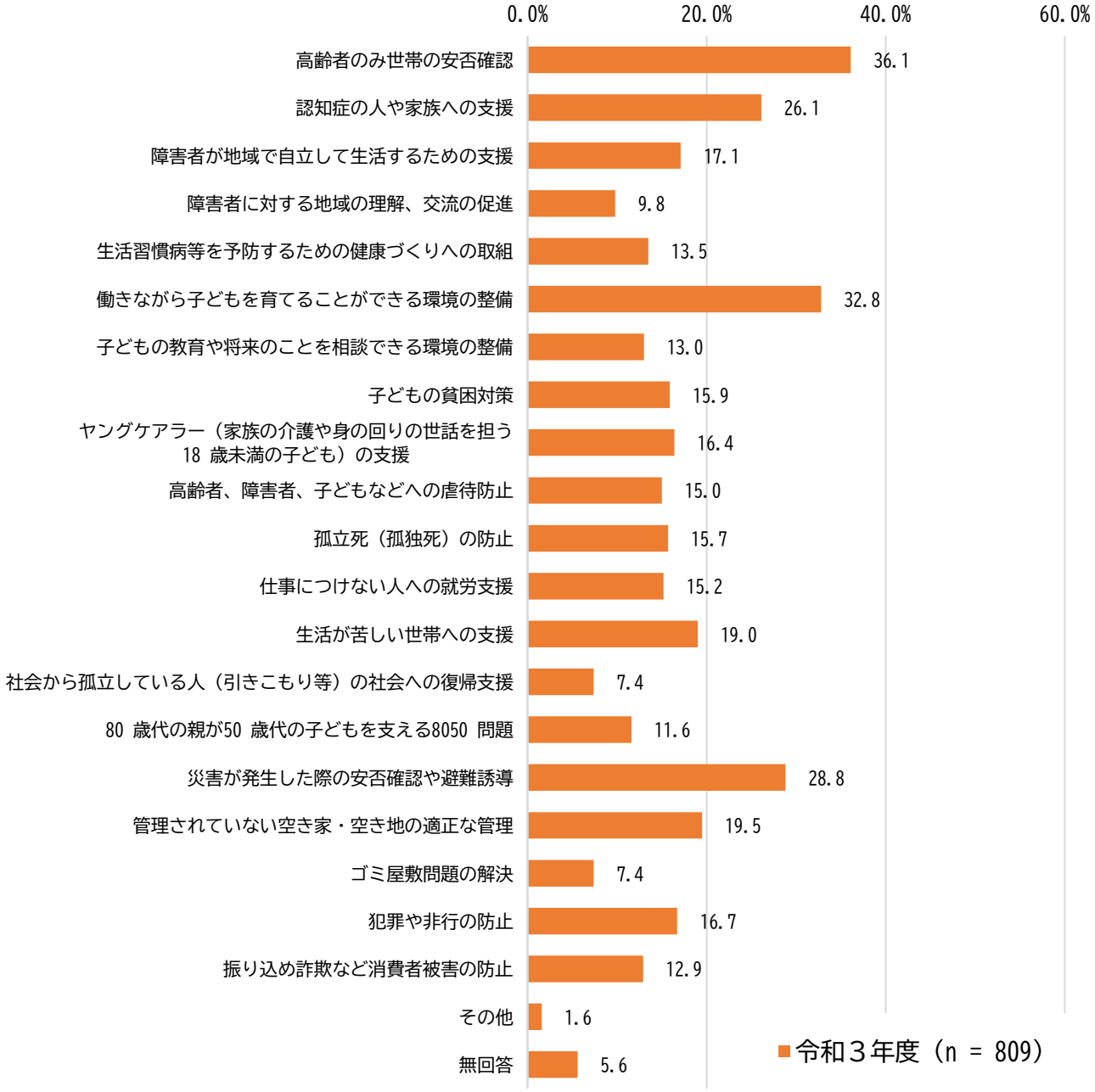
年齢別では、20 代以下から 50 代にかけて「土日祝日や夜間など都合のよい時間に相談できる」、「他人に会うことなくインターネットなどで相談ができる」の割合が高くなっています。

中学校区別では、南部中学校区で「他の機関などと連携し、最適な相談窓口を紹介してくれる」の割合が高くなっています。

区分		他の機関などと連携し、最適な相談窓口を紹介してくれる	行きつけの場所や地域の身近な場所で気軽に相談ができる	相談内容に関わらず、一つの窓口で相談ができる	社会福祉士など専門性をもつ相談員に相談ができる	土日祝日や夜間など都合のよい時間に相談ができる	他人に会うことなくインターネットなどで相談ができる	その他	無回答
全体(n=802)		40.6	31.7	34.7	17.7	37.7	20.0	2.5	6.6
性別	男性(n=355)	38.9	30.1	33.2	15.5	38.6	21.1	2.8	5.6
	女性(n=447)	42.1	32.9	35.8	19.5	36.9	19.0	2.2	7.4
年齢別	20代以下(n=86)	29.1	27.9	24.4	10.5	45.3	31.4	1.2	3.5
	30代(n=82)	48.8	36.6	35.4	17.1	58.5	36.6	1.2	-
	40代(n=119)	46.2	25.2	26.1	26.9	52.9	30.3	2.5	1.7
	50代(n=115)	39.1	24.3	29.6	20.0	48.7	30.4	3.5	2.6
	60代(n=154)	48.7	30.5	40.3	21.4	29.9	11.7	2.6	5.2
	70代以上(n=245)	34.3	39.2	41.2	12.7	20.4	5.7	2.9	15.1
中学校区別	東部(n=117)	35.9	28.2	32.5	11.1	40.2	22.2	1.7	6.8
	南部(n=70)	52.9	35.7	45.7	24.3	35.7	15.7	-	4.3
	中部(n=68)	45.6	30.9	41.2	22.1	41.2	19.1	4.4	7.4
	西部(n=77)	42.9	29.9	35.1	19.5	37.7	16.9	3.9	1.3
	代田(n=67)	40.3	38.8	28.4	14.9	29.9	17.9	4.5	7.5
	金屋(n=57)	43.9	33.3	35.1	21.1	31.6	21.1	3.5	8.8
	一宮(n=72)	38.9	33.3	37.5	15.3	47.2	9.7	2.8	4.2
	音羽(n=76)	39.5	27.6	36.8	14.5	26.3	19.7	2.6	11.8
	御津(n=88)	37.5	29.5	28.4	15.9	39.8	25.0	-	8.0
	小坂井(n=76)	40.8	31.6	27.6	19.7	31.6	23.7	2.6	7.9
	わからない(n=34)	26.5	35.3	38.2	26.5	64.7	32.4	2.9	5.9

問39　あなたが優先的に解決すべきと考える課題はなんですか。
（○は５つまで）

全体では、「高齢者のみ世帯の安否確認」の割合が 36.1%と最も高く、次いで「働きながら子どもを育てることができる環境の整備」が 32.8%、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導」が 28.8%となっています。



性別では、男性に比べ、女性で「ヤングケアラー(家族の介護や身の回りの世話を担う 18 歳未満の子ども)の支援」の割合が高くなっています。

年齢別では、年齢が上がるにつれて「高齢者のみ世帯の安否確認」の割合が高くなっています。また、40 代で「ヤングケアラー(家族の介護や身の回りの世話を担う 18 歳未満の子ども)の支援」の割合が高くなっています。

中学校区別では、代田中学校区で「認知症の人や家族への支援」、「犯罪や非行の防止」の割合が高くなっています。

区分		高齢者のみ世帯の安否確認	認知症の人や家族への支援	障害者が地域で自立して生活するための支援	障害者に対する地域の理解、交流の促進	生活習慣病等を予防するための健康づくりへの取組	働きながら子どもを育てることができる環境の整備	子どもの教育や将来のことを相談できる環境の整備	子どもの貧困対策	ヤングケアラー(家族の介護や身の回りの世話を担う18歳未満の子ども)の支援	高齢者、障害者、子どもなどへの虐待防止	孤立死(孤独死)の防止
全体(n=802)		35.9	25.8	17.0	9.9	13.5	32.8	12.8	16.0	16.3	15.0	15.7
性別	男性(n=355)	35.5	22.8	17.2	8.7	13.5	30.4	13.5	17.2	11.5	13.0	16.1
	女性(n=447)	36.2	28.2	16.8	10.7	13.4	34.7	12.3	15.0	20.1	16.6	15.4
年齢別	20代以下(n=86)	20.9	11.6	10.5	8.1	1.2	60.5	33.7	18.6	12.8	10.5	9.3
	30代(n=82)	26.8	25.6	17.1	7.3	6.1	64.6	31.7	25.6	17.1	9.8	6.1
	40代(n=119)	30.3	28.6	16.0	10.9	8.4	38.7	18.5	26.1	29.4	16.0	10.1
	50代(n=115)	32.2	29.6	21.7	12.2	10.4	30.4	4.3	12.2	17.4	18.3	19.1
	60代(n=154)	44.8	32.5	20.1	14.3	15.6	25.3	5.8	18.2	19.5	15.6	18.8
	70代以上(n=245)	43.3	23.7	15.5	6.9	22.9	15.9	4.9	7.8	9.0	16.3	20.4
中学校区別	東部(n=117)	27.4	23.1	10.3	11.1	11.1	40.2	17.9	19.7	18.8	16.2	11.1
	南部(n=70)	42.9	24.3	15.7	5.7	11.4	31.4	15.7	14.3	14.3	10.0	24.3
	中部(n=68)	38.2	27.9	17.6	5.9	13.2	33.8	13.2	17.6	14.7	19.1	17.6
	西部(n=77)	24.7	26.0	22.1	7.8	15.6	39.0	6.5	19.5	24.7	16.9	13.0
	代田(n=67)	28.4	40.3	11.9	9.0	13.4	31.3	6.0	10.4	10.4	13.4	20.9
	金屋(n=57)	43.9	33.3	19.3	17.5	17.5	22.8	7.0	12.3	21.1	14.0	22.8
	一宮(n=72)	38.9	31.9	15.3	9.7	16.7	33.3	13.9	12.5	18.1	16.7	11.1
	音羽(n=76)	42.1	28.9	21.1	7.9	6.6	23.7	9.2	14.5	11.8	14.5	13.2
	御津(n=88)	40.9	13.6	23.9	8.0	11.4	34.1	17.0	21.6	18.2	15.9	18.2
	小坂井(n=76)	43.4	22.4	15.8	14.5	19.7	25.0	13.2	9.2	7.9	13.2	10.5
	わからない(n=34)	23.5	14.7	14.7	14.7	14.7	50.0	20.6	23.5	20.6	14.7	14.7

（つづき）

区分		仕事につけない人への就労支援	生活が苦しい世帯への支援	社会から孤立している人（引きこもり等）の社会への復帰支援	80歳代の親が50歳代の子どもを支える80 50問題	災害が発生した際の安否確認や避難誘導	管理されていない空き家・空き地の適正な管理	ゴミ屋敷問題の解決	犯罪や非行の防止	振り込め詐欺など消費者被害の防止	その他	無回答
全体(n=802)		15.3	19.1	7.4	11.6	28.8	19.6	7.4	16.8	13.0	1.6	5.5
性別	男性(n=355)	14.9	20.8	8.7	13.8	30.1	18.3	8.7	17.2	14.9	2.0	5.1
	女性(n=447)	15.7	17.7	6.3	9.8	27.7	20.6	6.3	16.6	11.4	1.3	5.8
年齢別	20代以下(n=86)	11.6	17.4	2.3	7.0	23.3	23.3	9.3	25.6	10.5	4.7	3.5
	30代(n=82)	15.9	20.7	6.1	6.1	34.1	23.2	6.1	30.5	7.3	1.2	1.2
	40代(n=119)	20.2	25.2	9.2	11.8	24.4	22.7	11.8	19.3	8.4	2.5	1.7
	50代(n=115)	24.3	26.1	9.6	15.7	25.2	16.5	7.8	17.4	8.7	0.9	3.5
	60代(n=154)	11.7	17.5	5.8	11.7	32.5	18.2	5.8	12.3	15.6	0.6	4.5
	70代以上(n=245)	12.2	13.5	8.6	13.1	30.2	18.0	5.7	10.6	18.0	1.2	11.0
中学校区別	東部(n=117)	12.0	21.4	5.1	7.7	22.2	18.8	9.4	18.8	16.2	1.7	5.1
	南部(n=70)	10.0	14.3	8.6	14.3	34.3	21.4	11.4	7.1	18.6	-	5.7
	中部(n=68)	8.8	17.6	4.4	10.3	29.4	26.5	7.4	13.2	14.7	2.9	7.4
	西部(n=77)	20.8	19.5	6.5	11.7	27.3	19.5	-	14.3	11.7	1.3	1.3
	代田(n=67)	19.4	20.9	7.5	16.4	34.3	14.9	-	29.9	10.4	-	1.5
	金屋(n=57)	10.5	21.1	12.3	5.3	21.1	14.0	10.5	22.8	12.3	3.5	7.0
	一宮(n=72)	18.1	19.4	6.9	12.5	29.2	18.1	8.3	12.5	19.4	1.4	1.4
	音羽(n=76)	14.5	22.4	9.2	11.8	25.0	18.4	5.3	15.8	10.5	1.3	11.8
	御津(n=88)	19.3	13.6	6.8	9.1	28.4	26.1	13.6	14.8	10.2	1.1	8.0
	小坂井(n=76)	18.4	19.7	11.8	11.8	39.5	15.8	3.9	14.5	9.2	2.6	5.3
	わからない(n=34)	17.6	17.6	-	26.5	29.4	14.7	8.8	26.5	2.9	2.9	8.8

問40　地域福祉を推進させていく上で、行政と地域住民の関係について、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。（○は１つ）

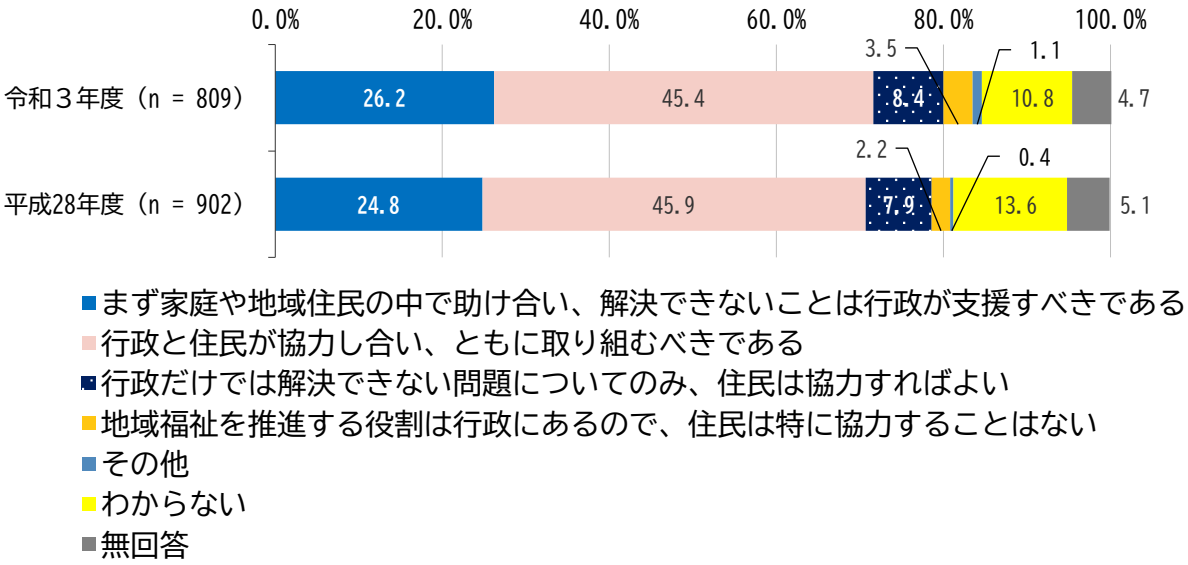
全体では、「行政と住民が協力し合い、ともに取り組むべきである」の割合が 45.4%と最も高く、次いで「まず家庭や地域住民の中で助け合い、解決できないことは行政が支援すべきである」の割合が 26.2%となっており、7 割超の方が自助・共助の意識を持っていることがうかがえます。行政と住民がともに協力し合い、ともに取り組むために、今後双方がどのような形で協力ができるのか、明確にしていく必要があります。

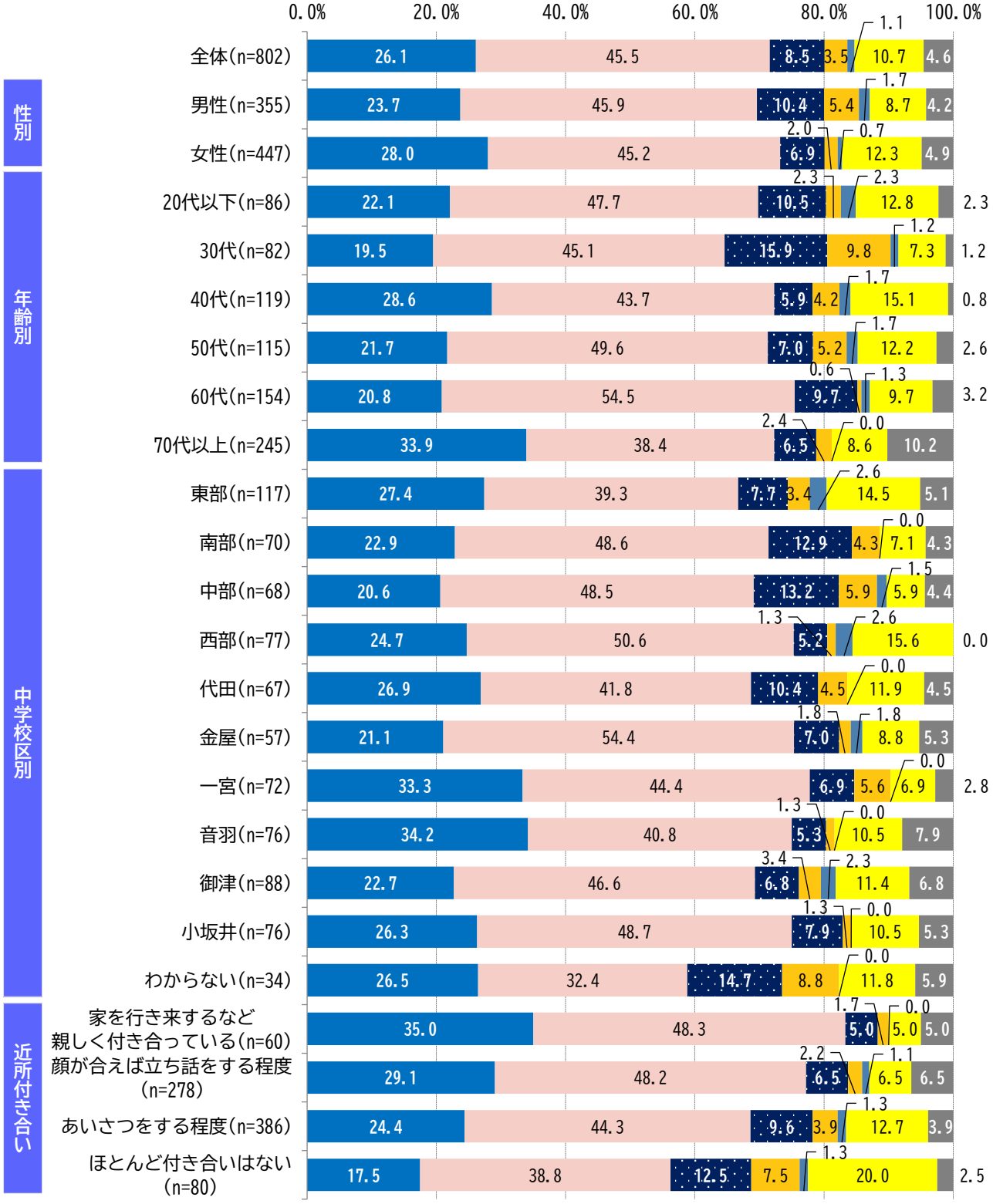
性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、70 代以上、40 代で「まず家庭や地域住民の中で助け合い、解決できないことは行政が支援すべきである」の割合が高くなっています。

中学校区別では、一宮中学校区で「まず家庭や地域住民の中で助け合い、解決できないことは行政が支援すべきである」と「行政と住民が協力し合い、ともに取り組むべきである」の割合が高くなっており、自助・共助の意識が高いことがうかがえます。

近所付き合い別では、近所が親しいほど「まず家庭や地域住民の中で助け合い、解決できないことは行政が支援すべきである」、「行政と住民が協力し合い、ともに取り組むべきである」の割合が高くなっています。




0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
100.0%
性別
年齢別
中学校区別
近所付き合い
全体(n=802) 26.1 45.5 8.5 3.5 1.1 10.7 4.6
男性(n=355) 23.7 45.9 10.4 5.4 1.7 8.7 4.2
女性(n=447) 28.0 45.2 6.9 2.0 0.7 12.3 4.9
20代以下(n=86) 22.1 47.7 10.5 2.3 2.3 12.8 2.3
30代(n=82) 19.5 45.1 15.9 9.8 1.2 7.3 1.2
40代(n=119) 28.6 43.7 5.9 4.2 1.7 15.1 0.8
50代(n=115) 21.7 49.6 7.0 5.2 1.7 12.2 2.6
60代(n=154) 20.8 54.5 9.7 0.6 1.3 9.7 3.2
70代以上(n=245) 33.9 38.4 6.5 2.4 0.0 8.6 10.2
東部(n=117) 27.4 39.3 7.7 3.4 2.6 14.5 5.1
南部(n=70) 22.9 48.6 12.9 4.3 0.0 7.1 4.3
中部(n=68) 20.6 48.5 13.2 5.9 1.5 5.9 4.4
西部(n=77) 24.7 50.6 5.2 1.3 2.6 15.6 0.0
代田(n=67) 26.9 41.8 10.4 4.5 0.0 11.9 4.5
金屋(n=57) 21.1 54.4 7.0 1.8 1.8 8.8 5.3
一宮(n=72) 33.3 44.4 6.9 5.6 0.0 6.9 2.8
音羽(n=76) 34.2 40.8 5.3 1.3 0.0 10.5 7.9
御津(n=88) 22.7 46.6 6.8 3.4 2.3 11.4 6.8
小坂井(n=76) 26.3 48.7 7.9 1.3 0.0 10.5 5.3
わからない(n=34) 26.5 32.4 14.7 8.8 0.0 11.8 5.9
家を行き来するなど親しく付き合っている(n=60) 35.0 48.3 5.0 1.7 0.0 5.0 5.0
顔が合えば立ち話をする程度(n=278) 29.1 48.2 6.5 2.2 1.1 6.5 6.5
あいさつをする程度(n=386) 24.4 44.3 9.6 3.9 1.3 12.7 3.9
ほとんど付き合いはない(n=80) 17.5 38.8 12.5 7.5 1.3 20.0 2.5
まず家庭や地域住民の中で助け合い、解決できないことは行政が支援すべきである
行政と住民が協力し合い、ともに取り組むべきである
行政だけでは解決できない問題についてのみ、住民は協力すればよい
地域福祉を推進する役割は行政にあるので、住民は特に協力することはない
その他
わからない
無回答

問41　あなたの住む地域における防犯に関する取り組みとして、どのようなことが重要だと思いますか。（○は３つまで）

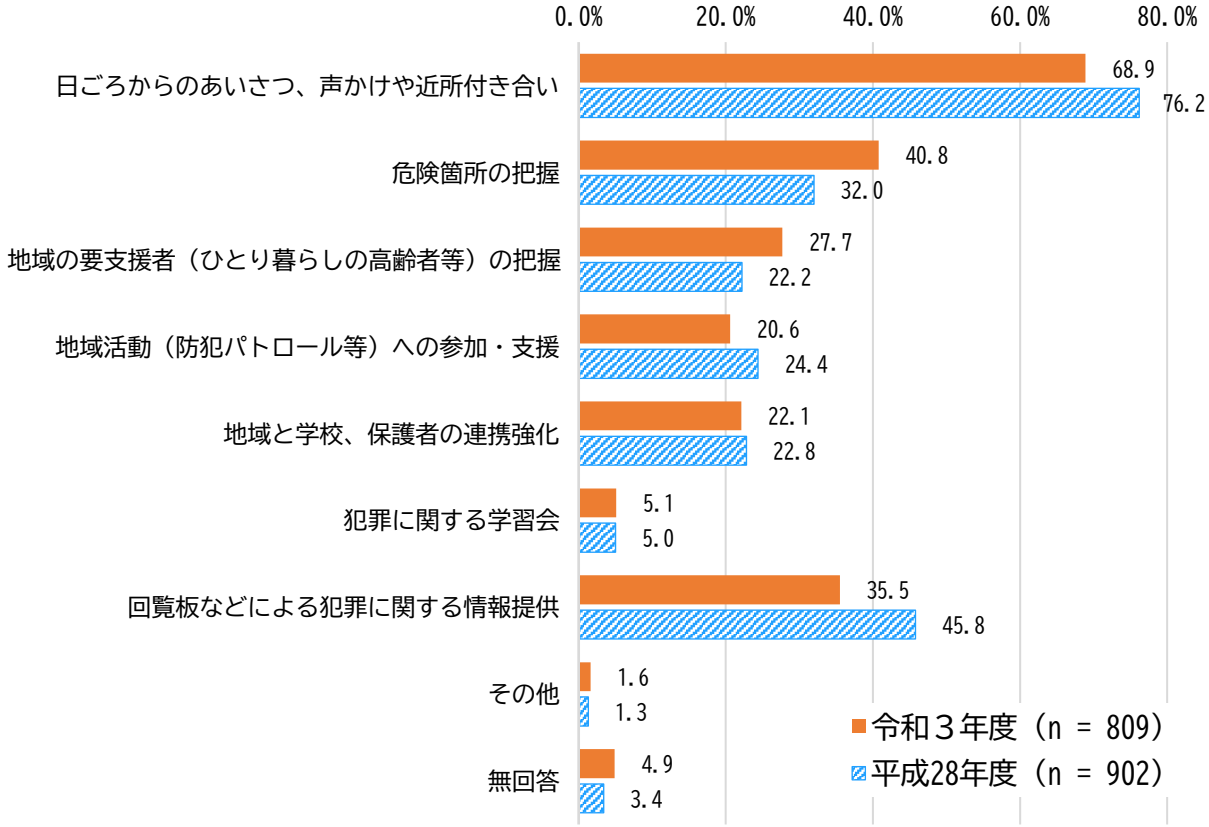
全体では､｢日ごろからのあいさつ､声かけや近所付き合い｣の割合が 68.9%と最も高く、次いで「危険箇所の把握」が 40.8%、「回覧板などによる犯罪に関する情報提供」が 35.5%となっています。

平成 28 年度調査との比較では、「日ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い」と「回覧板などによる犯罪に関する情報提供」の割合が低くなりました。一方で、「危険箇所の把握」の割合が高くなっています。

性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、「日ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い」「危険箇所の把握」の他に、30 代で「地域と学校、保護者の連携強化」、60 代で「地域要支援者(ひとり暮らしの高齢者等)の把握」の割合が高くなっています。

中学校区別では、金屋中学校区で「地域活動（防犯パトロール等）への参加・支援」の割合が、他の中学校区と比べて高くなっています。



区分		日ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い	危険箇所の把握	地域の要支援者（ひとり暮らしの高齢者等）の把握	地域活動（防犯パトロール等）への参加・支援	地域と学校、保護者の連携強化	犯罪に関する学習会	回覧板などによる犯罪に関する情報提供	その他	無回答
全体(n=802)		68.7	40.9	27.6	20.6	22.2	5.1	35.5	1.6	4.9
性別	男性(n=355)	69.3	38.6	25.1	23.1	23.7	5.6	36.3	1.7	4.2
	女性(n=447)	68.2	42.7	29.5	18.6	21.0	4.7	34.9	1.6	5.4
年齢別	20代以下(n=86)	53.5	53.5	4.7	22.1	34.9	8.1	25.6	1.2	4.7
	30代(n=82)	62.2	52.4	14.6	23.2	41.5	4.9	41.5	-	-
	40代(n=119)	63.0	44.5	23.5	23.5	32.8	5.0	23.5	4.2	1.7
	50代(n=115)	68.7	42.6	28.7	21.7	20.0	3.5	36.5	0.9	2.6
	60代(n=154)	75.3	40.9	43.5	18.8	15.6	6.5	35.7	1.3	3.9
	70代以上(n=245)	75.1	30.2	31.4	18.4	11.4	4.1	42.0	1.6	9.8
中学校区別	東部(n=117)	69.2	36.8	22.2	27.4	18.8	7.7	28.2	1.7	5.1
	南部(n=70)	65.7	38.6	27.1	25.7	25.7	2.9	35.7	1.4	4.3
	中部(n=68)	64.7	51.5	32.4	22.1	16.2	5.9	30.9	2.9	5.9
	西部(n=77)	71.4	46.8	27.3	19.5	16.9	7.8	33.8	-	-
	代田(n=67)	70.1	34.3	34.3	23.9	16.4	1.5	37.3	3.0	1.5
	金屋(n=57)	70.2	36.8	24.6	31.6	22.8	10.5	31.6	-	7.0
	一宮(n=72)	73.6	44.4	26.4	11.1	22.2	5.6	41.7	1.4	4.2
	音羽(n=76)	67.1	31.6	25.0	15.8	23.7	6.6	39.5	1.3	11.8
	御津(n=88)	69.3	44.3	34.1	15.9	34.1	1.1	33.0	-	5.7
	小坂井(n=76)	69.7	40.8	26.3	13.2	25.0	1.3	44.7	2.6	5.3
	わからない(n=34)	58.8	52.9	23.5	20.6	20.6	5.9	38.2	2.9	2.9

問42　あなたの住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。（○は３つまで）

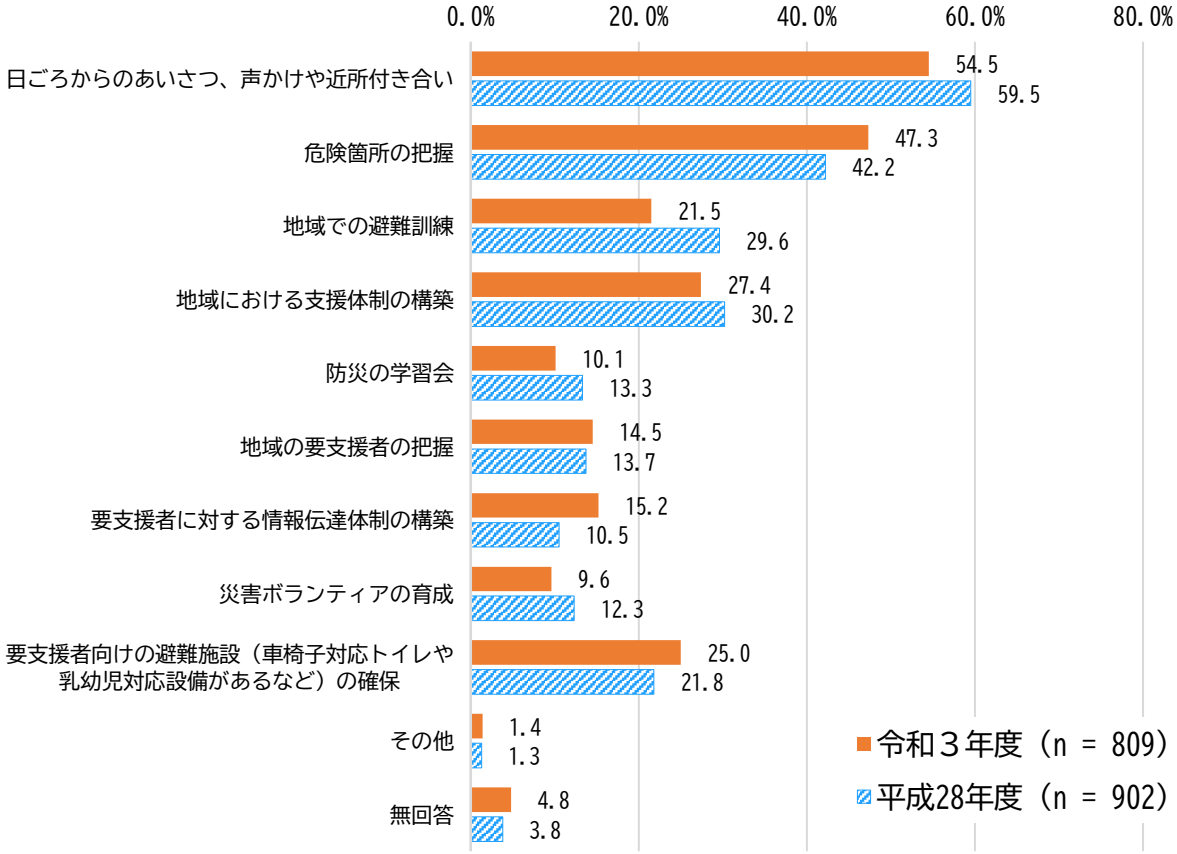
全体では、「日ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「危険箇所の把握」が 47.3%、「地域における支援体制の構築」が 27.4%となっています。災害時の備えとして、地域住民の中で助け合うためのきっかけづくりとして、あいさつや声かけなど何気ない近所付き合いが求められていることがうかがえます。

平成 28 年度調査との比較では、「日ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い」と「地域での避難訓練」の割合が低くなりました。一方で、「危険箇所の把握」の割合が高くなっています。

性別では、女性に比べ、男性で「地域における支援体制の構築」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「要支援者向けの避難施設（車椅子対応トイレや乳幼児対応施設があるなど）の確保」の割合が高くなっています。

年齢別では、40 代で「要支援者に対する情報伝達体制の構築」の割合が高くなっています。

中学校区別では、小坂井中学校区で「地域における支援体制の構築」の割合が、他の中学校区と比べて高くなっています。



区分		日ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い	危険箇所の把握	地域での避難訓練	地域における支援体制の構築	防災の学習会	地域の要支援者の把握	要支援者に対する情報伝達体制の構築	災害ボランティアの育成	要支援者向けの避難施設（車椅子対応トイレや乳幼児対応設備があるなど）の確保	その他	無回答
全体(n=802)		54.2	47.5	21.3	27.4	10.2	14.5	15.2	9.6	25.1	1.4	4.7
性別	男性(n=355)	51.5	47.3	22.3	32.1	10.1	14.9	16.6	7.9	20.6	2.3	4.5
	女性(n=447)	56.4	47.7	20.6	23.7	10.3	14.1	14.1	11.0	28.6	0.7	4.9
年齢別	20代以下(n=86)	38.4	59.3	16.3	24.4	10.5	10.5	9.3	10.5	23.3	2.3	3.5
	30代(n=82)	51.2	65.9	24.4	29.3	8.5	4.9	14.6	11.0	30.5	1.2	-
	40代(n=119)	43.7	46.2	21.0	30.3	10.1	16.8	23.5	11.8	26.1	2.5	1.7
	50代(n=115)	49.6	58.3	16.5	32.2	13.9	11.3	16.5	8.7	26.1	1.7	2.6
	60代(n=154)	61.0	42.2	26.0	29.9	10.4	14.3	13.6	10.4	27.9	1.9	3.9
	70代以上(n=245)	63.7	36.3	21.2	22.9	9.0	20.0	13.9	7.8	21.2	-	9.8
中学校区別	東部(n=117)	57.3	47.0	11.1	28.2	11.1	10.3	10.3	12.0	21.4	1.7	6.0
	南部(n=70)	60.0	42.9	25.7	28.6	5.7	20.0	20.0	8.6	21.4	1.4	4.3
	中部(n=68)	47.1	51.5	22.1	19.1	7.4	17.6	16.2	13.2	32.4	-	5.9
	西部(n=77)	55.8	50.6	27.3	20.8	13.0	15.6	15.6	3.9	26.0	2.6	-
	代田(n=67)	58.2	41.8	13.4	14.9	11.9	19.4	19.4	9.0	26.9	1.5	4.5
	金屋(n=57)	61.4	33.3	28.1	26.3	14.0	14.0	17.5	14.0	24.6	1.8	7.0
	一宮(n=72)	62.5	51.4	15.3	20.8	8.3	16.7	12.5	8.3	29.2	1.4	1.4
	音羽(n=76)	46.1	44.7	23.7	34.2	6.6	15.8	15.8	10.5	25.0	1.3	9.2
	御津(n=88)	50.0	53.4	21.6	29.5	12.5	10.2	13.6	8.0	26.1	-	5.7
	小坂井(n=76)	51.3	51.3	28.9	42.1	9.2	13.2	9.2	7.9	21.1	1.3	5.3
	わからない(n=34)	41.2	52.9	23.5	41.2	11.8	8.8	29.4	11.8	23.5	2.9	2.9

第３章　自由意見

問43　地域での支え合い、福祉のまちづくりに関して思うこと、これから「こうしたらいい」、「こうあったらいい」と思うことがありましたら、ご自由にお書きください。

1　福祉観

人それぞれで福祉というものは自分の立場、相手の立場、実際に本当に困った時が必要であって必要でない時に相談にこられても他人迷惑という事でそこらへんが大変難しい。かまってもらいたい時に人はいない。というのが現状ではないかな？
（御津南部地区・男性・70 歳以上）

自分の周りしかわかりませんが、空き地が多く空き家も多く年寄りの町内です。
一人二人の生活です。若い世代が入って子供が生まれ育って近所で見守りながら生活する自分が若かりし頃はそうだったようになればとても嬉しい事です。
気軽に運動体操の出来る場が有ればいいな！近場で少ない人数で！
コロナ禍でもあり町内の方とも会って会話も無いのでそれぞれ福祉の事等考え方はわかりません。とにかく町内が活気が無いと思います。若い方が来てほしいと思います。（桜木地区・女性・70 歳以上）

税金を福祉のためにしっかりと使ってほしい。市議やその他要職の報酬の削減、見える化でどの程度福祉に使われるかをクリアにした方が良い。（一宮西部地区・男性・30 歳代）

年寄りに対する福祉に片寄り過ぎている。子供を育てるのに負担を感じさせないようにすることが最優先されるべきと考える。（御津南部地区・男性・50 歳代）

何事も平等であってほしい。（御油地区・女性・50 歳代）

人によって福祉への思いの大きさが違うので、住民スタートではなく、学習会やりませんか。防犯のことを考える日ですよ、みたいな呼びかけを行政からしてほしいです。ホームページに一文でいいんです。きっかけがあれば、動きやすくなると思います。
我が家にはぱっと見では分からない障害児がいます。何だか今は何も考えられない状態です。ごめんなさい。（小坂井西地区・女性・40 歳代）

・常に人としての考え方
・見て見ぬふりをしない事（豊川地区・女性・70 歳以上）

・地域支援場所はかた苦しくなく、どなたでも気楽に参加できる場所としたい。
・厳格すぎる場所には人が集結しない。学歴、思想、身分の差に関係なく、福祉は平等に実施する。（御油地区・男性・70 歳以上）

福祉関係の仕事をやっている方に国から沢山給料をあげて下さい。そうじゃないと若者は辞めてしまいます。（豊川地区・女性・20 歳代）

地域福祉推進、今後共地域での支え合い、福祉のまちづくり頑張ってください。よろしくお願い致します。（一宮西部地区・女性・70 歳以上）

商工会等を通じて地元企業と連携しながら福祉に関するイベント等あれば良いと思います。（豊川地区・男性・20 歳代）

１つ目、人々が抱える課題の深刻度と普遍度は比例しないと思います。個人的には深刻な方から解決すべきだと思いますが、このアンケートでは反映されない気がします。
２つ目、自発的でない、他人に強制された“支え合い”は新たな不幸を生むだけだと思います。
３つ目、よく街内をゴミ袋持って歩いている人とかいます。そういった人って活動を公言している人もいれば、そうじゃない人もいます。世の中には特に人から褒められずともボランティア活動まがいのことをやっている人が結構いるとおもっています。そういった人の行動原理を調べてみたらボランティア活動をする人を増やすためのヒントを得られるのではないでしょうか？
４つ目、課題を抱える当事者とそれ以外の第三者では認識に大きなズレがあると思っています。人間はある種の潔癖症みたいなものをみな持っていて、少しでも汚れた部分を見つけるときれいにしようとする。なぜかそれは目に入ってしまったその汚れが嫌で仕方ないからだ。このアンケートに書かれているような“課題”は第三者から見た“課題”であって、それはまるで潔癖症からみた“汚れ”のように扱われていると思う。当事者からしたら、その“課題”というのは自分のおかれた環境とか状態とか生き様をいったものでしかないからだ。汚れがなくなればＯＫなのだろうか？もちろんない方がいいだろう。だが本質的な問題はそこでは無いと思う。
５つ目、支え合いとは言いますが、基本的には支える側と支えられる側に別れるでしょう。同じ人がもし支える側ばかりをやっていたら、必ずつぶれますから、配慮する必要があります。（赤坂地区・男性・20 歳代）

2　近所付き合い

近所でも知らない方が多く、知らないふりをされる。人数は多いがつながりがない、暮らしやすい地域だが楽しみのある地域ではない、基礎となるのは人間関係だが多くの人はそれを求めていない。もの足りなさがある。（小坂井西地区・男性・60 歳代）

近所付き合い、親類との付き合いは、コロナで疎遠になってきたが、半面一人での生活がうまくいっているので、自由に感じている。現状は地域での支え合いを特に必要としていない。色々な福祉が実施されているが、受ける側に甘えが見られ、要求のエスカレート化が危惧される。過剰な福祉と過剰な個人情報保護をどのようにしたら良いか個人では意見を持ち合わせていない。（中部地区・男性・70 歳以上）

近所の住民と交流する人もいるが、一部ルールを守らないで生活している人もいるので、そのような人とは関わりたくない。野焼きや他人に迷惑行為をしている。そんな人に対して役所の人は見て見ぬふりをしている。デスクワークばかりしてないで、町内を見てまわってほしい。犯罪者の人の近くに住んでいるだけで変な目で見られたりする。
（まとめ）まじめにルールを守り、生活している人とそうでない人に対して、役所の方々は何を見ているのですか。（御津南部地区・男性・30 歳代）

近所で飼い猫やのら猫に悩まされている。相談したが取り合ってもらえないまま。近所とのつきあいがうまくいかない。市役所でなんとかしてほしい。せめて飼い猫を外へ出さないという事を役所の方から伝えてほしい。（中部地区・女性・50 歳代）

前と違って町内でのお付き合いが少なくなってきたのが淋しいです。
（地区不明・女性・70 歳以上）

私が結婚してこの地区に住むようになった 30 年ほど前は、小中学生が知らない人にもあいさつをしてくれてびっくりし、とても良い習慣だと感心したものです。しかし子どもが巻き込まれる犯罪の多発とともに子どもたちはあいさつをしなくなり、大人と目を合わせることもなくなりました。これは防犯上、必要なことだとして、学校や家庭で「知らない人には声をかけない、かけられたら逃げな」との指導があったのだろうと感じました。でもあいさつもできない大人になっては本人たちが困ることになると思うとともに地域はコミュニケーションがとれず、隣の人の動向もわからないという状態です。これではいざという時に助け合うこともできません。
以前、他の県で「あいさつの活発な地区では泥棒も逃げて行く」という話が出ていました。地区の交流があれば、知らない人もわかりやすいと思います。そんな人にも大きな声で「こんにちは！」等のあいさつをすれば、びっくりして悪い人なら退散するかもしれません。防犯に努めながらも地域のコミュニケーションを大切にする。そのためには子どもの頃からのあいさつ、声かけ運動を地道に続けていけばよりよい社会になるのではないでしょうか。そのためにはまず大人から実践していけたら良いと思います。（御津南部地区・女性・50 歳代）

現在住んでいる所に 30 年以上おりますが、お話をした人、あいさつをした人はほとんどいません！お顔を見ない人が多くいます。自分は（現在 75 歳）この先どうなるんだろうと思う事が多くなりました。地域での支え合い、難しいと思います。自分では考えがつかないですが、案を出してくだされば と思います。（小坂井西地区・女性・70 歳以上）

まだ自分は元気で仕事をする事が出来るのであまり深く考えた事がありません。少しでも長く田畑仕事が出来る様に心がけたいです。コロナのせいかもしれませんが、近所づきあいも昔を思うと冷たくなった様に思います。
（答えにはなってないかもしれません）（国府地区・女性・70 歳以上）

有難いことに豊川は人口減少問題が大きく取り上げられることは、現時点ではない。私が住んでいる市田町内、自宅周辺はここ数年日中仕事をしているので、新しくお見えになった方々との交流がなく、まずは近所の付き合いで顔見知りの関係をつくることが優先であると思っている。（八南地区・男性・60 歳代）

60 代の夫婦にバーベキューをしていて、2 回目のバーベキューでどなられたことがありました。謝罪をし、あれから 4 年一度もしていません。
今年に入って、今度は子どもの声に「うるさい！」と言われたことがありました。
若者の行動が理解できない等受け入れられない 50 代 60 代 70 代～は多いと思いますが、自らも若い頃はあったわけで、若い人が地域に入って来ることを喜んでもらわなくては地域の活性化につながらないと思う。（バーベキューの件で謝罪に伺った際、以前はおばあちゃんが 1 人で暮らしていた土地に新しく家が建ったので（わがやです）以前と違う環境にとまどっている。と話していた。あとは、男の子の孫がいないから・・・等のひがみであることがわかった。）
近所にどのような人が住んでいるのかもしっかりリサーチした上で家を建てればよかったと後悔している。（御津南部地区・男性・30 歳代）

３　町内会

町内会の組の人数が少ないため、あまり加入する気になれません。お役が２、３年に１度まわってくるのは負担が大き過ぎて子供がちいさい頃子供会に加入したかったのですが、あきらめました。地域と良い関係が築ければとは思いますが、加入せずに生活しているうちにその考えも薄れてきました。もう少し気軽に地域と関わる事が出来る制度を望みます。（東部地区・女性・40 歳代）

町内会の組ごとの人数が違いすぎて、人数の少ない組ではとても運営することができません。私の住んでいる地域では組が５世帯ほどで成り立っていた上、高齢の方も多かったので、組長などの役員がすぐに回ってきてしまい、組全体で町内会から抜けるしかありませんでした。また、町内会に入っている人のほうが町内会費を払っているのに、ゴミ当番や公園の清掃など負担が多く、入っている事にメリットを感じないです。このままだと町内会に入っている人が減っていくと思います。（豊地区・女性・10 歳代）

地域の方とのコミュニケーションが大事だと思っていても、町内会に入会しない人が何軒もあり、顔も名前もわからなくてお付き合いができません。住民票の届出はするのでしょうが、市役所では町内会の入会についてどのように説明されているのでしょうか？回覧板で知らせる”という項目がアンケートの中にありましたが、町内会に入会していなければ、回覧板もまわりません。ゴミの捨て方も正しく分別できておらず、親しいお付き合いは難しいと思われます。地域での支え合いが重要であるとお考えならば、まず町内会への入会が必要ではないでしょうか。（豊地区・女性・60 歳代）

地域の防犯、福祉、ボランティア、災害への備え等、町内会を通して行われている事が多いが、町内会に不参加の家庭もあるので、町内会任せにしないで、市が直接市民に働きかけるような手段も考える必要があると思います。今はどうか分かりませんが、市の広報、ゴミの出し方のパンフレットは町内会に入っている家庭には町内で配られますが、そうでない家庭（独身者も）は自分で市役所にもらいに行かなくてはならないようでした。これでは市の方針も考え方も市民全体には伝わらないように思います。（現在は全市民に届くようになっているならすいません）どの家庭も、町内会に入っていただくのが理想だと思いますが、なかなかそういかない所もあるので、町内会の入会の有無が市民としての生活のし易さにできるだけ影響を及ぼさないようにしていただけたらと思います。（桜木地区・女性・60 歳代）

地域での支え合いをして特に町内会での集まる機会を多くして会話と運動の場をもうけ心と心が一つになるようにする。ようするに助け合いをする機会をもうける。（東部地区・男性・70 歳以上）

町内会に入っていない世帯が多いので、地域を良くしようとしても難しい面があると感じている。（小坂井西地区・男性・50 歳代）

形だけの町内会は止めた方がいい。町内会と宗教は本当に必要だと思う人だけ入ればいい。今の若い人は町内会に入らなくても、目の前に困っている人を見かけたら、助けてくれます。当たり前のように。町内会で役員を付けられた人は、仕事をして、大切な体を休める時間を奪われることになり、結果家庭内が乱れることになるからです。人は疲れたり、逃げ場がなかったりすると人に優しくできません。家庭内が乱れるという事は地域の人に優しくする気持ちもなくなり、支え合う気持ちもなくなってしまいます。
戦後の様な人々の温かい地域の支え合いは無理なのです。戦争で多くの犠牲者を出した日本は平和を求めて人々は傷つきながらも働き支え合ってきました。今の 80 代 90 代に人々は深く感謝しております。戦争を体験した方は心の支えとして宗教を大切に思っています。そして戦争を体験してない世代はインターネットで世界とつながり、自分の足でしっかり生きていこうという気持ちの方もいます。視野を広げ、町内会というせまい中で生きるのは難しいと思います。8050 問題もたくさん書きたかったです。しがないいち豊川市民ですが、豊川市が少しでも今より潤った市になりますよう心から願っております。（平尾地区・男性・50 歳代）

町内会の役員等について、やりたくない人は私も含め多い。少子高齢化や共働きの環境変化もあるためボランティアではなく、委託をして個人の負担や後任探しの負荷をなくしてほしい。また、やれない人ややらない人が差別されないよう委託（外注）してほしい。学校のＰＴＡも同じ。（小坂井西地区・男性・50 歳代）

民間団体がなぜ町内会から半強制的に集金活動しているのか？役所はなぜそれを認めているのか？赤い羽根もしかり。慈善、ボランティアの名をかりた集金行為はやめさせよ。そこに福祉などない。（萩地区・男性・50 歳代）

町内会での行事に積極的にひとりでも多く参加できる様な行事内容にすること（工夫して）（一宮東部地区・男性・70 歳以上）

町内会加入率を高めたい・・・未加入者は生活に不便を感じてないじゃないかと思う。不便を感じる制度が必要かと。例えばごみ出しを町外に設置するとか。（御油地区・男性・70 歳以上）

高齢者が増えています。若者や子どもが減っています。オンラインでの地区の会議ができるだけ環境が整うと良いです。（八南地区・女性・50 歳代）

４　地域交流・地域活動

地域でのコミュニケーションの取り組む雰囲気が無いので、地域一体となれるような行事などやってほしい。
◎無駄な行事、回覧板が多すぎる。
◎神社等の宗教的寄付は無くすこと、特に御用神社等は地域で回って集めにくる。宗教の自由又政教に違反している！！地域で集める事自体してはいけないと思う。（御津南部地区・男性・60 歳代）

福祉の意味は理解できているが、自分を含め地域住民が直接活動できる機会を提供する場が必要であると思う。よって、実践活動ができる場を市、町内で取り組んで欲しい。（三蔵子地区・男性・70 歳以上）

困った事があった時、すぐにかけつけられる人がいる事が重要。そのために近所付き合いをある程度していた方が助け合える。
気軽に集って、おしゃべりできる時間を定期的に行えたらいいなと思います。
市民館を有効に利用できたらと思います。（平尾地区・女性・50 歳代）

福祉に対する地域活動、内容等が私を含めあまり知られていない。（萩地区・男性・60 歳代）

①行政に頼るのは、困難な社会になっていく（人的、財政的、人の交流等）
②地域で支え合う環境の整備（人の交流、過剰な情報管理）
③自力で努力する環境（健康管理その上でセーフティネットを充実させる）
④本当に困ったときに支援できる組織（人材育成、窓口充実）
頑張って下さい。（金屋地区・男性・70 歳以上）

・町内の行事について
普段ほとんど関わることのないお宮の草刈りや、農家さんではない家庭も参加しなければならない溝掃除が主な町内の行事で、毎回憂鬱です。せっかく、近年子育て世帯が増え、子どもたちが増えたのに、他の地域で行っているような夏祭り等の行事もなく、主にお年寄り、農家さん中心なのは非常に残念。子どもが多い地域では盆踊りや秋のお祭りも子ども向け仕様になっている若い人が住みたいと思える地域でないと、将来先細りになってしまうと思います。
・野焼きのない地域になったらいい。もしくは日を決めるなどしてほしい。洗濯物にニオイがついて困っています。（東部地区・女性・30 歳代）

教員をしています。朝早くから帰宅が 20 時を超え、土日は部活指導や勤務先の地域の活動に参加するため、自宅のある地域の活動になかなか参加できない状況にあります。働き方改革の取組が進み、住む地域に根ざした生活が実現できるとよいと思っています。（御油地区・男性・50 歳代）

人との繋がりは本当に大事で大きな力になるので、イベントや祭りなどの交流を行って大人から子どもまで色んな所で人の繋がりを作ってくれたら良いなと思うので、イベントや祭りなどの交流の場を増やしたら良いと思います。（一宮西部地区・男性・20 歳代）

町民運動会が開催されなくてよかったです。コロナのおかげで無駄な時間を使わずに済みました。（御油地区・女性・50 歳代）

新型コロナ感染拡大により、地域の祭りや子育てサロン、行政の行事などが次々と中止になりましたが、収束した時に以前の様に行事を行えるのか心配。というのも、現在は人が関わり合う機会が極端に減り、人と関わる事が面倒だと思う人々もいるはず。また、行事を行う側の中でもそう考えている人もいると思う。自分も少々。とにかく人と関わることが大切だと思うので収束した後は、行政側から健康づくりなどどんなジャンルでもいいので各地域でイベントを開催していただけたりすると良いのではなかろうかと思いますが。（地区不明・性別不明・70 歳以上）

地域での〇〇役員とか〇〇委員等のなり手がなかなか見当たらないのではないでしょうか。私の神社の総代もなり手があまりいません。主たる仕事があると従となる役職量が大きく多くなると両立出来なくなり、結果なり手がいなくなります。支え合い、福祉は広く（多く）浅く（負担小）でなくてはなり手がいないのではないかと思います。私の総代も９名でやってますが、月２回以上は用事があり、何故９名なのかと思います。倍の総代があれば、月１回で用事が済みます。
責任、負担を小さく少なくすれば何事も参加しやすいのではとつくづく思っています。
参加出来る月、時、用事に参加してもらう。そのために多くの人の確保をして、責任と負担を減らし、参加しやすい環境を作ればと思います。（八南地区・女性・30 歳代）

コロナ禍の中、コミュニケーションも減っている世の中で悩みや不安を抱えている人が１人でも減って、楽しい世の中に少しずつなっていくためにも地域での支え合い、福祉のまちづくりは大切なことだと強く感じました。何か自分にもできることがあれば、積極的に取り組みたいなと思いました。今回このアンケートに選ばれて良かったと思います。（豊川地区・男性・20 歳代）

地域での支え合いはプライバシーがあり、難しいと思う。（一宮西部地区・女性・60 歳代）

地域の活動は時間に余裕のある高齢の方が携わられているイメージで、興味はあっても参加するにはハードルが高い。（活動時間はおそらく平日の昼間が多いと思いますし、土日であったとしても個人のプライベートの時間も大切にしたいため、参加機会がない）これが若者が地域福祉活動に参加しない理由なのかと思います。
若者世代にメリットを感じさせる事業などがあったらいいなと思います。
（代田地区・女性・30 歳代）

5　ボランティア

ボランティア参加したいと思ってましたが、思いもよらぬ腰痛になり色々思案しているところ他者に迷惑をかけぬよう暮らすことが第一となり残念に思ってます。出来るよう参加したいです。マンション住まいで若い方ばかりで普通の暮らしとは違っているので皆さんに合わせて暮らすのが第一のよう。
管理会社、管理組合（マンション）も有り今はこれで良いのかと思ってます。（中部地区・女性・70 歳以上）

現在は夫婦２人、猫３匹との暮らしで、特に困っていることもありませんが、このアンケートで地域福祉にいろんな支援が必要な項目があることも知りました。今はまだ仕事がいそがしくて、ボランティア活動を考える余裕がありませんが、年齢による定年を迎え時間に余裕ができたら、夫と少しずつ地域の為にできることをやっていきたいと思います。
夫はすでに定年を迎え、町内の為にボランティア活動を行っております。又、猫も飼っていてペットは大切な家族です。こちらの福祉課様とは関係ないと思いますが、災害時の家猫や地域猫、他のペットを飼っておられる方のことも心配です。人、動物への虐待のない豊川市でこれからも暮らしたいと思っています。（八南地区・女性・60 歳代）

家の近くの道路も工事が始まり、道もとても大きくなるにつれて、歩道橋などができるという話も聞きます。それに伴い小学生などが通学する道でもあるので安全面を考えると不安もあるので、ボランティアの方がつきそいをしてくださると、大変助かります。
私も日中、仕事で家にいないので、子供の安全をとても心配しているので、地域の方のボランティアの方が今も一緒に家の近くまで来てくださるので、ありがたいです。
また道路を大きくする工事の際に、子供達が安心してその道を通れるように、工事の方たちも誘導してくださり、とても助かりました。（豊川地区・女性・30 歳代）

ボランティア活動が充実して、地域住民の支えになってもらえる事。地域で地域住民を支え合った暮らしが出来る事をのぞむ。そのためにも信頼出来るボランティア人材を育ててもらえる教育の場をのぞみます。
地域での町おこし：我が町内は〇〇が自慢等、町内で頑張る事や自慢出来る事をかかげて町内おこしに取り組む事も、個々のやりがいや達成感につながって活気ある地域となるのではないでしょうか。（一宮南部地区・女性・60 歳代）

今後高齢化、高齢者のみ世帯の増加に伴い、福祉サービスの充実をお願いしたい。既にいろいろなサービスがあるのかもしれないが対象者への周知できていないと思うので、サービス内容を学ぶ機会があると良い。全てを行政に頼れないので、近所、地域で見守る体制の構築が必要と感じます。地域でサービスを支援、ボランティアをしていただける方が多少なりともメリットがあると良い。そのためのレベルを確保するための認定制度や学ぶ機会があると良い。（平尾地区・男性・40 歳代）

豊川市での福祉には満足しています。現在、主人は金屋小学校の子供見守りのボランティアをしてますし、皆親切です。老人会も入会し、充実しています。（金屋地区・女性・70 歳以上）

小学生や中学生のころから、ボランティア活動に参加して、福祉の必要性を学んでもらうことが大事だと思います。幼いころに学んだことは大人になっても忘れることなく実行できるのではないでしょうか。（長沢地区・男性・60 歳代）

6　民生委員

民生委員を増やし、地域の見守り体制を強化する。（平尾地区・女性・20 歳代）

御油町に居住する一人暮らしの弟が心配です。民生委員の定期訪問を希望しています（制度の作成）（八南地区・女性・70 歳以上）
高齢者のみの家庭（特に独り暮らし）が増えてきている為、民生委員の方が訪問等の回数を多くし、相談にのる。（御津南部地区・女性・60 歳代）

7　相談

市役所の相談窓口がオープンすぎて、ほかの知り合いに見られたくないので、もう少し秘密が守られる感じなら相談できるかもしれません。（中部地区・女性・40 歳代）

毎日を一生懸命私なりに生きておりますが、足が一番弱く歩けなくなったらどこかにお世話になりたいと思っておりますが、バッタリと動けなくなった時を思うとすぐに入所出来るか心配です。前もって申し込みをしておいた方が良いものか悩むこの頃です。（御津北部地区・女性・70 歳以上）

あぶないと思う場所があっても、どこに伝えたら考えてもらえるのか。伝える窓口があるといいな。（御津南部地区・女性・40 歳代）

こうしたアンケートがただの資料としてファイルされて良しにならぬように、より良い社会作りに活用される事を祈ります。1 人 1 人の困り事は大多数の中では、「グチ」と思われがちだがグチを建設的に見直す事で生きやすいまちづくりにつながると思います。
住民 1 人 1 人のグチをていねいにひろい集めて対策を考えていける各種相談窓口に誰もが利用しやすくわかりやすい位置づくりを積極的に行って欲しいと思います。どこに窓口があるかわかりやすく広報して下さい。（小坂井東地区・女性・60 歳代）

市の相談窓口には行きづらい人の為に、気軽に行ける場所に窓口を設置。（小坂井西地区・男性・40 歳代）

独居や高齢者だけの生活や赤ちゃんと２人で暮らしている人達が増えている中で急病になった場合、なかなか受診ができない。高齢者なら往診してくれるが、シングルマザーの人には、往診が頼めない。受診できない。そういう場合どうしたら良いのか？相談するところをもっと知らせてあげてほしい。（八南地区・男性・50 歳代）

嫁いだ先の夫の両親の代から続いているご近所トラブル（境界線や下水問題）をご近所が私一人に責めてくるが、私自身から義父母に伝えても双方が被害者意識を抱えていて話し合いをしてくれない。夫は何もしない。
親の代からの家で下水工事をしていない箇所があり、汚水が畑かんに流れていて、嫁の私がクレームの標的となっており、家に居づらい。こういうことを気楽に相談して解決してくれる人がいてほしい。（御津南部地区・女性・40 歳代）

いまだにアナログな事をやっているなと思うので、まずそこを見直したら良いと思う。弱者を救済しようとしている割に結局何かしらこちらが動かないといけない状況が多すぎる。
相談できる場所があるのは知っていても、なかなかそこに行こうという勇気が出る人は少ない。そもそもそんな行動力があるなら、相談しない。気持ちに余裕がないから、勇気がもてないから、面倒くさいから・・・色んな理由はあるけど、行政がずっと受け身である以上、今以上に人が動く事は難しい。（金屋地区・女性・30 歳代）

市役所等に相談する時、担当になった人によって、良くも悪くもなると思う。相談を受ける人が、知識や人に対する態度などで、しっかりしたプロフェッショナルになる必要が有ると思う。（地区不明・男性・50 歳代）

オンライン化、電子化を進めていくことで、相談（解決策）、足がなくても解決できる（書類手続）、在宅で診療できる。（八南地区・女性・50 歳代）

８　高齢者ニーズ

高齢ドライバーが免許返納をしても移動に困らない安心して生活ができる手段の構築。理由は 82 歳の母はバス停まで歩いていくことも大変になりました。横断歩道を渡り切らないうちに信号が変わってしまうと心配していました。タクシー代は費用面で選択できず毎日リハビリに行きたくても無理となり結果益々歩行困難となり、出かける事が少なくなり楽しみも減ってしまいました。私はフルタイムで働いており、仕事の休みの日に一緒に出かけましたが、今思えば病状の軽い時期から治療にしっかり時間をかける事ができれば良かったと悔やまれます。（御油地区・女性・60 歳代）

お年寄りへの声かけで何か手助けできることがあるかも・・・
認知症の人で一人住まいなど地域で共有していった方がよいのでは・・・
市全体で考えていった方がよいのではないでしょうか。（東部地区・女性・70 歳以上）

高齢者支援サービスが少なく思います。もっと多くの内容をサービスし住みやすい地域にして下さい。（桜木地区・男性・70 歳以上）

義母が遠方で一人暮らしをしていますが、年に２、３回愛知県に連れて来ています。
そうした時に、どこか施設に行ける（デイサービス）とかあると助かります。（千両地区・男性・60 歳代）

家族の介護で仕事を休まなければいけない。（通院等も含め）介護用品の購入も必要で、クーポンがあっても経済的な負担が大きいと聞く事があった。（小坂井東地区・男性・40 歳代）

核家族時代になり、子供や親族等に将来頼れないと思っている住民が大半です。そこで以下の問題で、高齢者又は高齢者を抱える家族が悩んでいます。
①高齢者施設はどこも満室で個人では空き部屋を探すのに大変苦労してます。そこで市役所に相談窓口があると助かります。
②将来家族に負担をかけたくない。皆さん共通の課題であるお墓の問題です。
市で合祀型墓苑を造る計画を立て、安心して住める町を売りに、人口増を図る。（御津北部地区・男性・70 歳以上）

高齢者の見守りをお願いします。私も 74 歳になり、これからが心配です。足が悪いから買物は宅配をお願いしています。自転車も乗れなくなった為。（天王地区・女性・70 歳以上）

御油長谷山は若い人が少なく老人ばかりです。（御油地区・女性・70 歳以上）

元気の良い高齢者は進んで地域の為に何かできる事をやろうとする事が大切であると思う。お互い助け合うという気持ちが良い地域を作ると思う。コロナの為、多くの活動が休止され特に高齢者の集まりが少なくなっている。早く再開され多くの人が楽しみを持てる日常になって欲しい。（代田地区・女性・60 歳代）

御油の中でも最も高齢化が進んでいると聞いています。我が家の周りもお年寄りだけの世帯が多く、何年後には空き家が増えていくのではと心配しています。自治会活動も衰えていくだろうと思われますし、住民も少なくなっていくだろうと思われます。町がどうなってしまうのだろうと不安に思っています。（御油地区・女性・50 歳代）

自分達が高齢者になって、老々介護の現実を、病院に出かけ人生の先輩達が車椅子をどちらかが押していたり、どちらが手を引いたりと見ていて辛くなるような気持ちになりました。病院のパスポートを持ってあちこちと回られていました。後、数年で自分達もいずれはなるのかもと思いました。（近くに子供達がいる人は病院でも買物でも一緒に行かれる人達は幸せですね。）だから、この様な方々にもう少し手伝いが出来ると助かると思いますね。（赤坂地区・女性・60 歳代）

散髪も楽しみの一つですが、在宅介護でないとサービス券が使えず残念です。介護用品は全て現金で求めています。（御津南部地区・男性・70 歳以上）

高齢者の健康（医療）、生活（法律的なこと）介護等気軽に電話相談できるシステム
できればフリーダイヤルの設置を希望。（八南地区・男性・70 歳以上）

◎近年交通事故（高齢者）が多発しまきぞえを受ける人が増えています。高齢者の免許返納を含む対策が必要です。
※私の親族の市町村では 75 歳以上の人がタクシー半額、免許返納者にはそれ以上の割引があります。市内全域、どんな理由でも利用可能です。利用回数も制限ありません。（おでかけタクシー）の名称でよばれています。（愛知県稲沢市）役所で手続きさえしておけば利用できます。タクシーを降りる際、半額の料金を支払、あとの半分は役所がタクシー会社に支払います。
※高齢者の健康、外出による交流促進につながる。
◎私は現在生涯学習センターでサークル活動に参加してます。しかし足腰が不自由、免許返納等の為、参加する友人達が日に日にやめていきます。心配します。認知症等発症する可能性もあります。（健康保険）（介護保険）市町村の経費増加にもつながります！！早く学習センターの改築をお願いします。生涯学習で健康維持を希望しています。（牛久保地区・女性・70 歳以上）

年金手取り９万弱です。家賃４万です。生活苦です。病院通いもするし年金はどんどん減るし大変です。84 歳です。一人暮らしです。今は骨折して痛いです。（中部地区・女性・70 歳以上）

地域における認知症の方に対する理解を家の人、地域の人が共有できて、少しでも手助けできる環境ができていけたらと思います。（御津南部地区・女性・60 歳代）

私を含め町内、組など高齢者が多いです。独居老人が多いです。又、高齢家庭が多いため、緊急連絡者と組内で各家との連絡先表を作り組の人全員が表を所有して近所でその家族などに連絡が取れる様に10数年前に作りました。
それにより変化に気づいた近所の人がいち早く知らせる事が出来ると・・・。
組内の人だけが（信頼関係の元に）できてます。
子供達が独立してそれぞれ他の土地に暮らしているので今は携帯番号を記入しています。
まだその連絡を使う必要に至った事はない様ですが。
緊急時はまずは近所が大事と思います。（代田地区・女性・70歳以上）

難しい。余裕のある（時間、金銭的）高齢者が先達として、率先模範して若者を導く事。
人は人を見て育つもの。人として立派な人が身近に増えれば、後身が育ってくるが、今の現実は個人主義に走りすぎていて各個人が自分でやるしかない状態では。（金屋地区・男性・40歳代）

日本は余裕が無い人が多すぎる。支え合いとか言ってもプライバシーとかもあるから、参加したい人を参加させる感じが今の時代には合ってるんじゃないのかな？って思う。
全て自分次第。何がきっかけで殺されるかも分からないし、なるべく沢山の人と絡むという事はさけたいと思う。本当に恐い世の中なので。（代田地区・女性・40歳代）

高齢者が７割の小さな町内。町内を維持する事も大変。毎年、役員を決めるだけで四苦八苦。（国府地区・女性・60歳代）

父親の介護・・・父親が7年前に亡くなったんですが、そのころは老人ホームが少なく、有料老人ホームに入ったんです。父親が老人うつになったら、施設長に突然“出ていってくれ”と言われ本当にショックで今でもその時の事を思い出すと悲しみと怒りがこみあげる。もっと言いようがあると思った。それ以来施設長は出てこず、ケアマネジャーが対応し、施設を出された。もう年を取ったら早く死ななければならない。特養などを見ていると死を待つ場所としか思えない。10人のフロアを１人で食事介助をやっているのですから・・・これからは老人がふえてもっと環境が悪くなりそう。どうにもならない！どうにかしてくれますか？長生きなんかしたら大変です。
※有料老人ホームは厄介な人は追出すお金もうけ主義の所ですね！（小坂井東地区・女性・60歳代）

・高齢者になるといくつもの病気をかかえております。条件なしに福祉施設に入所出来る様になることを願っております。これからは単身世帯や老々介護の世帯が増えてくることが予想されます。訪問介護や介護のみでは不十分な場合も出来てくる事が考えられます。（八南地区・男性・70歳以上）

元気、意欲のある高齢者の方の更なる活躍（見守り隊など）。子供と高齢者の触れ合える機会を増やす（保育園、学校と養護施設の交流会）（三蔵子地区・男性・40歳代）

高齢者に対して優しい見守りと声かけ、健康で過ごせる様に地域や市で手助け出来る環境にしてほしいです。（天王地区・女性・60 歳代）

地区ごとに数名の見回り委員（市から任命）を置き、高齢者・支援が必要と思われる家庭を順々に訪問し、日々の変化をチェック。貧困や体が不自由など高齢者の孤独死を未然に防ぐ。（小坂井西地区・男性・40 歳代）

クロスモール、ナナガーデンの周りの金、土日の暴走や音の取り締まりして安全に暮らせるようにしてほしいです。若者も集まりが多くなり大きな声も聞こえてきます。安全に楽しく暮らせる様に若者もマナー良く過ごせる地域になって高齢者に優しい地域になる様、願っています。（天王地区・女性・60 歳代）

9　子育てニーズ

児童館+公園+駐車場+区民館の整備が整った建物を御津南部地区に、1ヶ所作ってほしい。子どもの遊び場、高齢者の集まる場所、駐車場、広い土地があるので、有効活用していただきたいです。
例）すくっと、小坂井地区の整備された所など
何年も前から記入しています。なにとぞお願いします。（御津南部地区・女性・30歳代）

豊川市民全員が幸福である為には、子供の貧困で三度三度の御飯が食べれないとか母子家庭の問題や父子家庭の問題です！その人達が少しでも心配の無い生活が送れますように。
私自身が子育ての時、高校生、大学生の時、共働きしても、子供の学費とか寮の費用とかで本当に大変でした。人それぞれでしょうが・・・
老後の問題ですが、老人がすべて潤った生活をしている訳ではなく、生活に困っていない人はごく一部です。ほとんどの老人は二ヶ月を苦しい生活を強いられています。老人の人達は子供や孫に迷惑を掛けたくないという思いで一生懸命生きています。二ヶ月本当に大変です。いっぱいに生きています！年金生活者です！（天王地区・女性・70歳以上）

長沢小学校区に住んでいますが、グリーンヒルの公園しかなく、小さい子を連れて歩いていける公園がありません。新しい家も少しずつ増えているので、公園が欲しいです。長沢小学校の生徒も集まる場所が必要だと思います。長沢保育園の跡地などを有効活用してほしいです。（長沢地区・女性・30歳代）

市の中で加配保育を行っている幼稚園は1つしかないので、加配が必要な子の母はそこの加配保育に入れなければ保育園を探さなければいけないが、その時母は働けない理由がある場合、保育園も難しい場合がある。もう少し加配保育をしている幼稚園を増やせないかと思います。（国府地区・女性・30歳代）

長期的視点における未来の経済のためにも、子育て支援を厚くして欲しい。（豊地区・男性・30歳代）

第二次世界大戦で爆弾をつんだ体当たりの特攻隊の若い青年は、亡くなる前に表向きは「天皇陛下ばんざい」と言っていても全員本心は生みの母親の事を考えていた実話があります。
つまり人は心に温かい家庭と優しい母の心の支えの土台が一番大切だと思います。
仕事をしている家庭に町内会、宗教という、半強制的なものをなくしてほしいと思います。
ＰＴＡも役員をしている親は子供をひとりにする可能性があるのでやめた方がいいと思います。地域での支え合いの変わりになるものの、ひとつとして腕章（腕章を付ける人は自由）を各店の入り口に置き、小さい事なら手伝えるボランティアをする。腕章をつけて買い物をしている人は買い物で困っている人の手伝いをする。特に小さい子供を連れた母親は助けたいです。買い物が済んだら出口で腕章をはずす。もっとたくさん書きたかったですけどこれくらいで・・・。（平尾地区・男性・50歳代）

子育て支援も専門家がその都度確認して困っている人がいたら、支援を待つのでなく地域で確認して、個人情報やいやな気持ちにさせないような見守り訪問などして優しく接して話を聞いて悩み事の解決につながるようになる方向が望ましいと思います。（天王地区・女性・60 歳代）

車いす、ベビーカーも入れる大きな公園。大きなアスレチックなど、入場料（ワンコインぐらいで負担の少ない）を支払って遊べるところがあったらいいなと思います。豊川の良いところを生かしながら、観光アピールもできたらいいなと思います。（牛久保地区・女性・40 歳代）

若い者たちが地元に根をはり、幼い子供たちの遊び声が聞こえる町。
「お年寄りを嫌わない子供」を育てる。そういう町に幸せを感じます。（御津南部地区・女性・60 歳代）

子育て支援が充実することで、市民が増え、様々なことがより豊かになっていくと思う。
・妊婦検診の補助金の増額
・子ども 1 人あたりに手当や教科・生活用品等の配布
・保活の充実
・女性（子どもがいる）が働きやすい環境等
子育てしやすい市には人が集まり、地域の交流の場も作りやすいと思う。そのような場の中で福祉や障害者支援、ボランティア活動等広めていけば未来につながっていくと思う。（牛久保地区・女性・20 歳代）

働きたいのに保育園に入れない！！学童に入れない！！とても心配です。（八南地区・男性・50 歳代）

コロナワクチンの件
小さい子供や赤ちゃんのいる母親が時間がとれず、予約がしづらかった。少しの間でも預かってくれる所がほしかった。（八南地区・女性・60 歳代）

コロナ災禍の中、高齢者や子供、障害者に支援はあると思いますが、子供のいない夫婦でも生活は苦しいです。子供のいる世帯ばかりに優遇しないでほしいです。皆平等にしてほしいです。同じように税金を払っているのですから、そこの所をよろしくお願いいたします。（地区不明・男性・40 歳代）

・豊橋の「ココニコ」の様な子供達が体を動かしたり頭を使ったりして遊べる場所を作ってほしい。公園や滑り台やブランコくらいしかない所ばかりで公園で遊ぶ気がしない。
・道路の白線を消えたままにしないでほしい。
・歩道のない所には歩道を作ってほしい。（一宮東部地区・女性・40 歳代）

まず豊川に来て 20 年弱ですが、昔ながらの町なので、小さい頃からのきずなが強く、他県の人からすると浮いてしまいます。その子供達も親が仲良しだからとかたまり、結果せまい考えの人ばかりです。あいさつしてもしない人が多いです。けれど苦情は、友人ひきつれてかたまりでたずねてくる人達です。子供が骨折して家の前でしゃがんでいても、声すらかけられず、後日「あーやっぱり折れてたんだねー。」とママ友どうしでもりあがる人達です。他県からきてすぐ保育園に入れたくてもたよる人がおらず働いていないと利用できないと言われ、就職しようとしても子供を預けていないと働き先が決まらなかったです。（御油地区・女性・40 歳代）

少子化の問題があるにも関わらず、公園などの整備があまりなされていないのが気になります。新しく公園を造る際にもっと住民の声を聞き、欲しい遊具等検討して欲しいと思います。雨の日でも遊べる屋内施設も充実させて欲しい。
豊川市にイオンモールの建設の予定があるが、できることで子どものたまり場になってしまったりすることも考えられるので、その辺の防犯対策も考えてほしいと思います。
イオンモールに入るお店についても住民の意見を聞いてもらいたいです。どのようなお店が豊川市民にとって必要か・・・検討して下さい。（国府地区・男性・30 歳代）

娘達の世代は、共働きをしないと生活が苦しいので、保育園で長い時間みてもらえるとか、保育園の数を増やす事が大事だと思います。児童館も同様に数を増やす、時間を長くみてもらえれば、正社員で働けるようになると思います。
男女平等と言っていますが、女性の負担が重く私の時代も疲れきっていました。子供の数が少ないのは仕方ない事です。（小坂井東地区・女性・60 歳代）

多胎に優しい街づくり（２人用ベビーカーが入りやすい扉、通路、用品の割引や補助制度等）ネグレクト予備軍の保護者への指導（昔よりも学級崩壊気味に感じる）子供と高齢者の触れ合える機会を増やす（保育園、学校と養護施設の交流会）
小・中学生のインフルエンザ予防接種を各学校で実施（個人で申し込みだと予約がとれないことがあるため）給食費等の未払い防止のため、児童手当との相殺を行う。（三蔵子地区・男性・40 歳代）

子供たちがお金がかからずに遊ぶことができる環境を増やしていただけるといいなと思います。市民プール、公園など。
家庭の事情で、塾にいけない、教育が十分に受けられない子供たちでも学習でき、学力をつけられるよう、高校、大学進学、就職ができるような環境があるといいと思いました。
病後保育、夜間保育の充実など（八南地区・女性・40 歳代）

夏休みや冬休みなどの児童クラブの開所時間が８時ではなく、７時３０分～など、もう少し早い時間にして欲しい。長時間のことなので、仕事との調整が難しい。（平尾地区・女性・40 歳代）

私は東部地域に住んで居ますが、自分が子供を育てる時代（今から 35 年位前）子供が中学へ行くようになったころ中学校の先生が東部の子はやさしい子が多いと言った事を覚えています。家庭環境の違いかなと思いました。まだそのころは三世代家族が多くおじいさん、おばあさんとの生活だったと思います。そういう生活の方が人の道なのかなと最近思います。（東部地区・男性・70 歳以上）

子供への虐待などの初期対応。（小坂井西地区・男性・40 歳代）

10　障害者サービス

現在、障害者の人が働く場所が少ない事によって障害の有る人にも自立する喜びをもってもらう為に就労支援をする場所、働きやすい場所を作る事。と思います。（小坂井西地区・男性・70 歳以上）

障害者の方が自立して一人で暮らしていく為のグループホームの設立、年金+事業所での収入等で少し余裕のある暮らしが出来るような豊川市の福祉を目指して頂きたいです。（三蔵子地区・男性・50 歳代）

豊川市の支援学校、とても古くて。あのような障害の方の施設を新しくきれいな建物にしてあげたいなといつも通るたびに思います。（豊川地区・女性・50 歳代）

１人親世帯や高齢者、障害者等弱者が住みやすい町づくりをお願いします。（長沢地区・女性・50 歳代）

①私個人的に目の手術（白内障）の時に一時的にゴミ出し少々遠いので１～２日位、ゴミ出しの件とても不安でした。なるべくお隣さんに依頼しましたが、何か良い知恵がありましたらなー！！
②一人生活になって早や７年になりましたが、だんだん年齢的に老いを感じるこの頃です。町内会の秋葉祭り、本日 12/12 夜の会合、夜 19：00 集まる公民館。これを昼間（明るい時間）出来たら私も参加出来たのに残念！！（御津北部地区・女性・70 歳以上）

11　交通・交通マナー

バスの本数が少なすぎる。出かけたくても手段がない。ひきこもりがちな生活になる。
→便利なバスがあれば外出が増えたり、地域行事の参加など意欲がでる。（豊地区・女性・30 歳代）

町のバスやタクシーを利用しやすくなる交通網の整備、高齢者と子どもが集う公民館の整備、小、中、高等学校ともつながるものがあるといいです。（八南地区・女性・50 歳代）

西部区画整理にて住宅が出来、十字路が多くなり見通しが悪く交通事故も多くなり心配です。カーブミラーの増設を希望します。（八南地区・女性・70 歳以上）

交通手段があまりにも粗末だと感じる。お年寄りが１人でも楽に買い物や楽しめる場所へ行けるようバスを充実させるべきだと思う。行く時間、帰る時間、あまりにも本数がないので行っても思う時間に帰れない。行きたい場所に行けない事が多い。今もバスはがらがらで運行しているが、税金のムダ使いであると感じている。動線をもっとよく考えて欲しい。どこに行きたいか良く考えて聞き取りした上でバスを走らせるべきだと思う。自分から外に出たいと感じる街作りをして欲しいと思う。
駅へ行くバスも電車にあわせて出して欲しい。そうすればもっとお年寄りは外へ向かえると思う。免許を取り上げないといけないなら暮らしやすくしてあげて欲しい。暮らしやすければ免許も返納できると思う。（御油地区・女性・40 歳代）

豊川市という地域特有の問題を重視した市政をお願いしたい。
・車が多いわりに道が狭い。
・車での移動が多い事による生活習慣病の多さ等。（御油地区・男性・60 歳代）

市民病院に通院しているが、高齢のため運転できず家族に仕事を休んでもらい送迎をしてもらっている。市民病院や買物などで送迎の福祉サービスがあるとありがたい。バスの本数も少ないしバス停までかなり遠いため、今のバスは利用できないので困っています。（三蔵子地区・女性・70 歳以上）

コミュニティバスの運用については、やはりバス運行の本数が少なすぎる。財政上の問題もあると思うが、老人の多い環境整備としては公共交通機関は必要である（自家用車免許の返納が多くなることも考えて）できれば必要ならば利用できるタクシーによる運用はできないのか？御津支所（役場）の必要性がますます大事になる時に廃止するのは決していいことではないので規模縮小でも残すべきかと思う。
イオンモールの実現がせまっているが、市民病院との競合は道路運用のためにはきびしいのではないか。あのあたりが混雑して救急搬送の弊害にはならないだろうか。まず道路の整備がなされるべきかと思うが、いかがですか。（御津南部地区・男性・70 歳以上）

巡回バスは大通りを通るのではなく民家のある所を通る様にしてほしいという話は友達とします。手を上げて来てほしい。そんなに真剣に考えた事はありませんでしたので、よく分からないのが本心です。（国府地区・女性・70 歳以上）

高齢になり移動手段に困ることも出てきます。運転ができなくなった時の事も不安に思います。（八南地区・男性・70 歳以上）

福祉巡回バスを１時間に数本しかない JR 愛知御津駅のダイヤに合わせて走ってもらえると雨天時 etc 子ども達が利用できて親の送迎が助かる。駅の送迎者多すぎ。
ＪＲ愛知御津駅は無人化したのに非常ボタンが無い。以前ホームで人が倒れ救急車を呼んだ際、ふみきりが鳴り止まず（電車が状況把握できず停車したため）救急車が接近出来ないという事案があった。不幸中の幸いにも倒れた方が軽症だったようだが、豊川市内の慢性化した国道一号線の渋滞を解決して欲しい。イオンモールが出来たら・・・さらに悪化しそう。住みにくい一方な気がする。（御津南部地区・女性・40 歳代）

町のバスやタクシーを利用しやすくなる交通網の整備、高齢者と子どもが集う公民館の整備、小、中、高等学校ともつながるものがあるといいです。（八南地区・女性・50 歳代）

12　情報提供

支援を必要としている人の情報共有が出来ると緊急時に支援出来るかもしれない。個人情報の取扱いは課題になるが、近くに支援を求める人がいれば助けることが出来る。（代田地区・男性・40 歳代）

経済的支援の拡充とサービスの情報提供（行政、民間）からその家庭において選択肢が増えると良いのではないでしょうか。（小坂井東地区・男性・40 歳代）

たくさんのジャンルのイベント（子供からお年寄りまで）ができたらいいなと思います。
情報交換、収集ができるサイトの充実。（牛久保地区・女性・40 歳代）

豊川市のメール登録率を上げ、福祉に関する情報を気軽に閲覧できるようにする（防災メールのような）（平尾地区・女性・20 歳代）

若い世帯に関して、もっとデジタルを活用できるようにしてほしい。（アプリ開発など）※部分最適ではなく、全体最適を考えるべき（金屋地区・女性・30 歳代）

13　生活安全(防犯・防災)

災害時避難場所がはっきり特定されていないように思います。又避難場所に行けたとしても満員で入れなかったとの声も多く、又戻らなければならない為、逆に危険にさらされてしまうと思います。今一度見直して検討した方が良いのではと思います。（御津南部地区・女性・70 歳以上）

最近河川の氾濫が多く見られるようになり、音羽川の長沢簡易郵便局の前で土砂が溜まり、台風等で水が出たら不安なので土砂を取り除いて頂くと安心です。（長沢地区・女性・20 歳代）

既存のホール（各地域に有る）は災害時や文化交流等、地域拠点になると思いますので存続を希望します。各地域で防災訓練等を行いますが、近くの広場でやるだけで実際避難所迄行く事は少ないと思います。自分の家から一番近い所の避難所が一番良いと思いますが、場所が狭くてその地区の人口では入りきれないような時は、他の地区へ自由に行く事は可能でしょうか。又一度広報にわかりやすく防災と避難所の説明等を載せてください。（小坂井西地区・女性・70 歳以上）

地震と噴火は連動していると言われており、複合災害が起きた場合、今のこのコロナ禍で避難要となった場合の避難先での過ごし方が全く分かっておりません（見えません）。避難先にこれだけの住人が入れるとはとても思えません。また密にもなります。
住宅が倒壊、半倒壊した場合、どうなるのでしょうか。具体的に何日分の食料支援が一世帯辺りにあるのかなど、示していただけると有難いです。具体的に数字で示していただけると！！（小坂井西地区・女性・40 歳代）

地域の防災に関する話し合い、校区ごとに地震が起きたら避難経路、安全対策本部があり細かく備蓄もしっかり確認して安心して避難出来る様にしてほしいです。（天王地区・女性・60 歳代）

私の住む街は高齢化が進んでいます。若者が少ないため防災、災害時には思うように動けない人たちが多いのでとても心配です。若者が街の将来のことを真剣に考えてくれるためのプログラムを是非確立してほしいです。（千両地区・男性・60 歳代）

各家庭に防災用の無線があればなあと思います。外のスピーカーでの放送は聞き取りづらいです。（火事の場合や行方不明の場合には特にそう思う）（代田地区・女性・60 歳代）

この先南海トラフ大地震が発生する事も予想され、まずはひとりひとりが備えや避難場所などを確認しておく事が大切だと思う。プライバシー保護などもあると思うが、地域の避難困難者を地区の役員が把握しておく事が重要だと思う。（代田地区・女性・60 歳代）

災害があった時、どこが避難場所か情報が入ってこないから、分からないから、ちゃんと情報がここ大木町全体に分かりやすくやってもらえたら、いざという時困らないからきっちりやってもらいたい。
他にも、たくさんありすぎるから、もっと１番は知ってる人、知らない人は、ここのアパートはいると思うから、やってもらいたい。
防災も情報が何も無いから、隣の住民は外国人が住んでるけど、避難場所はやっぱり知らないみたいだし。（地区不明・女性・40 歳代）

最近集中降雨で特に水害が多発しております。ニュースを見る度にもし住んでいる近くの川の堤防が決壊し氾濫したらと想像するととても恐く心配でなりません。どうか充分な対策を節にお願いしたいと思います。（代田地区・女性・70 歳以上）

何にでも活用できるのは、（市の）防犯カメラの設置を増やす。（金屋地区・女性・30 歳代）

今は災害もなく平和に暮らせていますが、いつ大きな災害が起きてもおかしくないと言われている中で本当に起こった時、皆が冷静な対応をとれるわけではないと思います。もし今大地震がきたら自分もどこへ避難すればいいか分からないし、パニックになると思います。そのような人が増えないためにも、このような活動をしている方々がいることをもっともっと広げて、災害時どこへ避難すればいいのかとか災害以外でも悩んでいる人がどこへ電話すればいいのかをチラシでもポスターでも、一言そのような人達の耳に届くだけでも全然違うと思います。自分もこのアンケートでこういった活動があるのを知れました。（豊川地区・男性・20 歳代）

現在住んでいる地域では災害時に最寄りの小学校が避難所に指定されているが、その小学校もハザードマップの危険な地域に指定されている。市からの説明会等でどこに避難すればよいのか確認したが明確な回答がなかった（赤坂小学校の地域）。どこに避難すればよいのか教えていただきたい。（赤坂地区・男性・40 歳代）

不審者対策の一環として街灯の暗いところを減らす（特に通学路の主な道路）（三蔵子地区・男性・40 歳代）

災害時に、まだあった事がないので、あまりピンと来ないですが、もし大きな災害が来た時、若い人たちは携帯などを見て随時リアルタイムで現状把握できますが、高齢の方たちは、そういったリアルタイムでの把握ができない方もいると思うので、そういう時の対策も考えていかなければいけないと思いました。（豊川地区・女性・30 歳代）

14　公共施設

公園の整備について。子どもが増えているのに、近所の公園はあまり整っていなく、小さな子どもを遊ばせるにはキケンなため、わざわざ遠くの公園に連れていかないといけない。草や遊具など、整えてもらいたい・・・もしくは新しい公園をつくってもらえたらありがたいです。（東部地区・女性・30 歳代）

公園の遊具の整備、赤塚公園アニアニまあるの時計（あやめ池）を正確に動かしてほしい。３ヶ月位止まっている。（千両地区・女性・70 歳以上）

桜ヶ丘ミュージアムのアスレチックのロープが短くなってしまっていて、遊びづらくなっているので、直してもらえると嬉しいです。稲荷公園に鉄棒がほしいです。（桜木地区・男性・40 歳代）

年配（福祉）世帯に関して→集まりやすい、設備の整った公民館を再建してほしい。
※災害時、避難場所はあっても、建物の耐久性（設備）に不安を覚える。
「あそこなら安心だ！！」という身の安全が確保できないから、心に余裕ができず、他人にまで気がまわらない。（金屋地区・女性・30 歳代）

福祉総合エリアみたいなものがあれば嬉しいです。公立特別老人養護施設、リハビリ兼ねられる公園、障害者センター、就労施設などが隣接しているような京都のふれあいエリアの様な所が。（小坂井西地区・男性・60 歳代）

15　行政ニーズ

地域福祉を行政側から考えがちだが本質的な事は個人的なものであったり、国の政策のものであったりするので、地域行政で解決するのは非常に難しいと思う。
支援を必要としている者の成長以外に、問題解決はなく、そのための支援、援助には行政も関わられるのであれば良いが、本当に成長を望んで、実際に行動しているものは行政の力がなくとも道が開けると思う。依頼心や被害者意識のものを支援したところで、それに携わる人材が疲弊するだけだ。支援を必要としている人に対して運動で体力、食生活も非常に悪いので、食育調味料など住生活の基盤の重要性が理解できれば支援は必要なくなるのではと思う。（御油地区・男性・40 歳代）

私は夕方～夜に勤務しています。必然的に周りの方と稼働時間がずれます。だから 24 時間対応可の行政サービスが（なにか）あればいいなと思うことがあります。（八南地区・女性・50 歳代）

行政と住民の意識考え方の違いをもっと把握すべき（地区不明・男性・30 歳代）

市役所の新築を考えてはどうか？（あまりにも古すぎる）（一宮東部地区・男性・70 歳以上）

アンケートもいいと思いますが、行政の人が直接家庭を回って意見やわからないことを聞いてくれてもいいのではと思います。アンケートに意見や思うことを書いて送り返しても何処の誰かもわからなければこちらの悩みの解決にはならないのではと思います。（一宮西部地区・男性・50 歳代）

16　その他

今回コロナの件で、予防接種の利用について、提示している病院どこも定期受診していないと予約がとれません。普通健康で外に働いている人、学生にうつべきではないでしょうか？医療者としていわせてもらえば、まず出歩く人たちから優先してうたないと外に広がるに決まってると思います。感染ルートの調査も、他の県より遅れています。（御油地区・女性・40 歳代）

①市内をきれいにする事です。
②空地（市有地）の有効利用（豊川地区・男性・70 歳以上）

空き家、空きハウスの利用、活用（御津南部地区・男性・40 歳代）

アンケートが多く記入に時間がかかります。子供が小さいので半分くらいだと助かります。（御津北部地区・女性・30 歳代）

もう少し質問を減らして下さい。多すぎる。（豊川地区・女性・70 歳以上）

・地域との関わりも大事だが、その前にまず市民が経済的に安心して暮らしてゆける様にする方が大切だと思う。その為にも安心して働ける環境を作るべくブラック企業の撲滅、50 歳以上の雇用拡大等を強く望む。又、失業者に対する各種公的支払い費用の補助や免除の拡大等も合わせてもっと積極的に行って欲しい。
・地元企業の積極的かつ優先的に地元市民の採用の推進を強く求めます。
・いつ起こるかわからない災害の心配より目先の生活の安定の方が最重要である。その為の対策を一刻も早く講じて欲しい。
・とにかくブラック企業の取締を早急に行って労働者が安心して働ける様にする事が重要だと思う。（中部地区・男性・50 歳代）

このように、ご自由に書いてくださいとあっても、なかなかわかりやすく、書きたい事を書ききる事は難しいので、聞かれれば真摯に答えようと思います。（中部地区・男性・50 歳代）

豊川市　地域福祉に関する市民アンケート

日頃より、市民の皆様には豊川市の福祉行政の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域の福祉活動にも大きな影響を及ぼしています。そのような中、豊川市では、地域の実情に即した地域の福祉の推進をめざし、第４回目となる「地域福祉計画」の策定を予定しています。

この計画に市民の皆様のご意見や実情を反映させるため、18 歳以上の方から無作為に選んだ 2,000 人を対象にアンケート調査を実施させていただくことといたしました。

ご多用中とは存じますが、アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、このアンケートはすべて統計的に処理しますので、回答された方が特定されることはございません。

令和３年 11 月

豊川市長　竹本　幸夫

ご記入にあたってのお願い

1　このアンケートは、あて名に記載されているご本人がご回答ください。ご本人がご記入できない場合は、ご家族の方などがご本人の意思を確認の上、ご記入ください。
2　設問には、令和３年 11 月１日現在の内容でご回答ください。
3　ご回答は、設問の案内にしたがって、該当する番号に○を付けてください。
4　調査票は、同封の返信用封筒に入れて、12 月 15 日（水）までにご投函ください。（切手不要）

※このアンケート調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

豊川市役所　福祉部　福祉課
TEL:(0533)95-0231
FAX:(0533)89-2137

１　あなたご自身のことについておたずねします

問１　性別を記入してください。（いずれかに○）

１．男性	２．女性	３．その他

問２　年齢はおいくつですか。令和３年 11 月１日現在でお答えください。

満（　　）歳

問３　世帯の人数を教えてください。

世帯の人数は（　　）人

問４　家族構成を教えてください。（○は１つ）

１．ひとり暮らし	２．夫婦のみ
３．親とあなたの二世代	４．あなたと子の二世代
５．三世代世帯（親と子と孫）	６．その他（　　）

問５　ご職業を教えてください。（○は１つ）

１．自営業（農林漁業、商工業自営など）	２．会社員
３．公務員・教員・団体職員	４．派遣社員
５．パート・アルバイト・内職	６．学生
７．専業主婦（主夫）・家事手伝い	８．無職（年金生活含む）
９．その他（　　）	

問６　住んでいる地域（小学校区）はどちらですか。わからない場合は、町名をお書きください。（○は１つ）

１．豊川	２．桜木	３．豊	４．東部	５．牛久保
６．中部	７．天王	８．八南	９．平尾	10．千両
11．国府	12．御油	13．代田	14．桜町	15．金屋
16．三蔵子	17．一宮東部	18．一宮西部	19．一宮南部	20．赤坂
21．長沢	22．萩	23．御津北部	24．御津南部	25．小坂井東
26．小坂井西	27．わからない（町名を記入：　　）			

問７　町内会に加入していますか。（どちらかに○）

１．加入している	２．加入していない

問８　現在の場所に何年ぐらいお住まいですか。（○は１つ）

１．１年未満	２．１～５年未満	３．５～10 年未満
４．10～20 年未満	５．20 年以上	６．わからない

問９　お宅の（経済的な）暮らし向きをどう感じていますか。（○は１つ）

１．かなりゆとりがある	２．ややゆとりがある
３．ゆとりはないが苦しくはない	４．やや苦しい
５．かなり苦しい	６．わからない、何とも言えない

２　地域との関わりや地域に対する意識についておたずねします

問10　お住まいの地域は、あなたにとって住みやすいと思いますか。（○は１つ）

１．住みやすい	２．どちらかといえば住みやすい
３．どちらともいえない	４．どちらかといえば住みにくい
５．住みにくい	

問11　近所の方と、どの程度のお付き合いをしていますか。（○は１つ）

１．家を行き来するなど親しく付き合っている	２．顔が合えば立ち話をする程度
３．あいさつをする程度	４．ほとんど付き合いはない

問12　近所の人と相談し合う、助け合うことについて、どのように思いますか。（○は１つ）

１．必要である	２．ある程度必要である	３．あまり必要でない
４．全く必要でない	５．わからない	

問13　ここ５年間に地域の行事（祭や盆踊り等）や活動（清掃等）にどの程度参加しましたか。（○は１つ）

１．ひんぱんに参加している	２．ときどき参加している
３．あまり参加していない　→　問 13-1 へ	４．参加したことがない　→　問 13-1 へ

問 13 で「３．あまり参加していない」「４．参加したことがない」と答えた方にお聞きします

問 13-1　地域の行事や活動に（あまり）参加したことがない理由を教えてください。（○はいくつでも）

１．自分以外の家族が参加しているから	２．気の合う人や話の合う人がいないから
３．引っ越して間もないから	４．情報が入ってこないから
５．参加するきっかけがないから	６．仕事や家事・育児・介護で忙しいから
７．自分の時間を大事にしたいから	８．活動内容に興味・関心がないから
９．身体の具合が悪いから	10．その他(　　)

３　地域での支え合いや福祉への関心についておたずねします

問14　地域での支え合い活動のうち、どれに関心がありますか。（○はいくつでも）

１．子育てへの支援	２．高齢者への支援	３．障害者への支援
４．ひとり親家庭への支援	５．引きこもりへの支援	６．健康づくりへの支援
７．災害時の助け合い	８．特にない	９．その他(　　)

問15　近所にひとり暮らしの高齢者や障害者、ひとり親家庭など、何らかの支援を必要としている人がいた場合、どのように手伝いたいと思いますか。（○は１つ）

１．できる限りの手伝いをしたい	２．頼まれたことは手伝いたい
３．簡単なことなら手伝いたい	４．グループ活動の一員として手伝いたい
５．手伝いたいが、ためらう	
６．誰かが手伝うはずなので、自分が手伝う必要はない	
７．福祉サービスを利用すればよいので、自分が手伝う必要はない	
８．その他(　　)	

問16　近所で困っている人がいた場合、「手助けできること」はどれですか。
（あてはまるものすべてに○）

1．安否確認の声かけ	2．話し相手	3．悩み事、心配ごとの相談
4．ちょっとした買い物	5．ちょっとした家事(電球交換など)	6．ごみ出し
7．短時間の子どもの預かり	8．子育ての相談	9．保育園・幼稚園への送迎
10．外出先(買い物や通院など)への送迎	11．その他（　　）	
12．特にない		

問17　実際に自分が困った場合、近所の人に「手助けしてほしいこと」はどれですか。
（あてはまるものすべてに○）

1．安否確認の声かけ	2．話し相手	3．悩み事、心配ごとの相談
4．ちょっとした買い物	5．ちょっとした家事(電球交換など)	6．ごみ出し
7．短時間の子どもの預かり	8．子育ての相談	9．保育園・幼稚園への送迎
10．外出先(買い物や通院など)への送迎	11．その他（　　）	
12．特にない		

問18　住みやすい地域を実現していく上で、問題となることは何だと思いますか。(○は３つまで)

1．近所付き合いが減っていること	2．地域で交流する機会が少ないこと
3．日中、出かけている人が多いこと	4．地域活動への若い人の参加が少ないこと
5．プライバシーが守られないこと	6．困っている人への理解が低いこと
7．校区・町内会等の活動などへ参加しにくいこと	
8．住みよい地域社会を実現する仕組みがないこと	
9．助け合い、支え合いは必要ないと思う人が多いこと	
10．地域に関心のない人が多いこと	11．その他（　　）

問19　誰もが安心して暮らしていくために、特に必要だと思うことは何ですか。(○は３つまで)

1．見守りや安否確認	2．ボランティア活動の充実
3．福祉教育の充実	4．福祉サービスの情報提供の充実
5．子育て支援の充実	6．高齢者支援の充実
7．障害者支援の充実	8．医療の充実
9．健康づくりや介護予防の充実	10．生きがいづくり・社会参加の促進
11．生涯学習や生涯スポーツの充実	12．防災・防犯体制の充実
13．道路や施設のバリアフリー化の推進	14．相談体制の充実
15．災害時の避難誘導・助け合い	16．地域活動やボランティア活動に取り組む人材の育成
17．福祉サービス利用者の苦情解決の仕組	18．福祉サービスの質を評価するための仕組
19．判断能力に支障がある人への日常生活支援の充実	20．福祉施設の整備
21．その他（　　）	

問20　社会福祉協議会※を知っていますか。(○は１つ)

1．社会福祉協議会があることを知っているし、どのような活動をしているかも知っている
2．社会福祉協議会があることを知っているし、どのような活動をしているかは少し知っている
3．社会福祉協議会があることは知っているが、どのような活動をしているかは知らない
4．社会福祉協議会があることも活動内容も知らない

※社会福祉協議会：略して「社協」ともいう。地域福祉の推進を目的として、地域住民や福祉活動団体、福祉事業者等の参加によって構成される民間の団体。地域の見守りのしくみづくりやボランティア活動の支援、福祉サービスの提供等、様々な場面で地域の福祉増進に取り組んでいる。

問21　民生委員・児童委員※を知っていますか。(○は１つ)

1．民生委員・児童委員がいることを知っているし、どのような活動をしているかも知っている
2．民生委員・児童委員がいることを知っているし、どのような活動をしているかは少し知っている
3．民生委員・児童委員がいることを知っているが、どのような活動をしているかは知らない
4．民生委員・児童委員がいることも活動内容も知らない

※民生委員・児童委員：自らも地域住民の一員として、それぞれが担当する区域において、住民の生活上のさまざまな相談に応じ、行政をはじめ適切な支援やサービスへの「つなぎ役」としての役割を果たすとともに、高齢者や障害者世帯の見守りや安否確認などにも重要な役割を果たす人。

4　ボランティア・地域活動についておたずねします

問22　これまでに「参加したことがある」ボランティア・地域活動はどれですか。
（あてはまるものすべてに○）

1．子育てや子どもへの支援　2．高齢者への支援　3．障害者への支援
4．自然環境の保護（里山保全等）　5．清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動
6．祭りやイベント　7．募金活動　8．災害ボランティア
9．文化、芸術、スポーツの振興　10．外国人への支援　11．健康づくり
12．地域防犯・交通安全　13．その他（　　）
14．参加したことがない　→　問 22-1 へ

問 22 で「14．参加したことがない」と答えた方にお聞きします

問 22-1　ボランティア・地域活動に参加したことがない理由を教えてください。（○は１つ）

1．仕事や家事で忙しいから　2．体が弱い、病気がちであるから
3．高齢者・障害者や病気の家族の世話をしているから　4．子育てなどで忙しいから
5．活動の内容や参加の方法がわからないから　6．相談するところがない・わからないから
7．経済的にゆとりがないから　8．興味や関心がないから
9．その他（　　）

問 22 で「14．参加したことがない」以外を答えた方にお聞きします

問 22-2　参加経験の有無にかかわらず「今後(も)参加してみたい」ボランティア・地域活動はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1．子育てや子どもへの支援　2．高齢者への支援　3．障害者への支援
4．自然環境の保護（里山保全等）　5．清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動
6．祭りやイベント　7．募金活動　8．災害ボランティア
9．文化、芸術、スポーツの振興　10．外国人への支援　11．健康づくり
12．地域防犯・交通安全　13．その他（　　）
14．参加したいものがない

ここからは全ての方にお聞きします

問23　ボランティア・地域活動が活発になるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
（○は３つまで）

1．地域の人同士の付き合いがあること　2．活動に気楽に参加できる雰囲気があること
3．活動の内容がよく知られていること　4．活動の意義がよく理解されていること
5．家族や職場の理解があること　6．共に活動する仲間や友人が多いこと
7．活動したい人に活動の場が紹介されること
8．活動の内容を学んだり体験したりする機会があること
9．活動経費の援助があること　10．活動拠点などの便宜が図られること
11．表彰制度があること　12．相談できる窓口があること
13．活動のリーダーが育成されること　14．特にない
15．わからない　16．その他（　　）

5　成年後見制度についておたずねします

問24　成年後見制度※について知っていますか。（○は１つ）

1．知らない　2．知っているが、利用したことはない
3．制度を利用したことがある　4．その他（　　）

※成年後見制度とは、認知症や知的障害、精神上の障害などによって判断能力が十分ではない方（本人）の財産管理や、施設入所・入院の契約手続きなどを後見人が法律的に支援する制度です。本人の権利を守る後見人は、家庭裁判所に本人又は親族が申立てを行うことにより選任されます。

問25　あなた（または、まわりの方）の判断能力が不十分となった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。（○は１つ）

1．利用したいと思う　→問 25-1 へ
2．利用したくない　→問 25-3 へ
3．わからない　→問 26 へ

問 25 で「1．利用したいと思う」と答えた方にお聞きします

問 25-1　成年後見制度について、相談できる窓口を知っていますか。（○はひとつ）

1．知っている　→　問 25-2 へ
2．知らない　→　問 26 へ

問 25-1 で「1．知っている」と答えた方にお聞きします

問 25-2　成年後見制度について、あなたが知っている相談窓口はどこですか。（○はいくつでも）

1．家庭裁判所	2．弁護士	3．司法書士
4．行政書士	5．法テラス	
6．公益社団法人成年後見センター　リーガルサポート　愛知支部		
7．一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター愛知県支部		
8．愛知県社会福祉士会	9．名古屋税理士会成年後見支援センター	
10．市役所	11．社会福祉協議会	12．成年後見支援センター
13．特定非営利法人東三河後見センター	14．地域包括支援センター（高齢者相談センター）	

問 25 で「2．利用したくない」と答えた方にお聞きします

問 25-3　あなたが、成年後見制度を利用したくない理由を教えてください。（○は１つ）

1．制度をよく知らないから、利用したいと思わない
2．手続きが面倒そうなので、利用したいと思わない
3．費用面の負担が気になり、利用したいと思わない
4．その他（　　）

6　暮らしの中での不安やその相談相手などについておたずねします

問26　あなたは暮らしの中で、どのような悩みや不安をお持ちですか。（○はいくつでも）

1．健康に関すること	2．子どもに関すること
3．家族・親類に関すること	4．介護に関すること
5．将来のこと	6．近所付き合いに関すること
7．仕事に関すること	8．住まいに関すること
9．収入や家計に関すること	10．防犯に関すること
11．災害に関すること	12．暮らしの環境に関すること
13．外出時の移動手段に関すること	14．特にない
15．その他（　　）	

問27　悩みや不安について、あなたは誰（どこ）に相談していますか。（○はいくつでも）

1．家族・親類	2．近所の人・友人・ボランティア	
3．町内会・自治会	4．民生委員・児童委員	5．職場の人
6．市役所・支所	7．社会福祉協議会	8．保健所・保健センター
9．地域包括支援センター	10．保育園・幼稚園・学校	11．病院の医師・看護師
12．福祉サービス事業所	13．コミュニティソーシャルワーカー※	
14．インターネットや SNS※※	15．相談相手がいない	16．特に相談することはない
17．その他（　　）		

※コミュニティソーシャルワーカー：略して「CSW」とも記載される。援護を必要とする高齢者や障害者、子育て中の親などに対して、見守りや課題の発見、相談援助、必要なサービスや専門機関へのつなぎをするなど、要援護者の課題を解決するための支援を行う。
※※SNS：Social Network Service（ソーシャルネットワークサービス）の略称。登録された利用者同士が交流できるウェブサイトの会員制サービスのこと。友人同士や、同じ趣味を持つ人同士が集まったり、近隣地域の住民が集まったりと、ある程度閉ざされた世界にすることで、密接な利用者間のコミュニケーションを可能にしている。

問28　福祉サービス（子育て、高齢者、障害者等）についての情報を、どこから入手していますか。（○はいくつでも）

1．家族・親類	2．近所の人・友人	3．職場の人
4．民生委員・児童委員	5．地域の活動団体やサークル	6．ボランティア団体
7．新聞、テレビ、ラジオ、雑誌	8．町内会の回覧板	
9．市役所や社会福祉協議会の広報誌	10．インターネットや SNS	
11．市役所などの窓口・掲示板	12．福祉サービス事業所	
13．その他（　　）		

問29　福祉サービスに関する情報を、内容的にみて、どの程度入手できていると思われますか。（○は１つ）

1．十分に入手できていると思う	2．ある程度は入手できていると思う
3．あまり入手できていないと思う	4．ほとんど入手できていないと思う
5．わからない	

7　災害時における助け合いについて

問30　あなたは、避難行動要支援者支援制度※について、どの程度知っていますか。
（○はひとつ）

1．事業内容を知っている	2．事業名は知らなかったが、内容は知っている
3．事業名は聞いたことあるが、内容は知らない	4．事業名も内容もよく知らない

※避難行動要支援者支援制度とは、災害時に自力で避難が困難な方に対し、日頃からの見守りと住民同士の繋がりを築き、災害時に迅速かつ適切に避難支援ができるようにするもの。

問31　あなたは災害が起こった場合に、支援が必要ですか。（どちらかに○）

1．必要　→　問 31-1 へ	2．不要　→問 31-2 へ

問 31 で「1．必要」と答えた方にお聞きします

問 31-1 あなたは災害が起こった場合に、避難するために行政や消防以外で誰を頼りにしますか。
（○はいくつでも）

1．家族・親類	2．近所の人・友人	3．町内会・自治会
4．民生委員・児童委員	5．ボランティア・自主防災組織	
6．頼れる人はいない	7．その他（　　）	

問 31 で「2．不要」と答えた方にお聞きします

問 31-2　災害が起こった場合に、避難するために支援が必要な近所の方に対して、あなた自身ができることはありますか。（○はひとつ）

1．誘導・支援しながら避難できると思う
2．ほかの人と一緒であればできると思う
3．自分や家族のことで精いっぱいで、ほかの人の支援はできないと思う
4．どのような場合でも支援はできないと思う
5．わからない
6．その他（　　）

ここからは全ての方にお聞きします

問32　災害への備えとして、あなた自身には何が必要だと思いますか。（○は３つまで）

1．災害に対する学習会	2．日常における地域のコミュニケーション
3．地域で行われる避難訓練	4．道路の整備、危険箇所や避難場所の情報
5．地域における支援体制の情報	6．要支援者、支援者相互の情報伝達体制の構築
7．自主防災組織や災害ボランティア	8．その他（　　）

問33　災害が起こった場合に支援が必要な方の情報は、どのように共有されるべきだと思いますか。（○はひとつ）

1．支援が必要な方の合意のうえ、支援ができる特定の近所の方のみと共有する
2．支援が必要な方の合意のうえ、支援ができる地域内の多くの方と共有する
3．個人情報なので、地域内の方と共有すべきではない
4．わからない
5．その他（　　）

8　新型コロナウイルス感染症の影響による生活の変化についておたずねします

問34　新型コロナウイルス感染症の影響により、生活に何らかの変化がありましたか。
（○はいくつでも）

1．外出の機会が減った	2．収入が減り生活が苦しくなった
3．育児や介護の負担が増えた	4．近所とのコミュニケーションが減った
5．友人とのコミュニケーションが減った	6．家族とのコミュニケーションが増えた
7．地域や学校などでの会合が減った	8．運動する機会が減った
9．趣味に費やす時間が増えた	10．オンラインでの会話が増えた
11．その他（　　）	12．特にない

問35　新型コロナウイルス感染症の影響により、隣近所の住民同士のコミュニケーションや自治会など地域の組織に関わる機会は変化しましたか。（○はひとつ）

1．以前と比較して機会が大きく減少した	2．以前と比較して機会が少し減った
3．以前と比較して大きく変わらない	4．以前と比較して機会が少し増えた
5．以前と比較して機会が大きく増えた	

問36　新型コロナウイルス感染症の影響により、あなたの気持ちや身体にどのような変化がありましたか。（○はいくつでも）

1．感染するかもしれないという不安がある
2．今まで楽しめていたことが楽しめなくなった
3．家族・親族や友人などとの交流を避けるようになった
4．運動の機会が減り、体力が低下した
5．毎日の生活がつらいと感じた
6．家族の大切さを再確認することができた
7．家族に対してイライラすることが増えた
8．働き方の見直しができた
9．気持ちの余裕ができた
10．その他（　　）
11．特にない

9　これからの地域福祉についておたずねします

問37　市内には、さまざまな分野の困りごとの相談窓口があります。次のうち、あなたが知っている相談窓口はどれですか。（○はいくつでも）

1．高齢者に関する相談窓口
2．障害者に関する相談窓口
3．育児に関する相談窓口
4．女性の悩みに関する相談窓口
5．人権に関する相談窓口
6．消費生活に関する相談窓口
7．労働・就労に関する相談窓口
8．生活困窮に関する相談窓口
9．こころの健康に関する相談窓口
10．法律に関する相談窓口
11．その他（　　）

問38　福祉に関する相談窓口について、どのような窓口であれば相談しやすいと思いますか。（○はいくつでも）

1．他の機関などと連携し、最適な相談窓口を紹介してくれる
2．行きつけの場所や地域の身近な場所で気軽に相談ができる
3．相談内容に関わらず、一つの窓口で相談ができる
4．社会福祉士など専門性をもつ相談員に相談ができる
5．土日祝日や夜間など都合のよい時間に相談ができる
6．他人に会うことなくインターネットなどで相談ができる
7．その他（　　）

問39　あなたが優先的に解決すべきと考える課題はなんですか。（○は５つまで）

1．高齢者のみ世帯の安否確認
2．認知症の人や家族への支援
3．障害者が地域で自立して生活するための支援
4．障害者に対する地域の理解、交流の促進
5．生活習慣病等を予防するための健康づくりへの取組
6．働きながら子どもを育てることができる環境の整備
7．子どもの教育や将来のことを相談できる環境の整備
8．子どもの貧困対策
9．ヤングケアラー（家族の介護や身の回りの世話を担う18歳未満の子ども）の支援
10．高齢者、障害者、子どもなどへの虐待防止
11．孤立死（孤独死）の防止
12．仕事につけない人への就労支援
13．生活が苦しい世帯への支援
14．社会から孤立している人（引きこもり等）の社会への復帰支援
15．80歳代の親が50歳代の子どもを支える8050問題
16．災害が発生した際の安否確認や避難誘導
17．管理されていない空き家・空き地の適正な管理
18．ゴミ屋敷問題の解決
19．犯罪や非行の防止
20．振り込め詐欺など消費者被害の防止
21．その他（　　）

問40　地域福祉を推進させていく上で、行政と地域住民の関係について、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。（○は１つ）

1．まず家庭や地域住民の中で助け合い、解決できないことは行政が支援すべきである
2．行政と住民が協力し合い、ともに取り組むべきである
3．行政だけでは解決できない問題についてのみ、住民は協力すればよい
4．地域福祉を推進する役割は行政にあるので、住民は特に協力することはない
5．その他（　　）
6．わからない

問41　あなたの住む地域における防犯に関する取り組みとして、どのようなことが重要だと思いますか。（○は３つまで）

1．日ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い
2．危険箇所の把握
3．地域の要支援者（ひとり暮らしの高齢者等）の把握
4．地域活動（防犯パトロール等）への参加・支援
5．地域と学校、保護者の連携強化
6．犯罪に関する学習会
7．回覧板などによる犯罪に関する情報提供
8．その他（　　）

問42　あなたの住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。（○は３つまで）

1．日ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い　2．危険箇所の把握
3．地域での避難訓練　4．地域における支援体制の構築
5．防災の学習会　6．地域の要支援者の把握
7．要支援者に対する情報伝達体制の構築　8．災害ボランティアの育成
9．要支援者向けの避難施設（車椅子対応トイレや乳幼児対応設備があるなど）の確保
10．その他（　　）

問43　地域での支え合い、福祉のまちづくりに関して思うこと、これから「こうしたらいい」、「こうあったらいい」と思うことがありましたら、ご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

令和３年12月15日（水）までに、同封の返信用封筒に入れて、返送してください。

豊川市

地域福祉に関する市民アンケート調査結果
報告書

発行日　令和４年２月
発　　行　豊川市
編　　集　豊川市 福祉部 福祉課
住　　所　〒442-8601
　　愛知県豊川市諏訪１丁目１番地
電　　話　0533-95-0231
ＦＡＸ　0533-89-2137